

1388 ケシ科

〔和名〕 ジロボウエンゴサク

〔学名〕 *Corydalis decumbens* (Thunb.) Pers.埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

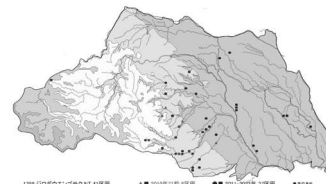
【評価所見】今回36地点で個体数6,000程度確認された。自然遷移、管理放棄、園芸採取、森林伐採、道路工事が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】草原や林縁に生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As50763 (1999)、SMNH-As51634 (2001) など。文献：牧野2021 (さいたま市)、かわごえ環境ネット2021 (川越市)、岩田・林2020 (毛呂山町宿谷の滝)、内田2020 (東松山市)、木村2020 (さいたま市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	◎	○	○	○



1389 ケシ科

〔和名〕 ツルケマン (ツルキケマン)

〔学名〕 *Corydalis ochotensis* Turcz.埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 EN
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 EN

【評価所見】前回調査で確認された個体数は1,000未満だったが、今回の調査では確認できなかった。本種の生育地はシカ食害のある地域のため、シカ食害の影響が大きいと考えられる。シカ食害や踏みつけ、自然遷移が主な危険要因と考えられる。

【県内生育状況】かつては、山地帯の林縁に生育していた。

【特記事項】国内分布は本州 (東北・関東・中部) で限定的。標本：SMNH-As8836 (1968)、SMNH-As8835 (1967)。文献：岩田・林2021 (小鹿野町)、岩田・林2020 (小鹿野町)、須田ほか2019 (県内石灰岩地) 他。過去の文献の記録では、キケマン属で開花時期の近いナガミノツルケマンと混同されている恐れがある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1390 ケシ科

〔和名〕 キンキエンゴサク

〔学名〕 *Corydalis papilligera* Ohwi埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 なし

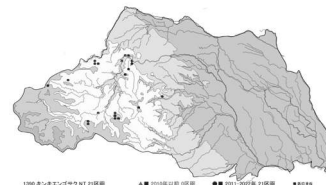
【評価所見】今回25地点・10,000個体超が確認された。シカ食害、自然遷移、森林伐採が大きな危険要因となっている。また管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】林縁や草原に生育する。

【特記事項】国内分布は本州 (関東, 中部, 近畿)。本種はヤマエンゴサクに似るが、種子にスパイク状突起があるのが特徴である。本多 (2022) によれば、ヤマエンゴサクの果実は狭卵形で、花卉のへこみは青く縁どられるのに対して、本種の果実は広卵形で、花卉のへこみは白く縁どられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○	○				



1391 ケシ科

〔和名〕 ナガミノツルケマン (ナガミノツルキケマン)

〔学名〕 *Corydalis raddeana* Regel埼玉カテゴリー 2024 EN 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリー 2020 NT

【評価所見】確認された二次メッシュは1区画、地点数は1、個体数は100未満であった。シカ食害や踏みつけ、自然遷移が主な危険要因と考えられる。

【県内生育状況】林縁に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As8863 (1984)、SMNH-As8864 (1986)。過去の文献・標本等の記録では、キケマン属で開花時期の近いツルケマンと混同されている恐れがある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1392 ケシ科

(和名) ヤマブキソウ

(学名) *Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kündig

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

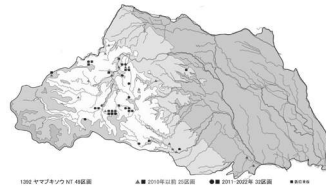
【評価所見】前回17地点で800個体程度の報告があり、今回は44地点で9,000個体程度報告された。シカやその他の動物食害、園芸採取、自然遷移、土地造成が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】林床や林縁に群生する。

【特記事項】文献：岩田2021（武甲山）、岩田・林（秩父市・皆野町親鼻～野上駅・城峰山）、木村・森廣2014（名栗）、平ほか2005（皆野町城峯山）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○	○	○			



1393 ケシ科

(和名) オサバグサ

(学名) *Pteridophyllum racemosum* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回10地点・250個体超の報告があり、今回は17地点で個体数2,000超が確認された。シカ食害、森林伐採、踏み付け、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】針葉樹林の林床や林縁に生育する。シカ食害により、大型個体は減少している。

【特記事項】国内分布は本州中北部亜高山帯でまれ。文献：岩田・林2020（豆焼沢・樺小屋～地藏岩・和名倉山・雁峠・雁坂峠～雁峠）、矢島ほか2017（十文字小屋）、五十嵐・岩田2005（東大秩父演習林）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1394 ツツラフジ科

(和名) コウモリカズラ

(学名) *Menispermum dauricum* DC.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

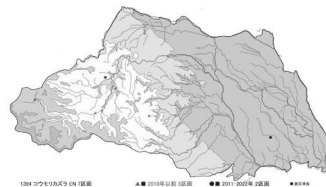
【評価所見】前回6地点・70個体程度の報告があり、今回は3地点で100個体程度確認された。森林伐採は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】藪や明るい林地に生育する。

【特記事項】文献：木村2020（さいたま市）、須田・木山2017（越生町）、清水2008（新座市）、長瀬町教育委員会1997（長瀬町）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○					○	



1395 ツツラフジ科

(和名) ツツラフジ

(学名) *Sinomenium acutum* (Thunb.) Rehder et E.H.Wilson

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 VU
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

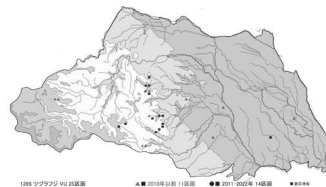
【評価所見】前回5地点で10個体程度の報告があり、今回は14地点で700個体程度確認された。自然遷移が大きな危険要因となっている。また道路工事も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】林縁、石灰岩地帯の林縁や路傍に生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部・北陸以西。文献：小川エナジー合同会社2021（小川町）、岩田・林2020（岩殿観音）、牧野・山下2019（飯能市蟬指）、山下・牧野2018（飯能市吾野）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		◎	○	○		○	



1396 メギ科

〔和名〕ヒロハヘビノボラズ

〔学名〕*Berberis amurensis* Rupr. var. *amurensis*

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

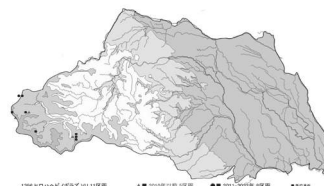
【評価所見】確認された地点数は8、個体数は1,000未満で前回も1,000未満だった。自然遷移が主な危険要因と考えられる。確認できた個体の多くは成木であり、実生はあまりみられなかった。各生育地の更新状況を注視する必要がある。シカ被害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また森林伐採も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】石灰岩地で多く確認された。

【特記事項】特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1397 メギ科

〔和名〕イカリソウ

〔学名〕*Epimedium grandiflorum* C.Morren var. *thunbergianum* (Miq.) Nakai

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

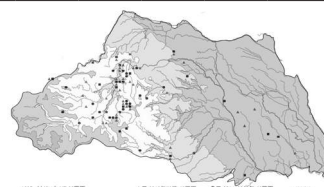
【評価所見】確認個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。山地帯から丘陵帯にかけて、県内の広い地域で確認されている。台地や丘陵帯の生育地の一部では保護されている。今後の動態に注視する必要がある。園芸採取、シカやその他の動物被害、森林伐採、管理放棄が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】落葉樹林に生育する。

【特記事項】一部の生育地では保護されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○	○	○	○	○	



1398 キンポウゲ科

〔和名〕キタザワブシ

〔学名〕*Aconitum nipponicum* Nakai subsp. *micranthum* (Nakai) Kadota

埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 なし
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

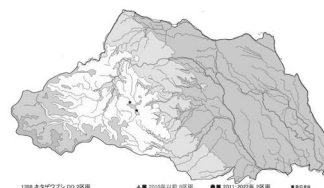
【評価所見】本県ではこれまで本種の信頼できる記録は残されていなかったが、標本及び現地での再検討により、確実な生育地が確認された。データが不足しており継続して確認が必要。シカの嗜好性植物であるが、花や若葉が時に被害される上、食害で顕在化している林床の希薄化、土壌の乾燥化、土壌浸食の進行により生育環境が悪化している。また、ホソバトリカブトとの雑種形成によっても減少していると考えられる。

【県内生育状況】沢沿いなど湿り気のある林床に生育し、石灰岩地にもみられる。本種は本来亜高山帯の雪潤草原や開けた明るい沢筋に生育する種であるが、本県では積雪が少ない上、深いV字谷が発達し、生育適地が元々限定的である。

【特記事項】国内分布は中部地方周辺。本種の花柄には屈毛のみが生え、茎上部には屈毛が生えてやや白く見え、葉と裂片は深裂し、欠刻片が細い。ホソバトリカブトの花柄には開出毛と腺毛のみが生える。またホソバトリカブトと本種との雑種は花柄に開出毛や腺毛が少なからずあるか、屈毛がやや開出する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1399 キンポウゲ科

(和名) アズマレイジンソウ

(学名) *Aconitum pterocaule* Koidz. var. *pterocaule*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

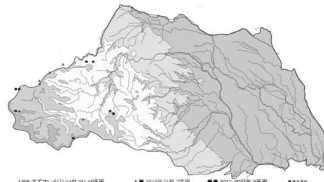
【評価所見】 前回は8地点で500個体程度の報告があり、今回は4地点で個体数200未満とやや減少気味である。シカ被害、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林内から林縁や草原に生育する。

【特記事項】 文献：岩田2021（武甲山）、岩田・林2020（両神山・豆焼沢・赤沢山・小鹿野二子山・城峯山・三国尾根・蓬萊山・武甲山）、矢島ほか2017（十文字小屋）他。本種は花枝と上萼片に屈毛がある。レイジンソウと雑種を作りフジレイジンソウと呼ばれている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1400 キンポウゲ科

(和名) サンヨウブシ

(学名) *Aconitum sanyoense* Nakai

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回改訂時は報告がなく、今回は20地点で約1,800個体が確認された。調査精度の向上によって増加した新産地においても過去から生育していたと思われる。シカの不適好性植物であるが、まれに花や若葉が被害されることがある上、シカ被害による林床の希薄化や土壌浸食の他、危険要因として自然遷移が挙げられる。

【県内生育状況】 山地帯から亜高山帯の沢筋など、湿り気のある林床に生育する。被害が及んだ場所でも食べ残され、産地毎の個体数は増加傾向にあるが、生育地点は過去から減少していると考えられる。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。本種と同様花茎が無毛だが、葉が深裂し花弁紋部が膨らむものにカワチブシがあり、カワチブシを片親とする推定雑種も見つかっていることから、今後の精査が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1401 キンポウゲ科

(和名) ホソバトリカブト

(学名) *Aconitum senanense* Nakai subsp. *senanense* var. *senanense*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 過去の標本及び現地での再検討により、記録のほとんどが他種の誤認であることが明らかになった。現在把握される確実な産地は3地点のみで、生育個体数も50個体未満と推計され、減少傾向にあると考えられる。シカの不適好性植物であるが、花や若葉が時に被害される上、被害で顕在化している林床の希薄化、土壌の乾燥化、土壌浸食の進行により生育環境が悪化している。また、キタザワブシとの雑種形成によっても減少していると考えられる。

【県内生育状況】 沢沿いなど湿り気のある林床に生育し、石灰岩地にもみられる。本種は本来亜高山帯の雪潤草原や開けた明るい沢筋に生育する種であるが、本県では積雪が少ない

上、深いV字谷が発達し、生育適地が元々限定的である。

【特記事項】 国内分布は中部山岳周辺。本県の文献記録のほとんどは他種の誤認である。過去に二子山や白石山から多くの記録があったが、すべてイヌハコネトリカブトなどの誤認で、本種は分布しない。本種の花柄には開出毛と腺毛のみが生え屈毛はなく、茎上部には屈毛が生えてやや白く見え、葉と裂片は深裂し、欠刻片が細い。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1402 キンポウゲ科

(和名) ルイヨウショウマ

(学名) *Actaea asiatica* H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

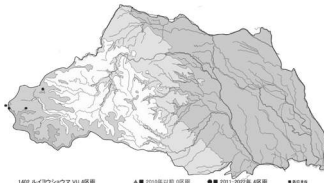
【評価所見】 前回は確認できなかったが、今回確認された二次メッシュは3区画、地点数は4、個体数は100未満だった。開花個体はほとんどみられず、岩上などでわずかに確認できたのみだった。減少傾向にあると考えられ、絶滅の危険性が高まっている。自然遷移やシカ被害が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林内や林縁に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1403 キンポウゲ科

(和名) フクジュソウ

(学名) *Adonis ramosa* Franch.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

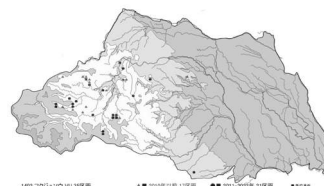
【評価所見】確認された二次メッシュは9区画、地点数は21、個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。一部の生育地では地域住民により保護されている。園芸採取、自然遷移、森林伐採、シカ食害、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】林縁や林床に生育する。

【特記事項】埼玉県指定天然記念物「両神のフクジュソウ群落」、秩父市指定天然記念物「浦山のフクジュソウ群落」、「品沢のフクジュソウ」。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○	○	○			



1404 キンポウゲ科

(和名) ヒメイチゲ

(学名) *Anemone debilis* Fisch. ex Turcz.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

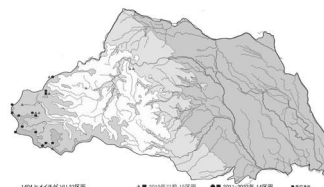
【評価所見】確認された二次メッシュは5区画、地点数は14、個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。一部の生育地ではササの増加に伴って減少した。自然遷移、シカ食害、産地極限が大きな危険要因となっている。また森林伐採、踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】日あたりのよいところに生育する。

【特記事項】本種は茎葉と根生葉の形が大きく異なり、根生葉の小葉は広卵形となるため、根生葉のみの個体は見逃されやすい。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1405 キンポウゲ科

(和名) イチリンソウ

(学名) *Anemone nikoensis* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

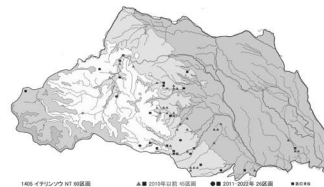
【評価所見】前回は45地点、個体数3,000超の報告で、今回は26地点・個体数3,000超と地点数が減少している。土地造成、園芸採取、管理放棄、森林伐採が大きな危険要因となっている。また踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】落葉広葉樹の林床や林縁に生育する。

【特記事項】生育地の多くは保護地となっているが、その他の場所では開発により減少している。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	○	◎	○	○	



1406 キンポウゲ科

(和名) キクザキイチゲ (キクザキイチリンソウ)

(学名) *Anemone pseudoaltaica* H.Hara var. *pseudoaltaica*埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX
2005 DD 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】前年に引き続き今回も未発見であった。園芸採取、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】以前は落葉広葉樹の林床に生育していたが絶滅した。

【特記事項】標本：なし。文献：寺崎1977（妻坂峠）、埼玉県教育委員会1962（釜伏神社から美鈴山、二本木峠まで）、奥山1947（三峰山）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1407 キンポウゲ科

(和名) アズマイチゲ

(学名) *Anemone raddeana* Regel

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

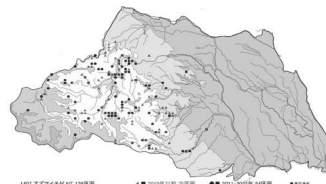
【評価所見】確認個体数は10,000以上で前回も10,000以上だった。亜高山帯から丘陵帯にかけて、県内の広い地域で確認されている。確認個体数は多いものの、繁殖個体が減少した生育地がある。今後の動態に注視する必要がある。自然遷移、園芸採取、シカ食害、森林伐採、土地造成が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】落葉樹林に生育する。

【特記事項】一部の生育地では保護されている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎	○	○	○	○		



1408 キンポウゲ科

(和名) サンリンソウ

(学名) *Anemone stolonifera* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認された二次メッシュは3区画、個体数は1,000未満で前回の100未満から増加した。県内には生育に適した草原が限られており、そうした草原の自然遷移も危険要因である。また、踏み付け、シカ食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】日あたりのよい草原に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。シカ柵により保護されている箇所では多くの個体が確認された。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1409 キンポウゲ科

(和名) レンゲショウマ

(学名) *Anemonopsis macrophylla* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

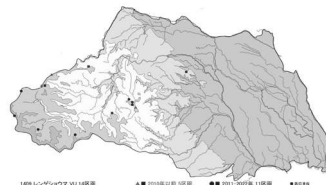
【評価所見】前回は5地点、700個体程度で、今回10地点、個体数は100超程度が確認された。シカによる食害の影響を強く受けていると予想される。森林伐採、園芸採取、自然遷移も大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】湿った林下に生育する。

【特記事項】文献：岩田・林2020（赤岩岳・豆焼沢・両神山・小鹿野二子山・城峯山・秩父市）、矢島ほか2017（大滝十文字小屋周辺）、崎尾ほか2013（秩父市）、牧野ほか2007（秩父市）、牧野ほか2006（両神山）他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎			○				



1410 キンポウゲ科

(和名) ヤマオダマキ

(学名) *Aquilegia buergeriana* Siebold et Zucc. var. *buergeriana*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

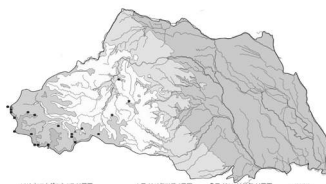
【評価所見】前回12地点、200個体程度で、今回は調査精度の向上により20地点で個体数は1,000未満が確認された。シカ食害、園芸採取、自然遷移が大きな危険要因となっている。また森林伐採も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】草原や林縁に生育する。

【特記事項】文献：岩田・林2021（横瀬町丸山～大野峠）、岩田・林2020（秩父市赤沢山・三国尾根・仙元尾根・樺小屋～地藏岩・前白岩山・雁坂峠～雁峠・梓白岩）、牧野ほか2019（秩父市中津川）、牧野2019（横瀬町）、矢島ほか2017（秩父市十文字小屋周辺）他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○	○						



1411
キンポウゲ科

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU

2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ミヤマハンショウヅル

〔学名〕

Clematis alpina (L.) Mill. subsp. *ochotensis* (Pall.) Kuntze var. *fusijamana* Kuntze

【評価所見】

確認された二次メッシュは3区画、地点数は4、個体数は100未満で前回も100未満だった。各地点での個体数は少なく、確認された個体の多くは、シカ食害の及ばない岩上などであった。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また、森林伐採も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】

林縁に生育する。

【特記事項】

国内分布は中部以北。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1412
キンポウゲ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 NT

〔和名〕

カザグルマ

〔学名〕

Clematis patens C.Morren et Decne.

【評価所見】

前回は12地点、200個体程度で、今回は8地点で100個体程度確認された。自生のクレマチスとして観賞用にも植えられているため、園芸採取の危険性が高い。また、森林伐採、管理放棄、自然遷移、シカ食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】

主に林縁に生育する。

【特記事項】

保護育成にあたっては、林縁に生育するため他のつる植物の除去等の適度な管理が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	◎	○	○		

1413
キンポウゲ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT

2011 EN
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

トリガタハンショウヅル

〔学名〕

Clematis tosaensis Makino

【評価所見】

前回は1地点、数個体が確認され、今回は3地点で個体数50未満とやや増加傾向がみられた。森林伐採は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】

山地の林縁や明るい林内に生育する。

【特記事項】

文献：岩田2021（横瀬町武甲山）、岩田・林2020（小鹿野町・秩父市両神山・和名倉山）、五十嵐・岩田2005（東大秩父演習林）、岩田2005（秩父山地）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1414
キンポウゲ科

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕

ウスギオウレン

〔学名〕

Coptis lutescens Tamura

【評価所見】

前回は6地点、100個体程度が確認され、今回は1地点で個体数は300超確認され、地点数が大きく減少した。薬用採取、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】

針葉樹林内に生育する。

【特記事項】

国内分布は関東周辺。標本：TNS329240（1970）、岩田標本44272（1998）。文献：清水2005（秩父地方）、卜沢1999（秩父山系）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1415 キンポウゲ科

(和名) ミツバオウレン

(学名) *Coptis trifolia* (L.) Salisb.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

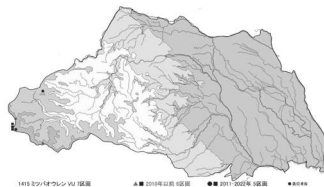
【評価所見】 前回は10地点、500個体超の報告があり、今回は5地点で500個体程度が確認された。森林伐採、シカ被害、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 針葉樹林内や林縁に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。文献：岩田2005（秩父山地緑の回廊）、三上ほか2000（西破不山（西破風山）～甲武信山）、岩田ほか2000（大滝村）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1416 キンポウゲ科

(和名) トウゴクサバノオ

(学名) *Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

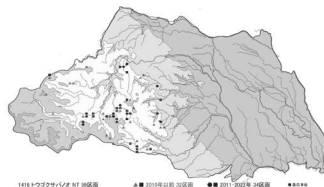
【評価所見】 前回は30数地点、1,000個体超の報告があり、今回は42地点で10,000個体程度が確認された。自然遷移、河川改修、園芸採取が大きな危険要因となっている。また踏み付け、森林伐採も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 沢沿いの温帯林の湿った林床に生育する。

【特記事項】 文献：岩田・林2020（牛首峠・弟富士山・武甲山・白谷沢・大霧山・熊倉山）、木村・森廣2014（飯能市）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○		○			



1417 キンポウゲ科

(和名) チチブシロカネソウ（オオシロカネソウ）

(学名) *Enemion raddeanum* Regel

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認された二次メッシュは2区画、4地点、個体数は100未満で前回は100未満だった。各生育地あたりの個体数は少なく、開花個体はほとんどみられなかった。シカ被害による減少が激しく近い将来絶滅する可能性がある。

【県内生育状況】 落葉樹林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州（埼玉・岩手・群馬・長野）の石灰岩地や超塩基性岩地。標本：SMNH-As53698（1988）、SMNH-As48246（1965）。文献：岩田・林2020（秩父市大滝）、須田ほか2019（県内石灰岩地）、五十嵐・岩田2005（東大演習林）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1418 キンポウゲ科

(和名) セツブンソウ

(学名) *Eranthis pinnatifida* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 NT
1998 VU

全国カテゴリ

2020 NT

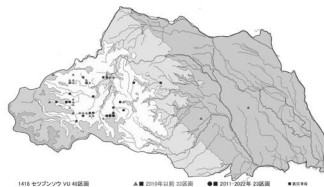
【評価所見】 確認された二次メッシュ数は7、地点数は24、個体数は10,000未満で前回は10,000以上から減少した。多くの個体が確認された生育地では、地域住民による保護活動がされていた。森林伐採、園芸採取、自然遷移、シカ被害、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林床に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州（関東以西）で石灰岩地を好む。一部の生育地では保護されている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○	○				



1419 キンポウゲ科

〔和名〕ミスミソウ

〔学名〕*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】確認された二次メッシュは1区画、地点数は1、個体数は1,000未満で前回も1,000未満だった。県内では生育地が限られており、絶滅の危険性が高い。生育地の周辺では石灰岩の採掘が行われており、生育環境が変化する可能性がある。また、森林伐採、園芸採取、自然遷移、産地極限も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】林床に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As57007（2019）、SMNH-As7954（1966）。文献：須田ほか2019（県内石灰岩地）、平ほか2007（横瀬町）、ト沢1999（秩父山系）他。過去に文献記録はあったが、2006年に再発見された。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1420 キンポウゲ科

〔和名〕オキナグサ

〔学名〕*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold et J.Presl

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】前回は1地点、10個体未満の報告があり、今回は4地点で個体数10程度確認され、地点数がやや増加した。自然遷移が大きな危険要因となっている。また河川敷開発、管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】日当たりのよい草原や河川の堤防等に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As50738（1968）。文献：落合2000（寄居町）、長瀬町教育委員会1997（長瀬町）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			



1421 キンポウゲ科

〔和名〕コキツネノボタン

〔学名〕*Ranunculus chinensis* Bunge

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 DD2011 EN
1998 DD

全国カテゴリ

2020 VU

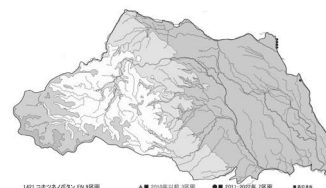
【評価所見】前回は3地点、500個体程度の報告があり、今回は5地点で300個体程度確認された。自然遷移が大きな危険要因となっている。また河川改修、土地造成、管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】河原・河畔の草原や日当たりのよい湿地に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As51146（2007）、SMNH-As33224（1978）。文献：三上・石川2020（加須市）、牧野2019（吉川市）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



1422 キンポウゲ科

〔和名〕アカギキンポウゲ

〔学名〕*Ranunculus japonicus* Thunb. var. *akagiensis* Hiyama

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回は未確認であったが今回1地点で20個体程度確認された。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】草原に生育する。

【特記事項】国内では本州中部に分布。標本：SMNH-As22821（1981）、岩田標本54300（1998）。文献：岩田・林2020（秩父市大滝）、岩田2005（秩父山地）特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1423 キンポウゲ科

〔和名〕 **バイカモ**

〔学名〕 *Ranunculus nipponicus* Nakai var. *submersus* H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 DD

2011 EN
1998 EX

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回は2地点3,000株で前回の3地点5,000株から減少している。生育地へ侵入した外来植物による被圧や河川の水位低下、土砂の流入、野鳥（カルガモ等）による食害など危険性の要因が多く、個体数も減少傾向にある。管理放棄、帰化競合、河川改修が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 年間を通して15度前後の安定した水温で、比較的にきれいな流れのある水の中に群生する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51148（2004）。生育地の一つは熊谷市久下のムサシトミヨ生息地にあり、県指定天然記念物区域として保護されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



1424 キンポウゲ科

〔和名〕 **オトコゼリ**

〔学名〕 *Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 NT

2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回同様今回も未発見で、生育の実態が不明である。1986年の寄居町史以降報告がない。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 以前は湿地・ため池・用水路・休耕田に生育していたとされるが、今回は未確認である。

【特記事項】 文献：寄居町教育委員会1986（寄居町）、中澤・小川1982（都幾川村）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1425 キンポウゲ科

〔和名〕 **ヒキノカサ**

〔学名〕 *Ranunculus ternatus* Thunb. var. *ternatus*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR

2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 前回は6地点、400個体程度の報告があり、今回は2地点で300個体程度確認された。管理放棄は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 水辺や湿地に生育する。自然遷移が進みヨシ等の大形植物が優占すると、小形の本種は被圧され消滅してしまう。生育地では野焼きやヨシ刈りなどの管理が必要である。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As51147（2003）、SMNH-As50743（1954）。文献：木村2020（さいたま市）、磯田2006（さいたま市）、岩槻市2005（岩槻市）、太田2000（幸手市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

1426 キンポウゲ科

〔和名〕 **ヒメウス**

〔学名〕 *Semiaquilegia adoxoides* (DC.) Makino

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 CR

2011 VU
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

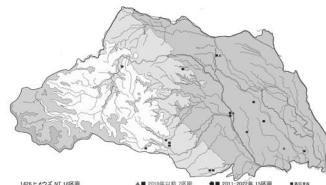
【評価所見】 前回は4地点、300個体程度の報告があり、今回は調査精度の向上により広範囲の16地点で個体数1,000超が確認された。大宮台地等では開発による減少が心配される。また森林伐採、草地開発も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 人里の畑・路傍や林縁に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東・北陸以西。文献：本橋2021（天覧山・多峯主山）、木村2020（さいたま市）、木村・森廣（飯能市）、荒川の自然を守る会2011（上尾市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	◎	○	○	○



1427 キンポウゲ科

(和名) シギンカラマツ

(学名) *Thalictrum actaeifolium* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回同様今回も確認できなかった。1993年以降確認されていない。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】以前は山地の林内に生育していたが、今回は未確認である。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As50064 (児玉1991)。文献：愛川ほか1993 (大滝村)、高橋ほか1993 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1428 キンポウゲ科

(和名) カラマツソウ

(学名) *Thalictrum aquilegifolium* L. var. *intermedium* Nakai

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前は1地点、10個体未満の報告であったが、今回調査精度の向上により3地点で100個体程度確認された。シカ食害が大きな危険要因となっている。また踏み付け、自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】湿った日当たりのよい草原や林縁に生育する。

【特記事項】文献：岩田・林2020 (梓白岩)、嵐山町博物館植物部会2012 (嵐山町)、牧野ほか2006 (小鹿野町二子山)、岩田2005 (秩父山地緑の回廊)、山下2003 (小川町) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1429 キンポウゲ科

(和名) ミョウギカラマツ

(学名) *Thalictrum minus* L. var. *chionophyllum* (Nakai ex F.Maek.) Emura

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 DD2011 なし
1998 DD

全国カテゴリ

2020 CR

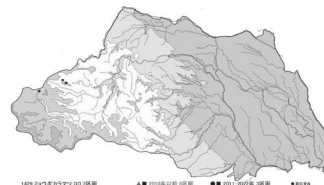
【評価所見】3地点で20個体程度確認された。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】石灰岩の露頭にまれに生育する。

【特記事項】国内分布は埼玉・群馬で限定的。本種はアキカラマツの変種で、葉の表面が青緑色、裏面が著しく粉白色を帯び、果柄が長い点で区別できる。本県のをミョウギカラマツに充ててよいかは分類学的な検討が必要である。標本：SMNH-As8333 (小鹿野町白岩山1986)、SMNH-As8332 (秩父市大ガマタ1986)。文献：岩田2020 (秩父市大滝)、守屋1987 (武甲山) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1430 キンポウゲ科

(和名) オオカラマツ (コカラマツ)

(学名) *Thalictrum minus* L. var. *kemense* (Fr.) Trelease

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 CR2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

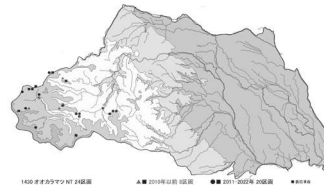
【評価所見】前は6地点、1,000個体超の報告があり、今回は20地点で1,000超の個体が確認された。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また石灰岩採掘も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】石灰岩地に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。文献：森廣ほか2022 (四期萩石灰岩地)、岩田・林2020 (赤沢山・小鹿野二子山・奥秩父林道)、牧野ほか2007 (白石山)、牧野ほか2006 (二子山)、牧野ほか2005 (赤岩峠・中津川神流川合流点) 他。本種はアキカラマツの変種で果柄が10-40mmと長く、葉の下面と果実に腺毛があるものを指すが、アキカラマツとの中間的な個体もある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1431 キンポウゲ科

(和名) ノカラマツ

(学名) *Thalictrum simplex* L. var. *brevipes* H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 VU

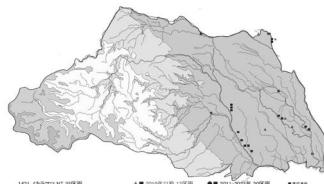
【評価所見】 前回は16地点、2,000個体超が報告され、今回は28地点で個体数30,000超が確認された。湿地開発、管理放棄、河川敷開発、自然遷移、道路工事が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 日当たりのよい草原、河川敷、湿地に生育する。

【特記事項】 文献：三上・石川2020（加須市）、木村2020（さいたま市）、牧野2019（吉川市）、加須市環境安全部2016（加須市）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	◎	○



1432 キンポウゲ科

(和名) モミジカラマツ

(学名) *Trautvetteria carolinensis* (Walter) Vail var. *japonica* (Siebold et Zucc.) T.Shimizu

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 CR
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回は2地点、10個体程度の報告があり、今回は2地点で300個体程度確認された。森林伐採は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿った草原や林内・林縁に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As8368（1986）、SMNH-As8363（1984）。文献：岩田・林2020（秩父市大滝）、五十嵐・岩田2005（東大秩父演習林）、岩田2005（秩父山地緑の回廊）、岩田2002（小鹿野町）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1433 ボタン科

(和名) ヤマシャクヤク

(学名) *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 NT

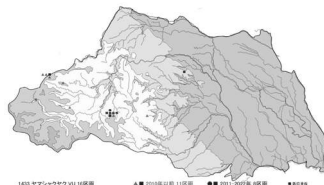
【評価所見】 前回は14地点、1,000個体程度の報告があり、今回は12地点で400超の個体が確認された。シカ被害、自然遷移、石灰岩採掘、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 落葉広葉樹の林床に生育する。石灰岩地を好む傾向がある。

【特記事項】 文献：岩田2021（武甲山）、大塚ほか2014（皆野町）、磯田1996（天目林道）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○		○				



1434 ボタン科

(和名) ベニバナヤマシャクヤク

(学名) *Paeonia obovata* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 前回は4地点、10個体程度の報告があり、今回は3地点で50個体未満報告された。園芸採取が大きな危険要因となっている。また森林伐採、産地極限も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 落葉広葉樹の林床に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As8250（1981）。文献：岩田・林2020（横瀬町）、磯田1994（大滝村）、高橋ほか1994（大滝村）、守屋1987（横瀬町）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						

1435 スグリ科

(和名) ヤシャビシャク

(学名) *Ribes ambiguum* Maxim.

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリー

2020 NT

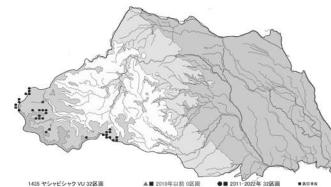
【評価所見】 前回は確認できなかったが、今回確認された二次メッシュは7区画、地点数は32、個体数は1,000未満だった。樹上に生育するため確認が難しく、各地点での個体数は少ない。本種の生育地となる老木の枯死が危険要因である。前回調査時より広く分布していることが確認できたため絶滅の危険性は低くなっている。森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 老木上に着生する。

【特記事項】 近年、本種と異なり葉柄に腺毛があり、小枝に刺状突起があり、花卉の一部が紅色を帯び、葉がより深く裂けるフガクヤシャビシャク (*Ribes fujisanense* S.Sakag. & Mit.Oishi.) が記載されており、山梨県・埼玉県境の山域における山梨県側での1980年の採集標本があるため(Sakaguchi et al., 2022)、本県での分布の可能性について今後留意する必要がある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1436 スグリ科

(和名) ヤブサンザシ

(学名) *Ribes fasciculatum* Siebold et Zucc. var. *fasciculatum*

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 CR2011 VU
1998 CR

全国カテゴリー

2020 なし

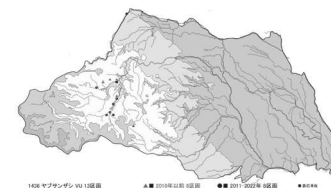
【評価所見】 前回は6地点、300個体程度が確認され、今回は9地点で個体数100未満確認された。産地極限、シカ食害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 明るい林地や林縁に生育する。

【特記事項】 文献：岩田・林2020 (武甲山・和銅山)、牧野2019 (川口市)、磯田2006 (さいたま市)、長瀬町教育委員会1997 (長瀬町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		◎		◎				



1437 スグリ科

(和名) コマガタケスグリ

(学名) *Ribes japonicum* Maxim.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 前回は確認できなかったが、今回は1地点で個体数50未満が確認された。森林伐採は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 林縁や溪流沿いに生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As52193 (2000)、SMNH-As9813 (1987)。文献：岩田・林2020 (秩父市大滝)、五十嵐・岩田2005 (東大秩父演習林)、岩田2005 (秩父山地緑の回廊)、岩田ほか2000 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1438 スグリ科

(和名) ザリコミ

(学名) *Ribes maximowiczianum* Kom.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 なし2011 EN
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 確認された二次メッシュは5区画、個体数は100未満で前回は100未満だった。確認できた個体の多くは樹上や岩上など、シカ食害の及ばない場所であり、シカ食害が主な危険要因と考えられる。また、自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地などに生育する。

【特記事項】 国内分布は東北から中国地方、高知に局地的。標本：SMNH-As9830 (1987)、SMNH-As9829 (1986)、岩田標本62168 (2001)。文献：岩田・林2020 (秩父市中津川)、

須田ほか2019 (県内石灰岩地)、牧野ほか2008 (中津川) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1439 ユキノシタ科

〔和名〕チシマネコノメソウ

〔学名〕*Chrysosplenium kamtschaticum* Fisch. ex Ser.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR

2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

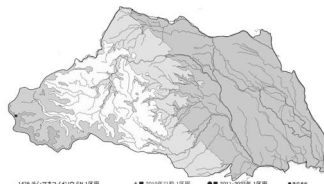
【評価所見】 今回の確認個体数は30未満であり、前回の50未満よりも減少し、報告も1地点だった。小型の植物であり、シカ食害の影響は軽微と考えられるが、個体数と集団数が極端に少なかった。確認報告が少なく情報が不足しており、危険要因は不明である。

【県内生育状況】 奥秩父のやや湿った沢沿いの林内に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51170（2004）、岩田標本72095（2004）。本属の植物はいずれも小型でよく似ており、花期以外は同定が困難である。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1440 ユキノシタ科

〔和名〕ヤワタソウ

〔学名〕*Peltoboykinia tellimoides* (Maxim.) H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回は1地点、20個体程度が確認され、今回は3地点で40個体程度が確認された。園芸採取は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 谷沿い陰湿地に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As9783（1987）、SMNH-As9782（1987）。文献：岩田・林2020（皆野町城峯山）、平ほか2005（皆野町城峯山）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1441 ユキノシタ科

〔和名〕ズダヤクシュ

〔学名〕*Tiarella polyphylla* D.Don

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN

2011 NT
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

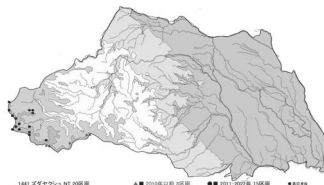
【評価所見】 前回は8地点、600個体程度が確認され、今回18地点で個体数1,000超確認された。以前は亜高山帯の普通種であったがシカの食害により激減している。また自然遷移、踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 湿った林床に生育する。

【特記事項】 文献：岩田・林2020（豆焼沢・赤沢山・三国尾根・樺小屋～地蔵岩）、矢島ほか2017（十文字小屋）、五十嵐・岩田2005（東大秩父演習林）、岩田2005（秩父山地緑の回廊）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1442 ベンケイソウ科

〔和名〕ミツバベンケイソウ

〔学名〕*Hylotelephium verticillatum* (L.) H.Ohba var. *verticillatum*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

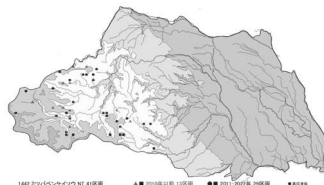
【評価所見】 確認された二次メッシュは12区画、地点数は28、個体数は1,000未満で前回も1,000未満だった。広く分布しているが、各地点での個体数は少なかった。道路沿いの法面でも確認された。道路工事、シカやその他の動物食害、自然遷移、森林伐採が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 岩場や林縁などに生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎	○		○			



1443 ベンケイソウ科

〔和名〕 ツメレンゲ

〔学名〕 *Orostachys japonica* (Maxim.) A.Berger埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 EN
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 NT

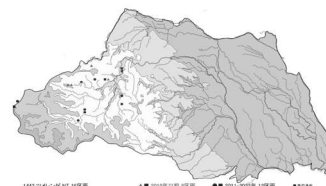
【評価所見】 確認された二次メッシュは6区画、地点数は12、個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。道路脇の石垣でも確認された。園芸採取、自然遷移が大きな危険要因となっている。また道路工事、シカ被害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 日あたりのよい岩上などに生育する。

【特記事項】 民家の石垣などにみられることもあるが、逸出の可能性はある。本種は一回結実性の植物として知られている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎		○				



1444 ベンケイソウ科

〔和名〕 イワベンケイ

〔学名〕 *Rhodiola rosea* L.埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回と同様今回も確認できなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 亜高山帯の岩場や砂礫地に生育していた。

【特記事項】 文献：岩田1987（秩父山系）。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1445 ベンケイソウ科

〔和名〕 マツノハマンネングサ

〔学名〕 *Sedum hakonense* Makino埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 前回は2地点、100個体程度の報告があり、今回も2地点で個体数が10未満確認された。森林伐採が大きな危険要因となっている。また園芸採取、自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 ブナ等の巨樹や苔むした岩の隙間に着生する。

【特記事項】 国内分布は関東周辺（フォッサマグナ地域）に限定的。標本：SMNH-As9194 (1981)、SMNH-As9193 (1966)。文献：岩田2002（小鹿野町両神山）、岩田2000（秩父市熊倉山）、磯田1996（秩父市天目林道 坊主山）、岩田1987（秩父山系）他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1446 ベンケイソウ科

〔和名〕 アズマツメクサ

〔学名〕 *Crassula aquatica* (L.) Schönl.埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 前回はかつて生育していた1地点で消滅が確認された。今回は新たに3地点で300個体程度が確認されたものの生育状況が不安定である。自然遷移、管理放棄が大きな危険要因となっている。また農薬汚染も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 水田や休耕田に生育する。地上生であるが、やや水深のある場所にも生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As52060 (2003)、SMNH-As9262 (1971)。文献：荒川の自然を守る会2011（上尾市）、埼玉県2010（寄居町三ヶ山）、高橋・加藤2003（さいたま市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	◎	○	○

1447 タコノアシ科

〔和名〕 タコノアシ

〔学名〕 *Penthorum chinense* Pursh

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 NT

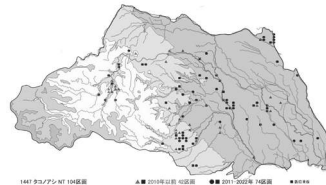
【評価所見】 前回は31地点、2,000個体程度が確認され、今回調査精度の向上により71地点で6,000超の個体が確認された。自然遷移、湿地開発、管理放棄、河川敷開発、土地造成が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 湿地・沼・休耕田等の低湿地に生育する。

【特記事項】 文献：川口市2021（川口市）、三上・石川2020（熊谷市）、内田2020（東松山市）、木村2020（さいたま市）、牧野・田島2019（坂戸市）、牧野・山下2019（飯能市）、吉見町2019（吉見町）、牧野ほか2018（上尾市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	◎	○	○	○



1448 アリノトウグサ科

〔和名〕 ホザキノフサモ

〔学名〕 *Myriophyllum spicatum* L.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

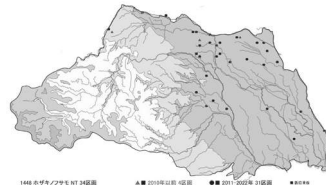
【評価所見】 前回は4地点、1,000個体程度が確認され、今回は28地点で個体数3,000超を確認した。水質汚濁、河川改修、農業汚染が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 比較的富栄養な水域の沼・河川・水路で沈水状態で生育する。

【特記事項】 文献：埼玉県2022（本庄市）、川口市2021（川口市戸塚）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○		○	○	◎



1449 アリノトウグサ科

〔和名〕 タチモ

〔学名〕 *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD

2011 EX
1998 DD

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】 前回に引き続き今回も確認できなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 かつては、貧栄養～中栄養な沼などに沈水形・抽水形・陸生形と多様な形態で生育していた。

【特記事項】 標本：TNS152894（1958）、MAK117216（1904）、MAK117213（1904）。文献：東京薬科大学植物研究部1977（狭山丘陵）、埼玉県教育委員会1976（宝蔵寺沼）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1450 アリノトウグサ科

〔和名〕 フサモ

〔学名〕 *Myriophyllum verticillatum* L.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN

2011 NT
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

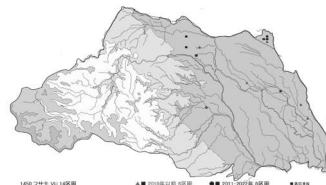
【評価所見】 前回は4地点、500個体超の報告があり、今回は9地点で個体数1,000超が確認された。河川改修、農業汚染が大きな危険要因となっている。また管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 貧栄養な沼や水路で沈水状態で生育する。

【特記事項】 文献：三上・石川2020（加須市）、坂戸市2013（坂戸市）、落合2000（寄居町）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	◎



1451 マメ科

(和名) モメンヅル

(学名) *Astragalus reflexistipulus* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 CR2011 EX
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回同様今回も確認できなかった。武甲山での守屋（1987）の記録以降未発見である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】山地の草原や林縁に生育していた。

【特記事項】標本: SMNH-As10869(1983)、MAK130542(1920)。文献: 守屋1987（武甲山）、岩田1987（秩父山系）、岩田1982（秩父市）、守屋・井上1978（武甲山）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1452 マメ科

(和名) カワラケツメイ

(学名) *Chamaecrista nomame* (Makino) H. Ohashi

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

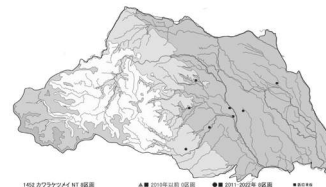
【評価所見】8地点、300個体程度が確認された。農薬汚染、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】土手、河原の砂地等の日当たりのよい草原に生育する。生育地の一部では保全団体により保全活動が行われている。

【特記事項】標本: SMNH-As53228（2008）、SMNH-As48976（2006）など。文献: 藤波ほか2021（上尾市）、かわごえ環境ネット2021（川越市）、内田2020（東松山市）、高崎・池山2019（さいたま市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	◎	○	○



1453 マメ科

(和名) タヌキマメ

(学名) *Crotalaria sessiliflora* L.

埼玉カテゴリ

2024 EW
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回は1地点、100個体程度が確認されたが、今回唯一の自生地が消滅し、移植された個体が保護地で生育している。土地造成は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】丘陵地の人里周辺に生育する。

【特記事項】標本: 仮標本（落合1996）、仮標本（田中澄1997）。文献: 牧野2019（嵐山町）、加須市2016（加須市）、愛川・田中2006（宮沢湖）他。薬草やネコブセンチュウ防除用に利用されたり観賞用に栽培されてきた。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○				

1454 マメ科

(和名) ノアズキ

(学名) *Dunbaria villosa* (Thunb.) Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

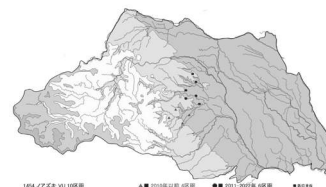
【評価所見】今回5地点で個体数10未満確認された。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】林縁や堤防などの草原に生育する。

【特記事項】標本: SMNH-As50243（1991）、仮標本（竹田1995）、仮標本（愛川1994）など多数。文献: 藤波ほか2021（上尾市）、大塚ほか2021（飯能市）、内田2020（東松山市）、木村2020（さいたま市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	◎		



1455 マメ科

(和名) サイカチ

(学名) *Gleditsia japonica* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし
2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

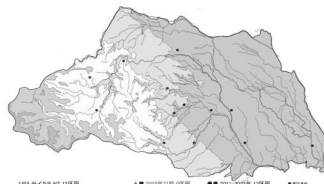
【評価所見】今回13地点で個体数100未満確認された。森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。また河川改修、河川敷開発も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】河原や山野に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As1788 (1952)、SMNH-As52094 (1999) など。文献：三上・石川2020 (熊谷市)、岩田・林2020 (弟富士山・白石山)、木村2020 (さいたま市)、山下・牧野2018 (飯能市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	○	◎	○	○



1456 マメ科

(和名) イワオウギ

(学名) *Hedysarum vicioides* Turcz. subsp. *japonicum* (B.Fedtsch.) B.H.Choi et H.Ohashi var. *japonicum* (B.Fedtsch.) B.H.Choi et H.Ohashi

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR
2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

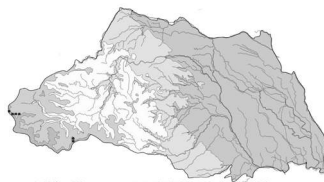
【評価所見】生育地は3地点、二次メッシュは3区画だった。確認個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。確認個体の多くはシカの食害が及ばない岩壁の上部などだった。シカ食害、森林伐採、園芸採取、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】石灰岩地に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。本種は本来亜高山帯の草原に生育する種であるが、本県では石灰岩地に生育している。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1457 マメ科

(和名) レンリソウ

(学名) *Lathyrus quinquenervius* (Miq.) Litv.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR
2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

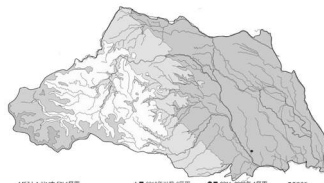
【評価所見】前回は確認されなかったが、今回1地点で300個体程度が確認された。かつては多くの川岸や湿地に生育していたが、開発や外来植物との競争により消滅している場所が多い。自然遷移も懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】

【特記事項】標本：SMNH-As54202 (1963)、SMNH-As43514 (1954)。文献：荒川の自然を守る会2011 (上尾市)、太田2000 (幸手市) 他。さいたま市桜区田島ヶ原サクラソウ自生地は、国の特別天然記念物として保護されている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	



1458 マメ科

(和名) イヌハギ

(学名) *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold ex Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU
2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 VU

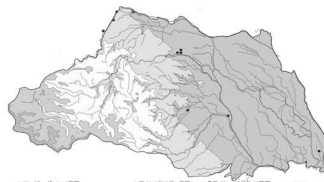
【評価所見】前回2地点・300個体程度の報告があり、今回5地点で個体数800程度が確認された。管理放棄、自然遷移、河川敷開発が大きな危険要因となっている。また農薬汚染、土地造成も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】河原や堤防など日当たりのよい草原に生育する。

【特記事項】文献：三上ほか2012 (狭山市)、荒川の自然を守る会2011 (上尾市)、山下ほか2006 (熊谷市大麻生) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○		○		◎



1459 マメ科

〔和名〕マキエハギ

〔学名〕*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回2地点で50個体程度確認された。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】乾いた草原に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As52106（2004）、SMNH-As50267（1991）など。文献：岩田・林2020（皇鈴山・愛宕山・大霧山）、新座市2016（新座市）、荒川の自然を守る会2011（上尾市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			



1460 マメ科

〔和名〕イヌエンジュ

〔学名〕*Maackia amurensis* Rupr. et Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回3地点で数個体確認された。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】河原、湖沼、湿原に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As1844（1954）、SMNH-As11167（1991）。文献：長谷川2015（入間市）、愛川2003（秩父市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○				○			



1461 マメ科

〔和名〕タンキリマメ

〔学名〕*Rhynchosia volubilis* Lour.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

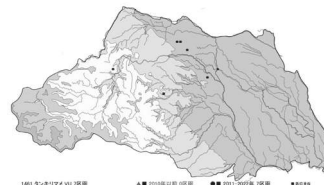
【評価所見】今回7地点で個体数100未満確認された。土地造成は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】日当たりのよい草原や林縁に生育する。

【特記事項】国内分布は関東以西。標本：SMNH-As48473（2004）、SMNH-As50238（1988）。文献：大塚ほか2017（長瀬町）、磯田2006（さいたま市）岩槻市2005（岩槻市）、落合2000（寄居町）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○		○	○	◎



1462 マメ科

〔和名〕クララ

〔学名〕*Sophora flavescens* Aiton

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

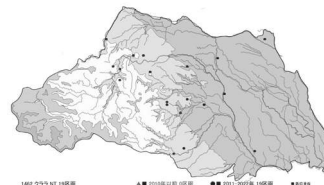
【評価所見】今回は20地点、200個体程度が確認された。自然遷移、草地開発、管理放棄、道路工事が大きな危険要因となっている。また森林伐採も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】日当たりのよい草原や山野の道ばた・土手などに生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As48475（2004）、SMNH-As53250（2007）など。文献：藤波ほか2021（上尾市）、牧野2021（さいたま市）、三上ほか2020（神川町）、三上・石川2020（北本市）、木村2020（さいたま市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	◎	○	○	○



1463 ヒメハギ科

(和名) ヒナノキンチャク

(学名) *Polygala tatarinowii* Regel

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 EN

【評価所見】 前回は1地点で500個体程度の報告があり、今回は1地点で個体数300程度確認された。シカ食害、石灰岩採掘、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 石灰岩地の草原に生育する。他県では花崗岩地でも生育が確認されているが、石灰岩地など土壌の乏しい立地を好む。

【特記事項】 標本：TNS975905 (1976)、岩田標本82384 (2008)。文献：岩田・林2020 (小鹿野町)、守屋1987 (武甲山) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1464 クロウメモドキ科

(和名) ミヤマクマヤナギ

(学名) *Berchemia pauciflora* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回は3地点、10個体ほどの報告があり、今回7地点で100個体程度が確認された。シカ食害、産地極限が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 石灰岩の岩礫地に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州 (関東・甲信) にまれ。標本：SMNH-As12580 (1984)、SMNH-As12579 (1984) など。文献：岩田2020 (秩父市大滝)、岩田・林2020 (秩父市大滝)、牧野ほか2006 (小鹿野町二子山) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



1465 クロウメモドキ科

(和名) ヨコグラノキ

(学名) *Berchemiella berchemiifolia* (Makino) Nakai

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 DD2011 なし
1998 DD

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認された地点数は1、個体数は100未満だった。県内では生育地が限られており、絶滅の危険性が高い。生育地の周辺では石灰岩の採掘が行われており、保護策を講じなければ生育地が失われる可能性がある。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州・四国・九州に限定的。標本：SMNH-As57007 (2019)。旧版植物誌 (1962) には雲取山の記録があるが、証拠標本は残されていない。今回の調査で岩田 (2021) により県内での生育が報告された。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1466 クロウメモドキ科

(和名) クロカンバ

(学名) *Rhamnus costata* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

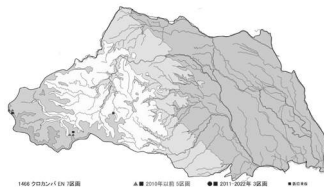
【評価所見】 確認できた地点数は3、個体数は100未満で前回も100未満だった。本種の花は目立たないため、発見が困難なことも確認数が少ない要因である。シカ食害、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 石灰岩地での確認個体数が多い。

【特記事項】 標本：SMNH-As12615 (1987)、SMNH-As12612 (1986) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1467 クロウメモドキ科

(和名) クロツバラ

(学名) *Rhamnus davurica* Pall. var. *nipponica* Makino

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回は1,000個体未満の報告があった。今回は1地点で70個体程度が確認された。森林伐採、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 日当たりのよい草原に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As12616 (1980)、SMNH-As2376 (1955)。文献：牧野ほか2019 (寄居町風布)、五十嵐ほか2016 (秩父市東大演習林) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○				



1468 クロウメモドキ科

(和名) クロウメモドキ

(学名) *Rhamnus japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回は3地点、50個体程度確認された。今回、クロウメモドキと比べ葉長が3cm以下と小さいコバノクロウメモドキ (Hara, 1951) にあたる型の個体が確認されたが、コバノクロウメモドキは静岡県より西に分布するとされており、クロウメモドキの一型として扱った。石灰岩採掘は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 林内や岩場に生育する。コバノクロウメモドキ型の個体は、県内山地帯の石灰岩地に生育する。

【特記事項】 文献：コバノクロウメモドキ型は岩田2021 (武甲山)、岩田ほか2000 (大滝村)、守屋1987 (武甲山)、奥山1974 (武甲山) 他。クロウメモドキは、岩田2021 (武甲山)、岩田・林2020 (三国尾根・赤沢山・大霧山)、大塚ほか2014 (皆野町)、木村・森廣2014 (飯能市名栗) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1469 イラクサ科

(和名) トキホコリ

(学名) *Elatostema densiflorum* Franch. et Sav. ex Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 CR2011 VU
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

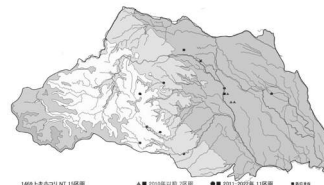
【評価所見】 前回は7地点で1,000個体未満報告され、今回は調査精度の向上により11地点で10,000個体超見つけた。踏み付け、自然遷移が大きな危険要因となっている。また森林伐採、農薬汚染、管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林縁の湿った場所に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以北。文献：長谷川2013 (入間市)、愛川2001 (越谷市)、太田2000 (幸手市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○	○	○		◎	○



1470 イラクサ科

(和名) タチゲヒカゲミズ

(学名) *Parietaria micrantha* Ledeb. var. *coreana* (Nakai) H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 DD
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

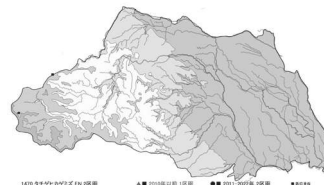
【評価所見】 前回は1地点で100個体程度報告されたが、今回は2地点・100個体超が見つかった。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 林下、岩場の下陰、岩壁基部の湿潤な土壌上に生育する。

【特記事項】 文献：岩田・林2020 (小鹿野町二子山・秩父市)。標本：岩田標本37851 (秩父白泰1994)、岩田標本42203 (小鹿野二子1995)。ヒカゲミズと比べ全体に開出した長軟毛が密生する。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1471 イラクサ科

(和名) ホソバイラクサ

(学名) *Urtica angustifolia* Fisch. ex Hornem. var. *angustifolia*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 DD
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回は近接した2地点で600個体程度の報告があったが、今回は4地点で400個体未満であった。自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 遊水池等の湿った所に生育する。

【特記事項】 文献：加須市環境安全部2016（加須市）、木村・森廣2014（飯能市名栗）、磯田1995（大滝村）。エゾイラクサとは托葉が2組各2枚ある点で異なる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



1472 イラクサ科

(和名) コバノイラクサ

(学名) *Urtica laetevirens* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

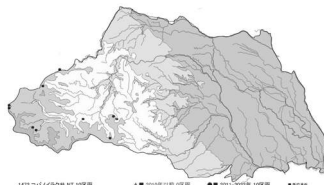
【評価所見】 今回10地点で個体数50未満確認された。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 森林内や林縁に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51378（2004）、SMNH-As52621（2005）など。文献：岩田2021（横瀬町）、岩田・林2020（南天山・武甲山）、木村・森廣2014（飯能市名栗）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1473 バラ科

(和名) チョウセンキンミズヒキ

(学名) *Agrimonia coreana* Nakai

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 DD2011 EN
1998 DD

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 二次メッシュは1区画で確認個体数は前回と同様に100未満である。記録された生育地はこれまでに確認された山地帯の草地であり、シカなど動物の食害による更なる個体数の減少が危惧されている。

【県内生育状況】 草地、林縁に分布している。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。標本：仮標本（岩田1990）、岩田標本82381（2008）。文献：伊藤 編1998（皆野町・小鹿野町）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1474 バラ科

(和名) ブコウマメザクラ

(学名) *Cerasus incisa* (Thunb.) Loisel. var. *bukosanensis* (Honda) H.Ohba

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 EN

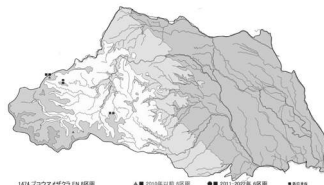
【評価所見】 前回の確認個体数は100未満であったの対し、今回は100以上である。前回と報告数はほとんど変わらないため調査精度の向上により個体数が増えたと思われる。石灰岩地の限られた岩場に生育するため崩壊や石灰採掘、動物の食害などによる個体数減少が危惧される。この他に、森林伐採、自然遷移、産地極限も危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地の尾根上や露頭の基部など限られた立地に生育している。

【特記事項】 国内分布は埼玉・群馬・東京の石灰岩地に限定的。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。標本：SMNH-As56532（2016）、SMNH-As56548（2016）など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



1475 バラ科

(和名) エドヒガン

(学名) *Cerasus itosakura* (Siebold) Masam. et S.Suzuki var. *itosakura* f. *ascendens* (Makino) H.Ohba et H.Ikeda

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし
2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は9地点、二次メッシュが5区画の記録である。対象種としての調査期間が短かったため報告数が少ないが、山地帯から低山帯にかけて広い範囲に点在しており、個体数も多いと思われる。森林伐採、自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い場所を好み、明るい林内に先駆的に侵入する。

【特記事項】 標本はSMNH-As53147 (2002)、SMNH-As53148 (2007) 等。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○	◎				



1476 バラ科

(和名) タカネザクラ (ミネザクラ)

(学名) *Cerasus nipponica* (Matsum.) Masam. et S.Suzuki var. *nipponica*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし
2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認個体数は1,000未満であり、前回の記録より増加した。生育の範囲も広く個体数も多いと思われるが、シカの食害による更なる個体数減少が危惧される。シカ食害の他、自然遷移、森林伐採も危険要因である。

【県内生育状況】 比較的日当たり良好な場所に生育している。

【特記事項】 国内分布は中部以北。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1477 バラ科

(和名) ハクロバイ

(学名) *Dasiphora fruticosa* (L.) Rydb. var. *mandshurica* (Maxim.) Nakai

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR
2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回は確認個体数が100未満、2箇所の分布であるのに対し、今回は調査精度の向上により個体数が100以上、5区画の記録であった。一部に動物による食害がみられるものの、個体数に大きな変動はないと思われる。シカ食害のほか、園芸採取、自然遷移、石灰岩採掘も危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い石灰岩地にわずかに分布する。

【特記事項】 国内分布は本州、四国亜高山から高山の石灰岩地に限定的。標本：SMNH-As10242 (1986)、SMNH-As10239 (1970)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	◎							



1478 バラ科

(和名) アカバナシモツケソウ

(学名) *Filipendula multijuga* Maxim. var. *ciliata* Koidz.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし
2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は1地点、二次メッシュが1区画の記録である。報告1地点の現地確認のみであり、分布の実態はわからない状況にある。森林伐採が主な危険要因である。

【県内生育状況】 草原や稜線などに分布する。

【特記事項】 国内分布は関東周辺。標本：SMNH-As50940 (1998)。文献：須田ほか2019 (県内石灰岩地)、岩田2005 (秩父山地)、愛川2003 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1479 バラ科

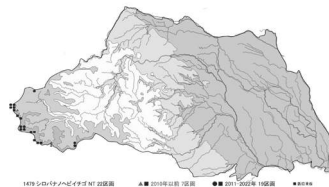
〔和名〕 シロバナノヘビイチゴ
〔学名〕 *Fragaria nipponica* Makino

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 EN
2005 VU 1998 なし
全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 報告数は前回と同程度の記録であったが、確認個体数が前回の1,000以上から今回10,000以上に大幅な増加であった。草丈が低いシカによる食害の影響も小さく、近年の林床の乾燥化に伴い分布域を拡大していると思われる。自然遷移、シカ食害、森林伐採、園芸採取が主な危険要因である。
【県内生育状況】 日当たりの良い天然林の林縁や草原に分布している。
【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1480 バラ科

〔和名〕 オオダイコンソウ
〔学名〕 *Geum aleppicum* Jacq.

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 なし
2005 なし 1998 なし
全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は1地点である。武甲山周辺の林道沿いで2011年に記録されたもので、その地点ではその後発見がなく消滅したと思われる。道路沿いの生育地であるため常に開発による消滅の危険性は高い。
【県内生育状況】 木陰や山道沿いに生育する。
【特記事項】 国内分布は中部以北。標本はSMNH-As10095 (1965)・SMNH-As10096 (1983)・SMNH-As10097 (1984) など。文献：岩田2005 (秩父山地)、清水2005 (秩父地方)、寺尾1999 (神泉村) 他。武甲山の石灰岩地で確認された記録がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

1481 バラ科

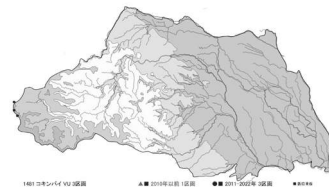
〔和名〕 コキンバイ
〔学名〕 *Geum ternatum* (Stephan) Smedmark

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN
2005 NT 1998 NT
全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は1,000未満、報告数が3地点で前回と同様の記録である。生育地が限定的であり、シカなどの動物による食害や林床の乾燥化による個体数減少や消滅の危険性がある。この他に自然遷移、産地極限も危険要因である。
【県内生育状況】 石灰岩地下部の林床に生育している。
【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1482 バラ科

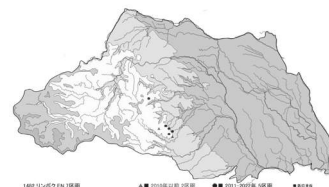
〔和名〕 リンボク
〔学名〕 *Laurocerasus spinulosa* (Siebold et Zucc.) C.K.Schneid.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN
2005 VU 1998 なし
全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 二次メッシュは5区画の記録である。確認個体数は100未満で前回の1,000未満に比べて減少した。開発による森林伐採や道路工事などの他に、自然遷移も危険要因である。
【県内生育状況】 照葉樹林内の谷間など湿り気の多い場所に生育している。
【特記事項】 国内分布は関東以西。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]、ときがわ町指定天然記念物 [リンボク] (玉川地内)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			



1483 バラ科

〔和名〕 オオズミ

〔学名〕 *Malus toringo* (Siebold) Siebold ex de Vriese var. *zumi* (Matsum.) H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 DD
1998 DD

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 分類学的課題があるが、確定していないことから、ここでは従来通りオオズミとして評価を行った。前回と同様に二次メッシュ1区画であるが、確認個体数は100以上から100未満に減少した。自然遷移やシカによる食害が危険要因である。

【県内生育状況】 風衝ササ草原に生育している。

【特記事項】 オオズミはズミの変種で、葉はズミより全体に大形でほとんど分裂しない、花柱が4～5本であるものを指す(小泉, 1934)。本県のもは葉が分裂しないものの、ズミと比べて葉が大きいといえず、また花柱は3～5本であるため、オオズミに充ててよいかは分類学的再検討が必要である。池田ほか(2016)ではオオズミは正体不明の分類群とされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1484 バラ科

〔和名〕 イワキンバイ

〔学名〕 *Potentilla ancistrifolia* Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.) Koidz.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

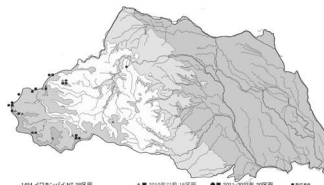
【評価所見】 確認個体数は前回の10,000未満から今回1,000未満に減少したが、多くの場所で確認されている。生育地が奥地であるため開発による減少の危険性は少ないが、自然遷移やシカなどの動物による食害のほか、石灰岩採掘や森林伐採が危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩やチャートの岩場に広く分布している。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	◎	○	○					



1485 バラ科

〔和名〕 カワラサイコ

〔学名〕 *Potentilla chinensis* Ser.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

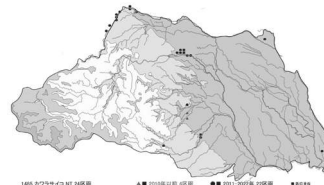
【評価所見】 前回は二次メッシュ4区画で確認個体数は2,000未満であったが、今回は二次メッシュ22区画、確認個体数4,000前後となった。前々回から前回は減少傾向であったが、今回は河川敷中心の調査精度の向上により増加した。採取による危険性は低い、生育地の開発によるかく乱や自然遷移の進行により消滅する可能性はある。

【県内生育状況】 荒川・利根川(本支流)沿いの中流域の日当たりの良い氾濫原に分布している。道路沿いの造成地や河岸の埋め立て地においても確認があるが、他所より運ばれてきた可能性が高い。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	◎		○		◎



1486 バラ科

〔和名〕 ヒロハノカワラサイコ

〔学名〕 *Potentilla niponica* Th.Wolf

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

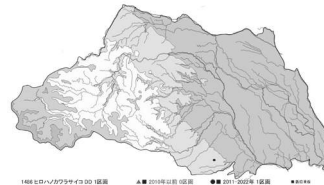
【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数が1地点、二次メッシュが1区画の記録である。草地や河川敷などに分布するが生育地の情報は少ない。草地開発、河川改修が主な危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりのよい草地や河川敷などに生育する。

【特記事項】 標本: 矢島標本YT1080(所沢市2015)がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



1487 バラ科

〔和名〕 **タカネバラ** (タカネイバラ)

〔学名〕 *Rosa nipponensis* Crép.

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は前回と同様で100未満であるが、報告数が前回より減少しており、個体数は減少傾向にある。シカなどの動物による食害が危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い石灰岩地の崖上などに生育している。

【特記事項】 標本：SMNH-As51959 (2004)、SMNH-As53908 (1986)。文献：岩田・林2020 (秩父市)、須田ほか2019 (県内石灰岩地)他。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]。

高山性の落葉低木で日本産の野生バラの中では最も標高の高い場所に生育している。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1488 バラ科

〔和名〕 **ゴヨウイチゴ**

〔学名〕 *Rubus ikenoensis* H.Lév. et Vaniot

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

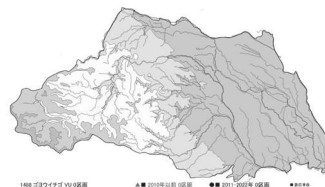
【評価所見】 前回調査では個体数は1,000未満であったが、その後不確実情報であることが分かった。今回の調査では記録がなかった。生育の実態は不明であるが、記録された箇所が県境尾根沿いの針葉樹林帯の林縁であるため、シカなど動物の食害により個体数が激減していると思われる。

【県内生育状況】 林縁などに生えるつる性の落葉低木。

【特記事項】 国内分布は中部以北。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1489 バラ科

〔和名〕 **サナギイチゴ**

〔学名〕 *Rubus pungens* Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 前回の調査では100個体未満であったが、今回も100個体未満で変化はなかった。シカによる食害のほかに自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】

【特記事項】 標本：SMNH-As10585 (1983)、SMNH-As23152 (1983)。文献：五十嵐・岩田2005 (東大演習林)、岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか2000 (秩父山地) 他。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1490 バラ科

〔和名〕 **ナガボノワレモコウ** (ナガボノアカワレモコウ、ナガボノシロワレモコウ、ケナガボノシロワレモコウ)

〔学名〕 *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

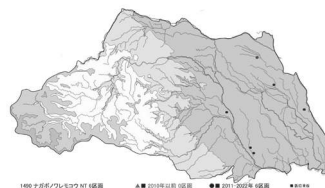
【評価所見】 前回までは白花のナガボノシロワレモコウ、赤花のナガボノアカワレモコウと細分されていたものをナガボノワレモコウにまとめて評価した。確認個体数は10,000前後と大きな変化はない。市街地周辺の低地に主に分布しているため開発、管理放棄による自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】

【特記事項】 本県では赤花のナガボノアカワレモコウ *f. purpurea* (Trautv. et C.A.Mey.) はごく少なく、ほとんどは白花であり、後者はナガボノシロワレモコウ *f. alba* (Trautv. et C.A.Mey.) Kitam.に充てられていたが、厳密には館林市から記載されたコバナワレモコウの品種であるケナガボノシロワレモコウ *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link var. *parviflora* Maxim. *f. pilosa* H.Hara (原, 1978) にあたる。ケナガボノシロワレモコウは葉裏に毛があり、花穂は幅やや狭く葉幅が狭い型で、松澤・青木 (2008) によれば広く群馬県館林市・邑楽郡地域に分布する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	◎



1491 バラ科

〔和名〕ナンキンナナカマド

〔学名〕*Sorbus gracilis* (Siebold et Zucc.) K.Koch埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 NT
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

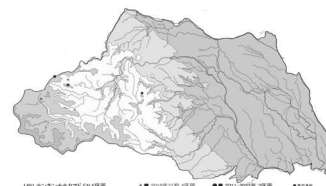
【評価所見】 確認個体数は100程度であって、前回調査と変化はなかった。これまで二子山東岳周辺で多くの記録があるが、動物の食害による個体数の減少が今後も懸念される。また、自然遷移も懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 主に尾根沿いのチャートや石灰岩の上に生育している。

【特記事項】 国内分布は東北南部・北陸以西。標本：SMNH-As50961 (1998)、SMNH-As51978 (1997) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1492 バラ科

〔和名〕アイズシモツケ

〔学名〕*Spiraea chamaedryfolia* L. var. *pilosa* (Nakai) H.Hara埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

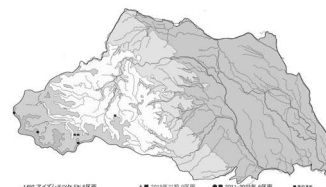
【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は6地点、二次メッシュが4区画の記録である。生育地が限定的であり、動物による食害や岩場の崩落などが主な危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い石灰岩地や岩場に生育している。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As1711 (1955)、SMNH-As53904 (1986)。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1493 バラ科

〔和名〕イワシモツケ

〔学名〕*Spiraea nipponica* Maxim. var. *nipponica*埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 EN
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

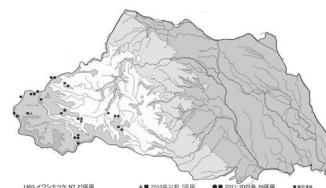
【評価所見】 前回は確認個体数が1,000未満、報告数が16地点であったのに対し、今回は確認個体数3,000以上、報告数26地点に増加した。動物による食害が一部にみられるものの日当たりの良い岩場を好むことや枝がよく分岐するという種の特徴から個体数は増加傾向にある。石灰岩採掘、シカ食害、園芸採取が危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地帯にある日当たりの良い尾根上に広く生育している。

【特記事項】 国内では近畿地方以北の蛇紋岩地や石灰岩地に限定的に分布。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1494 ブナ科

〔和名〕アカガシ

〔学名〕*Quercus acuta* Thunb.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 NT
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

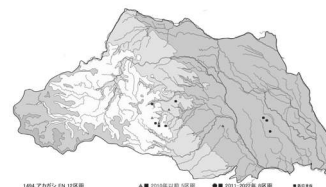
【評価所見】 二次メッシュは前回までの9区画から今回の4区画に減少したが、確認個体数は前回同様に1,000未満である。人為的要因の強い場所に生育しており、植林や環境維持のための伐採や管理放棄による自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 植林地や社寺林内に分布する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎		○		○	



1495 ブナ科

(和名) ナラガシワ

(学名) *Quercus aliena* Blume埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は2地点、二次メッシュが2区画の記録である。河川沿いに分布する種であるが生育地の情報は少ない。森林伐採が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 主に河川沿いに分布している。

【特記事項】 標本はSMNH-As56807 (2017)、SMNH-As56881 (2018) がある。文献：須田 (2018)

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			



1496 ブナ科

(和名) ツクバネガシ

(学名) *Quercus sessilifolia* Blume埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100未満、報告数は8地点、二次メッシュが6区画の記録である。生育地が主に社寺林内であるため環境維持のための伐採等が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 社寺林などを中心に分布する。

【特記事項】 標本はSMNH-As52044 (2004)、SMNH-As56879 (2018) などがある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○	◎			



1497 カバノキ科

(和名) チチブミネバリ

(学名) *Betula chichibuensis* H.Hara埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 EN

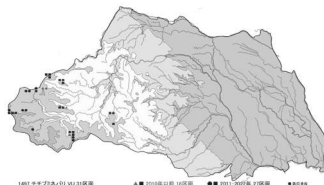
【評価所見】 前回と同様に確認個体数は1,000未満であり、二次メッシュは8区画の記録である。一部の生育地で幼木の確認はあるものの、それ以外の場所ではほとんど更新が行われていない。石灰岩の採掘、自然遷移、シカ食害、森林伐採、産地極限が危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地(岩壁・尾根部)に分布する。

【特記事項】 国内分布は群馬県・埼玉県・東京都・長野県にまたがる秩父山地と岩手県北上山地に隔離分布する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1498 カバノキ科

(和名) ヤエガワカンバ (コオノオレ)

(学名) *Betula davurica* Pall.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 NT

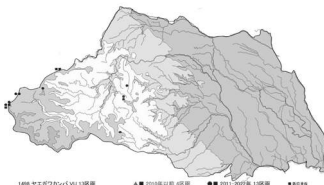
【評価所見】 確認個体数は前回の1,000未満から今回の100前後に減少した。調査精度の向上により生息地の確認は増加したが、生育地に幼木がなく衰弱による枯損もみられるため個体数は減少傾向にある。自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 尾根上など比較的日当たりのよい乾燥した場所に生育する。

【特記事項】 全国的には本州中部・北海道に分布が限定される植物で、向陽の山地や湿地周辺、高原の草地など開けた明るい場所に生育する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1499 ドクウツギ科

【和名】**ドクウツギ**

【学名】*Coriaria japonica* A.Gray

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR

2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

前回の確認個体数は100未満であったが、今回1個体の記録のみであった。本種は限られた場所でしか確認されておらず、また種子には毒が含まれ除去されることも多いため、減少傾向にあると思われる。

【県内生育状況】

前回は、川沿いにある岩の割れ目に生育していた。

【特記事項】

標本：SMNH-As11662（1968）、SMNH-As37877（1979）、岩田標本43646（1996）。文献：太田2000（幸手市）、寺尾1999（神泉村）、神川町・神川町教育委員会1989（神川町）他。日本三大有毒植物の一つで、全株に神経毒を含む落葉低木である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

1500 ウリ科

【和名】**ゴキヅル**

【学名】*Actinostemma tenerum* Griff.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU

2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の確認個体数は1,000未満で、前回の10,000未満から減少した。場所によっては多くの個体数が確認されているが、水の流れに任せて種子を散布させる一年草のため、生育状況が不安定であり、継続的な調査が必要と考えられる。自然遷移、河川改修、管理放棄、河川敷開発、水質汚濁が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】

河川敷や池沼の岸など水辺の草地を中心に分布し、フェンスや抽水植物に絡まって生長する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	◎

1501 ニシキギ科

【和名】**オオツルウメモドキ**

【学名】*Celastrus stephanotidifolius* (Makino) Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし

2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

確認個体数は100未満、報告数は2地点、二次メッシュが2区画の記録である。広い範囲に分布していると思われるが、類似のツルウメモドキとの識別が葉裏脈上の毛の有無であるため報告数は少なかった。生育情報の不足により危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

林縁などに生育する。

【特記事項】

標本：SMNH-As2239（1948）、SMNH-As38210（1983）、SMNH-As38211（1986）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1502 ニシキギ科

【和名】**シラヒゲソウ**

【学名】*Parnassia foliosa* Hook.f. et Thomson var. *foliosa*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR

2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

前回の確認個体数は1,000未満であったの対し、今回は1,000以上であった。調査精度の向上により1地点当たりの確認個体数が増えたと思われる。動物による踏みつけやシカの食害に伴う林床の乾燥化の他、自然遷移、石灰岩採掘、園芸採取が危険要因である。

【県内生育状況】

石灰岩地に分布する。やや湿った場所に生育する。

【特記事項】

特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							

1503 ニシキギ科

(和名) ウメバチソウ

(学名) *Parnassia palustris* L. var. *palustris*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 CR
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回の確認個体数はゼロであったが、今回は調査精度の向上により100以上に増加した。過去には標高の低い湿地にも生育が確認されていたが、現在は亜高山帯の草地のみで記録されている。動物による食害や踏みつけの他に、園芸採取、自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い谷戸湿原や山地草原に生育する。

【特記事項】 標本:SMNH-As9770 (1972)、SMNH-As5891 (1976) など。文献:岩田2005 (秩父山地)、三上ほか2000 (秩父市)、落合2000 (寄居町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。旧版植物誌には6郡市に記録がある。寄居町(三ヶ

山)の生育地は開発により消滅した。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1504 カタバミ科

(和名) カントウミヤマカタバミ

(学名) *Oxalis nipponica* S.Aoki et J.Murata, subsp. *kantoensis* (Terao) S.Aoki et J.Murata var. *kantoensis* (Terao) S.Aoki et J.Murata

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

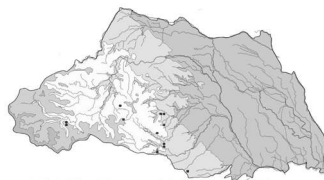
【評価所見】 今回の確認個体数は37,000未満であり、前回の10,000未満よりも増加した。5地点の報告があった。個体数は多いが、丘陵地などの開発圧力が強い場所にも生育している。自然遷移、森林伐採が大きな危険要因となる。また道路工事や花の鑑賞価値が高いため園芸採取による減少も懸念される。

【県内生育状況】 林内や林縁部に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東周辺 (関東南西部・東海東部・伊豆半島)。基本種のミヤマカタバミは、葉裏に毛が密生し、果実が長楕円形でより大きい。しかし、根元につく閉鎖花の果実は、ミヤマカタバミも小型なので注意が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○		◎			



1505 カタバミ科

(和名) オオヤマカタバミ

(学名) *Oxalis obtriangulata* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 VU

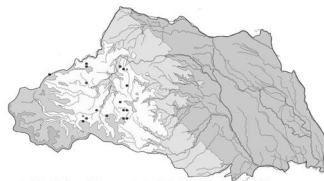
【評価所見】 今回の確認個体数は1,800未満であり、前回の10,000未満よりも減少した。8地点の報告があり、集団数は増加した。森林伐採、シカ食害、園芸採取、自然遷移、産地極限が大きな危険要因となる。

【県内生育状況】 やや陰湿な林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。カントウミヤマカタバミのように群生することはなく、疎らに点在する程度である。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○					



1506 トウダイグサ科

(和名) ノウルシ

(学名) *Euphorbia adenochlora* C.Morren et Decne.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 NT

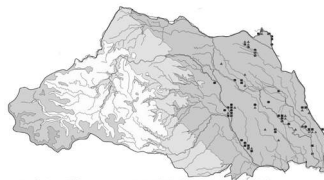
【評価所見】 今回の確認個体数は12万以上であったが、前回の23万以上よりは減少した。15地点の報告があった。個体数、集団数は多いが、生育地の多くが開発圧力の強い低地であった。自然遷移、湿地開発、管理放棄、園芸採取、河川敷開発が大きな危険要因となる。

【県内生育状況】 河川の氾濫原などに分布する。地下の根茎で広がり、しばしば群生する。

【特記事項】 本種の生育には、野焼きや草刈りなどの継続的な植生管理も重要である。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	◎



1507 トウダイグサ科

(和名) マルミノウルシ (ベニタイゲキ)

(学名) *Euphorbia ebracteolata* Hayata

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 NT

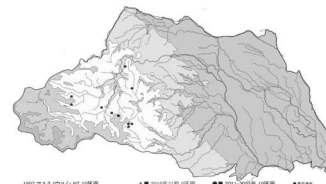
【評価所見】 前回は1,000未満であったが、今回の確認個体数は2,000未満であり、7地点の報告があった。森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となる。また土地造成、道路工事による減少も懸念される。

【県内生育状況】 落葉樹林の林内や林縁、林縁近くの草地などに生育する。

【特記事項】 国内では北海道・本州（東北・埼玉・中部）・三重・香川に隔離分布。明らかにシカの忌避植物であり、確認地点や個体数増加の一因と考えられる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○					



1508 トウダイグサ科

(和名) センダイタイゲキ

(学名) *Euphorbia sendaica* Makino

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 NT

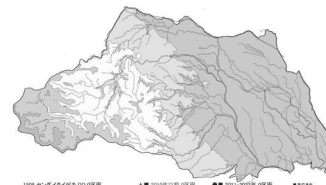
【評価所見】 1953年の標本はあるものの、近年は県内での生育が確認されていない。隣接都県に生育しており、今後の確認が期待される。分布未確認のため危険要因は不明である。

【県内生育状況】 沢沿いなどのやや湿った林内や林縁に生育する。地下茎が長く伸長して、大きな群落を形成する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：東北大学植物標本庫（TUS）（白岡1953）。文献：桧山1965（武蔵野（広域））、黒沢・大橋2000（白岡）。長い地下茎により群生するトウダイグサ属植物は、本県では低地の湿地に生育するノウルシと本種だけである。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1509 トウダイグサ科

(和名) シナノタイゲキ (ハヤザキタカトウダイ)

(学名) *Euphorbia sinanensis* (Hurus.) T.Kuros. et H.Ohashi

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は200前後であり、前回の400前後よりも減少した。4地点の報告があった。石灰岩採掘、自然遷移が危険要因となる。

【県内生育状況】 石灰岩地のみに生育する。

【特記事項】 国内分布は東北・中部・関東で限定的。別名の一つであるハヤザキタカトウダイは、武甲山産の植物をもとに記載された。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



1510 ヤナギ科

(和名) コゴメヤナギ

(学名) *Salix dolichostyla* Seemen subsp. *serissifolia* (Kimura) H.Ohashi et H.Nakai

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

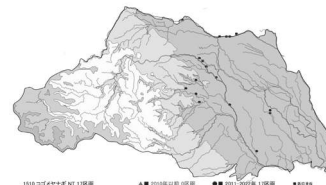
【評価所見】 新たに確認された生育地の報告件数は17地点、二次メッシュは10区画、個体数は100を超えない。また、その多くが市街化調整区域内で、森林伐採や河川敷開発の危険性がある。

【県内生育状況】 生育地は、河川敷や池沼の縁などである。

【特記事項】 標本はSMNH-As45（1952）がある。旧植物誌では児玉郡市に記録があるが、1998年版植物誌には記録がない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						◎	○	◎



1511 ヤナギ科

(和名) シバヤナギ

(学名) *Salix japonica* Thunb.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 NT2011 なし
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】生息地の報告は低山東帯の1地点だけだった。個体数は約20、しかも減少傾向にあると報告されている。危険要因として森林伐採、食害がある。

【県内生育状況】

【特記事項】国内分布は関東周辺。標本：SMNH-As6139（秩父市浦山1980）、SMNH-As41372（都幾川村1982）、仮標本（ト沢1992）。文献：岩田1987（秩父山系）。1998年版植物誌では、飯能市、旧都幾川村、行田市に分布記録がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



1512 ヤナギ科

(和名) チチブヤナギ

(学名) *Salix shiraii* Seemen var. *kenoensis* (Koidz.) Sugim.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】以前は木村（1989）に従い県内でシライヤナギと同定されていたものを、今回は大橋（2016）に従いチチブヤナギとして調査し評価を行った。新たに確認された生育地の報告は16地点、二次メッシュは9区画であった。個体数は1,000を超えない。生育地の多くは国立公園内にあり、一定の保護にある。石灰岩採掘、動物食害が考えられる危険要因である。

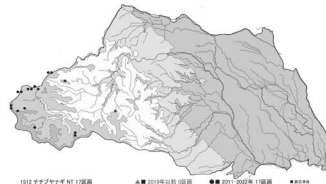
【県内生育状況】石灰岩地の崖地、岩上に生育する。

【特記事項】国内分布は埼玉、群馬、東京の石灰岩地で限定的。標本はSMNH-As56534（2016）、SMNH-As56547（2016）などがある。チチブヤナギはシライヤナギの変種で、成葉が楕円形～長楕円形または倒卵状長楕円形で、葉基部は切形ときに心形、葉の裏面には少なくとも中央脈に沿って絹毛があることで区別される（大橋、2016）。チチブヤナギは北村・村田（1979）では武甲山に固有で雄しべがY字型に2岐するも

のとされたが、Ohashi and Yonekura（2006）により分類群の範疇が再規定された。1998年版植物誌では秩父の9市町村の分布が記録されており、今回調査ともほぼ重なる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1513 スミレ科

(和名) エゾノタチツボスミレ

(学名) *Viola acuminata* Ledeb.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回確認された個体数は10,000個体程度、今回は20個体程度と現存する株数はきわめて少ない。新たな産地の発見が急務と思われる。林道工事などで乾燥化が進み、急激に数を減らしている。道路工事は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】やや湿った半陽地に生育している。

【特記事項】標本：SMNH-As51740（2004）、SMNH-As51739

（2004）など。文献：愛川2006（越生町）、岩田2005（秩父山地）、愛川2005（入間市）他。花は淡紫色で側弁有毛、距は短く溝がある。花柱上部に肉質の突起物がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

1514 スミレ科

(和名) キバナノコマノツメ

(学名) *Viola biflora* L. var. *biflora*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

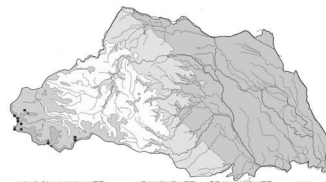
【評価所見】前回確認された個体数は約100、今回個体数は約2,000。登山道脇などでは園芸採取や最近の登山ブームで写真を撮るため踏みつけによる減少も危惧される。自然遷移、園芸採取、シカ食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】湿り気の多い陽地から半陰地の登山道脇や草地岩場などに生育している。砂礫地などに生育している個体は比較的安定している。

【特記事項】寒冷地植物であり、黄色の花をつけ、葉には微毛が散生している。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1515 スミレ科

(和名) ウスバスミレ

(学名) *Viola blandiformis* Nakai

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回確認された個体数は約1,000、今回の調査では約4,000であった。登山道脇などでは踏みつけなどがあり、前回の調査時には生育していたところは草地になっていた。トウヒの針葉樹林下に多く生育していて、シカ食害など動物の食害がみられる。自然遷移、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 針葉樹林の陰地に生育している。コケ類などと一緒に小群をつくる。

【特記事項】 国内では関東から東北、北海道に分布する。性質は弱く、少しの環境変化でも絶滅してしまう恐れがある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1516 スミレ科

(和名) ヒメミヤマスミレ

(学名) *Viola boissieuana* Makino var. *boissieuana*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回確認された個体数は約1,000、今回は70個体。前回の調査に比べ減少した。今のところ生育地も限定的である。生育地が隔離しており、詳細な調査が必要と思われる。確認報告が少なく情報が不足し危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 本来はブナ林や針葉樹林下に生育しているが、前回の調査で市街地や丘陵地でも見つかっている。特に標高の低い場所のものは針葉樹林下にある。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As51742 (2004)、SMNH-As13002 (1984)。文献：福嶋2004 (川越市)、

福嶋2003 (川越市)、岩田1987 (秩父山系)、武井1959 (甲武信)。フモトスミレに似た小型のスミレで、萼は三角状狭卵形で鋸歯の数は少なく粗い。フモトスミレより萼の数は少ない。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

1517 スミレ科

(和名) ヒゴスミレ

(学名) *Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認された個体数は前回10,000未満であったが、今回は50個体程度で減少した。確認件数も5地点で減少傾向にある。生育地が限られているので、伐採や林道工事で減少する恐れがある。草地環境の樹林化、樹林の高木化による林冠の閉鎖など、自然遷移による生育環境の悪化によって減少していると考えられる。土地造成も懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 やや乾燥した明るい林縁や林下、人為管理された低茎草地にまれに生育している。

【特記事項】 標本：SMNH-As51783 (2004)、SMNH-As51782 (2004) など。花は白色のみで側弁には少数の毛がある。ときにエイザンスミレや園芸種のナンザンスミレと混同されるが、本種は葉の裂片が細く繊細で、葉の数も少ない。近年の研究によって本種の生育に適した明るい生育環境が失われれるとともに、エイザンスミレと雑種を形成していくことが明らかになっている (神山, 2020)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○		○			



1518 スミレ科

(和名) エゾノアオイスミレ (エゾアオイスミレ、マルバケスミレ)

(学名) *Viola collina* Besser

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回確認された個体数は100、今回も100前後であった。確認件数は3地点、二次メッシュは2区画。園芸採取や動物食害などはあまりないが、林道開発や森林伐採などで少ない生育地が失われる恐れがある。

【県内生育状況】 日当たりのよい蛇紋岩地帯や石灰岩地帯に多く産する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。文献：岩田・林2020 (秩父市中津川)、磯田2006 (さいたま市)、岩田2005 (秩父山地)。

アオイスミレの寒冷地適応型といわれ、国内の生育地も北海道を除いて少ない。アオイスミレのように横走する匍匐茎は出さない。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1519 スミレ科

(和名) サクラスミレ

(学名) *Viola hirtipes* S.Moore

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認された個体数は、前回1,000未満、今回の調査では生育地は増えているが、個体数は400であった。森林伐採や林道開発、動物による食害などで著しく個体数が減少している。自然遷移、園芸採取も危険要因である。

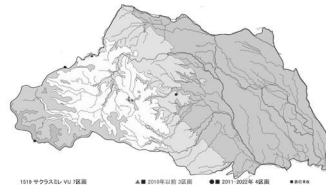
【県内生育状況】日当たりのよい草原や林縁、林下に生育している。伐採地跡など環境改変された場所で急激に増えたりするが、植林されたスギ、ヒノキなどの成長とともに減少する。

【特記事項】大型の淡紅紫色の花をつけるため、園芸採取が危惧される。葉は長楕円状卵形で表面には長い白毛がある。根が浅く水平に伸ばす性質のため、ある程度の生育範囲が必要であり、群生は少ない。近年、長野、群馬、埼玉で子房に散毛のある個体が見つかっている。特別地域指定植物 [秩父

多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	○			○			



1520 スミレ科

(和名) コミヤマスミレ

(学名) *Viola maximowicziana* Makino

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 EN
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

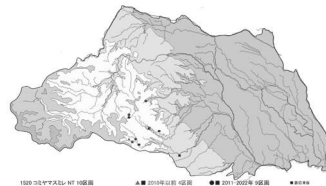
【評価所見】確認された個体数は前回10,000未満、今回は1,000前後であった。生育地が限定しているため、動物の食害が心配される。森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。また河川改修も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】渓流上部や水が染み出すような陰地に生育している。横走する根の途中から発芽、増殖し群落をつくることもある。

【特記事項】花は白色で萼は極端にそり返る。葉や葉柄には長い白毛を生じ、花時の葉は楕円状卵形、その後円状に近くなる。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	◎		○			



1521 スミレ科

(和名) タチスミレ

(学名) *Viola raddeana* Regel

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】確認された個体数は、前回も今回も50を超えない。報告件数も1地点で、生育地は限定的である。河川敷の草刈りや野焼きなどで生育地が失われる危険がある。園芸採取の報告もあり、これらが懸念される危険要因である。

【県内生育状況】渡良瀬川流域のヨシなどに寄りかかるように生育していて、生育地は限定的である。

【特記事項】国内分布は関東、九州（大分・鹿児島）で限定的。標本：TNS968709（1979）、TNS60954（1888）、TNS100827（1933）。文献：加須市環境安全部2016（加須市）、北川辺町

自然観察会（1985（北川辺町）、松山1965（武蔵野（広域））。花は小型の淡紫色で側弁には少数の毛がある。葉は三角状披針形。ニョイスミレに近縁で、寄りかかるヨシなどがいない場所ではニョイスミレ状に生育する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

1522 スミレ科

(和名) ミヤマスミレ

(学名) *Viola selkirkii* Pursh ex Goldie

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

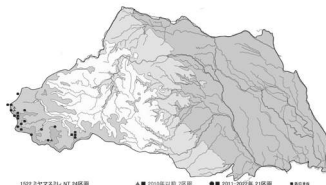
【評価所見】前回の確認個体数10,000未満、今回は4,000前後で減少している。確認地点数は増えたが、以前の生育地が乾燥して草地になっている場所も見受けられる。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】あまり日の当たらない林縁や林下に生育している。ときにコケ類などと一緒に生育していて、花後、根の途中から発芽し小さな群落を形成することもある。

【特記事項】関東から中部、東北、北海道に多くみられる。花色は淡紅紫色、葉は心臓状円形で表面には散毛がある。鋸歯は目立ち、基部は深い心臓形。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1523 スミレ科

(和名) シコクスミレ

(学名) *Viola shikokiana* Makino埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

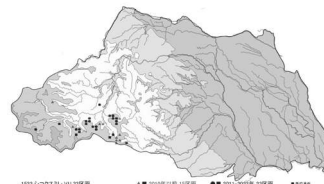
【評価所見】 確認された個体数は前回10,000未満で今回は4,000超であった。比較的個体数は多いが、生育地は限定的。伐採による乾燥化や出水による沢の崩壊などが危惧される。シカ食害、森林伐採、自然遷移、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林下や沢上部の湿り気のある場所に生育する。山地では比較的多くみられ、細い根で増殖するので群落をつくることもしばしばみられる。

【特記事項】 国内の生育地は散在的であり、関東以西の太平洋側に産する。埼玉県はほぼ北限にあたる。花は白色、萼は円状卵形で先端は鋭先形。葉の数は1-2枚。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



1524 スミレ科

(和名) ゲンジスミレ

(学名) *Viola variegata* Fisch. ex Link. var. *nipponica* Makino埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 確認された個体数は前回100未満、今回は500未満であった。報告件数は4地点と少ない。新たな生育地の発見が待たれる。シカ食害、自然遷移は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりのよい林縁や林下に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州（関東・中部・岡山）、愛媛と限定的。標本：SMNH-As51789 (2006)。花は白に近い淡紫色で裏面はやや濃い紫色をして、側弁は有毛。葉は広卵形で花後、円状になる。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1525 スミレ科

(和名) マキノスミレ

(学名) *Viola violacea* Makino var. *makinoi* (H.Boissieu) Hiyama ex F.Maek.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

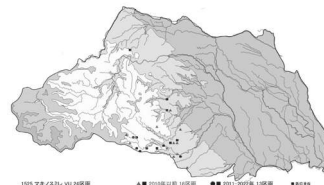
【評価所見】 確認された個体数は、前回10,000未満で、今回は1,000超であった。一方、調査が進み生育地点は増えた。人家に近い場所などは園芸採取が心配され、低山帯では動物による食害もみられる。森林伐採、道路工事が大きな危険要因となっている。また園芸採取、管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 乾燥した日当たりのよい林縁や林下に産する。

【特記事項】 花は紅紫色、葉は披針形で無毛のことが多い。生育初期にはヒナスミレ状の葉をもつ個体もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	◎		◎			



1526 スミレ科

(和名) シハイスミレ

(学名) *Viola violacea* Makino var. *violacea*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

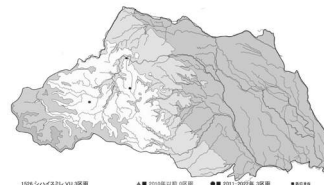
【評価所見】 減少の著しい種として調査実施した。3地点、二次メッシュ3区画において確認されたが、個体数はいずれの地点も9株以下で、総個体数は50株未満と推定する。森林伐採や林道開発などが危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりのよい林道脇や林下に生育している。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As2503 (1948)、SMNH-As5699 (1961)。根は白色で細く、葉は長卵形で花後卵形になる。葉の表面は無毛で脈状にいくらか散毛のある個体もある。葉の裏面は光沢のある鮮紫色。花は紫紅色で、側弁、下弁ともに紫条がある。距は紫色で、総じて上部に跳ね上がる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



1527 スミレ科

〔和名〕ヒメスミレサイシン

〔学名〕*Viola yazawana* Makino

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 NT

2011 EN
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

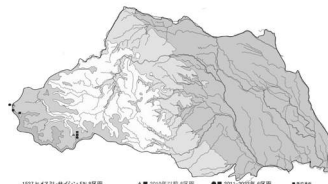
【評価所見】確認された個体数は、前回100未満であったが、今回は500未満となった。シカ食害、自然遷移に加え森林伐採も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】主に石灰岩地帯に多く産する。林縁から草地、林下の半陰地のコケ類の中など、比較的生育環境は広い。

【特記事項】国内分布は関東周辺（フォッサマグナ地域）。標本：SMNH-As23546（1986）、SMNH-As13353（1984）など。フォッサマグナ地域といわれる地域に限定的に生育する。関東、中部でしかみられない。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1528 アマ科

〔和名〕マツバニンジン

〔学名〕*Linum stelleroides* Planch.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD

2011 EX
1998 DD

全国カテゴリ

2020 CR

【評価所見】前々回調査以降今回も生育を確認することができなかった。絶滅したと考えられる。河川改修や草地開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】生育環境は、日当たりのよい草地や河川敷の砂礫地であった。

【特記事項】旧版植物誌では、北足立郡、南埼玉郡に分布の記録があるが、1998年版植物誌には記載がない。文献：植田ほか1992（大滝村）、桧山1965（武蔵野（広域））

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1529 オトギリソウ科

〔和名〕トモエソウ

〔学名〕*Hypericum ascyron* L. subsp. *ascyron* var. *ascyron*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT

2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

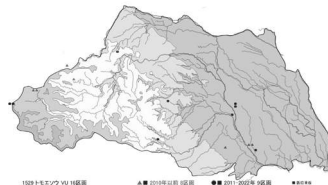
【評価所見】前回の個体数は10,000未満であったが、今回1,000以上に減少した。二次メッシュでは6区画と前回と変わらない。近年シカの食害が目立ち、園芸採取などが主な危険要因である。

【県内生育状況】日当たりの良い、やや湿り気のある草地に広く生育する。低地ではヨシ・オギの群落内にもみられる。

【特記事項】さいたま市桜区サクラソウ保護区ではサクラソウと共に保護されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○		○			○	○	◎	



1530 オトギリソウ科

〔和名〕コオトギリ（ハコネオトギリ）

〔学名〕*Hypericum hakonense* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU

2011 NT
1998 VU

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】標本及び現地での再検討により、過去の記録はフジオトギリなどの誤認が多いことが判明した。生育地全体で個体数は50個体前後と推計されるが、今回の4地点の報告も精査できないものもあるため、詳細な現存・生育状況にはなお不明な点が残る。危険要因として、主にシカ食害、自然遷移が挙げられる。

【県内生育状況】本種の分布の中心は富士・箱根地域にあって本県では元々まれである。開けた岩場や林縁の湿り気のある立地に生育する種であり、本県においては生育適地が日当たりのよい沢沿いや林道沿い、崩壊斜面などに限定的である。

【特記事項】国内分布は関東周辺（フォッサマグナ地域）に限定的。標本はSMNH-As-990,991（1951年）、SMNH-As-12953（1967年）、SMNH-As-12956（1986年）、SMNH-

As-57714（1995年）などがある。文献：愛川ほか1993（豆焼沢）。本種の葉は幅10mm程度、長さ30mm程度、萼片は幅1mm程度と共に小型で細長く、果実も長楕円形と細長い。葉面には黒点に加え少なからず明点があり、葉面の黒点はオトギリソウなどに比べやや粗大でふぞろいである。葉に黒点のみを持つものは品種クロテンコオトギリとされる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1531 オトギリソウ科

(和名) アゼオトギリ

(学名) *Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 EN

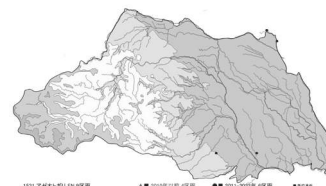
【評価所見】今回新たな生育地が報告されて、個体数は500以上で前回よりやや増加している。しかし、以前からの生育地で確認できなくなっている地点もある。自然遷移、管理放棄が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】田のあぜ道や水田脇の日当たりの良い湿地に生育する。現在では河川敷内の人手による草刈りや火入れなど、管理された場所にまれにみられる。

【特記事項】標本：SMNH-As51138 (2009)、SMNH-As42981 (1954)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○		○	◎



1532 オトギリソウ科

(和名) シナノオトギリ

(学名) *Hypericum senanense* Maxim. subsp. *senanense*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】標本及び現地での再検討により、過去の記録はフジオトギリなどの誤認が多いことが判明し、本種の確実な産地は現在のところ2地点しかない。今回の報告で精査できないものもあり、詳細な現存・生育状況にはなお不明な点が残るため、今後の精査が特に必要な種である。危険要因として、主にシカ食害、園芸採取が挙げられる。

【県内生育状況】本種は本来、亜高山帯の雪潤草原や開けた沢沿い、積雪圧下で成立する明るいダケカンバ林などに生える種で、本県での生育適地は元々限定的である。

【特記事項】国内分布は中部山岳周辺。法令指定状況：特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。本県のものは中部山岳に生育するものよりも小型であり、フジオトギリと誤認しやすい。フジオトギリの葉面には黒点のみがあるが、本種では普通少なからず黒点があり、花は径20～30mmと大きく、雄蕊は30～60と数多い。また、蕾はしばしば赤くなり開花後も花弁に赤みが残る。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1533 オトギリソウ科

(和名) ミズオトギリ

(学名) *Triadenum japonicum* (Blume) Makino

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

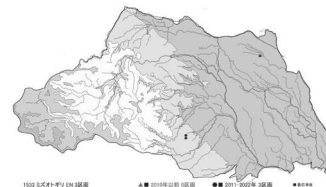
【評価所見】前回の調査では報告がなかった。今回の確認個体数は500以上で、二次メッシュで3区画である。しかし、以前からの生育地2地点では、生育確認ができなかった。主な危険要因は湿地開発や園芸採取などである。

【県内生育状況】谷津田や池沼の脇、耕作放棄地などにまれに生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As28120 (1985)、SMNH-As28119 (1983) ほか。生育地の一つは加須市浮野保護地内にあり、現在のところ保護されている。しかし他の場所は管理不足で絶滅が危惧される。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			○



1534 フウロソウ科

(和名) **グンナイフウロ**(学名) *Geranium onoei* Franch. et Sav. var. *onoei*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 CR
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は100未満で前回は100未満であった。2022年度の調査で新たな生育地が確認がされ、二次メッシュで2区画となった。主な危険要因はシカの食害や踏みつけによる減少となる。

【県内生育状況】 草地に生育している。主に三国尾根に点在する石灰岩地に多く見られる。

【特記事項】 標本：SMNH-As53911 (1986)、SMNH-As11371 (1973)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]。県内には花の色が濃く、葉の下面の脈上にだけ開出毛のある品種のタカネグンナイフウロが生育する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1535 フウロソウ科

(和名) **カイフウロ**(学名) *Geranium shikokianum* Matsum. var. *kaimontanum* (Honda) Honda et H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回の100未満よりやや減少した。二次メッシュで2区画、個体数も少なく絶滅の危険は高い。森林伐採やシカ食害などが主な危険要因となる。

【県内生育状況】 草地に生育している。主に三国尾根に点在する石灰岩地などで、生育地は限られている。

【特記事項】 国内分布は関東周辺。標本：SMNH-As11314 (2005)、SMNH-As11316 (1987)。文献：岩田2005 (秩父山地)、清水2005 (秩父地方)、岩田2000 (大滝村)、岩田ほか2000 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1536 フウロソウ科

(和名) **コフウロ**(学名) *Geranium tripartitum* R.Knuth var. *tripartitum*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

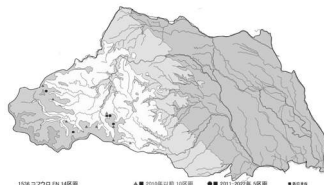
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000未満で前回は1,000未満であった。二次メッシュで5区画6地点である。森林伐採が大きな危険要因となっている。またシカ食害、自然遷移も懸念される。

【県内生育状況】 山地の溪流沿いで、やや湿り気のある林床や草地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As53182 (2005)、SMNH-As11326 (1987) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1537 フウロソウ科

(和名) **ハクサンフウロ**(学名) *Geranium yesoense* Franch. et Sav. var. *nipponicum* Nakai

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 なし
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回調査で再び生育が確認された。確認された生育地は2次メッシュは1集団で、個体数はわずかである。園芸採取やシカの食害が懸念される危険要因である

【県内生育状況】 県境尾根の亜高山帯の草地に生育している。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本はSMNH-As11376 (1973)。文献：矢島ほか2022 (秩父市)、愛川ほか1993 (大滝村)、岩田1987 (秩父山系)。前版では評価対象から削除されたが、再び生育が確認された。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1538 ミソハギ科

(和名) ヒメミソハギ

(学名) *Ammannia multiflora* Roxb.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

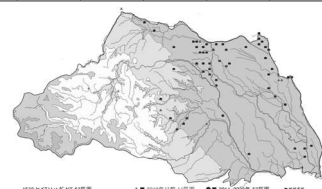
【評価所見】確認された個体数は、前回が1,000未満、今回は1,500超、生育地の報告も前回は8地点であったが、今回は63地点に増えた。加須・中川低地を中心に大宮台地、荒川西台地、丘陵南、丘陵北まで分布する。農薬汚染、帰化競合、管理放棄、自然遷移、土地造成が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】生育地は水田や湿った休耕田である。

【特記事項】生育地のほとんどは市街化調整区域である。外来種のホソバヒメミソハギの侵入の影響を受けており、調査の継続が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	◎



1539 ミソハギ科

(和名) エゾミソハギ

(学名) *Lythrum salicaria* L.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

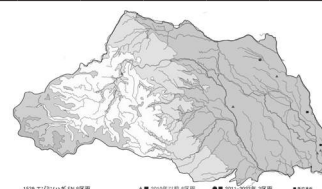
【評価所見】確認された個体数は、前回1,000未満であったが、今回は3,000超と増加した。生育地は、いずれも加須・中川低地である。生育地の1地点では5年間で個体数半減の報告があった。湿地開発、管理放棄が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】確認された生育地はいずれも湿地である。

【特記事項】本種の茎や葉には短毛があり、葉の基部の幅が広くやや茎を抱き、萼裂片間の付属片が直立するのに対し、類似種のミソハギは茎や葉に毛がなく、葉の基部は茎を抱かず短い葉柄があり、萼裂片間の付属片が開出する。各部の毛の量や萼裂片間の付属片の付き方がミソハギとの中間形を占めるものがあり、これは雑種のメミソハギとされ、しばしばみられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



1540 ミソハギ科

(和名) ミズスギナ

(学名) *Rotala hippuris* Makino

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CR

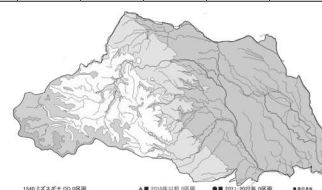
【評価所見】今回、生育は確認できなかったが、文献と標本があり、生存の期待はあるためさらなる調査が必要である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】かつては、丘陵南および加須・中川低地の池沼の水辺や水の浅いところに生育していた。

【特記事項】国内分布は関東以西。標本：TNS281091（羽生1960）、TNS409478（日高1958）。文献：奥山1984（羽生市）、埼玉県教育委員会1976（羽生市）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1541 ミソハギ科

(和名) ミズマツバ

(学名) *Rotala mexicana* Cham. et Schltdl.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 VU

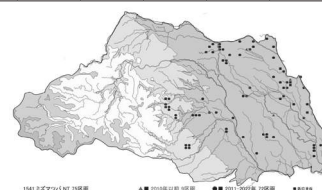
【評価所見】確認された個体数は、前回1,500前後であったが、今回は7,000前後。生育地も8地点から73地点（二次メッシュ19区画）と増加した。しかし、水生植物は水分条件などの環境変化により、個体数の変動も大きいことを考慮する必要がある。農薬汚染、管理放棄、自然遷移、土地造成、湿地開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】生育地は水田や畔、休耕田などである。

【特記事項】生育地の多くは市街化調整区域にある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	◎



1542 ミソハギ科

〔和名〕 **ミズキカシグサ**

〔学名〕 *Rotala rosea* (Poir.) C.D.K.Cook

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN

2011 なし
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 報告された生育地は1地点、個体数は約300。生育地は水田などの湿地のため、季節による水分量の変動の影響を受けると考えられる。2年間で個体数2割減少の報告もあった。草地開発や土地造成、園芸採取が危険要因である。

【県内生育状況】 水田などの湿地に生育する。

【特記事項】 標本：MAK121145 (1888)、矢島標本2022YT256 (2021)。文献：矢島2022 (宮代町)、川本町1989 (川本町)、荒野・安田1984 (富士見市)、埼玉県教育委員会1976 (羽生市)。県内の生育が不確かであるとして前版では削除されていた。今回の調査で宮代の保全団体が発見し、2021年生育が確認された。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

1543 ミソハギ科

〔和名〕 **ヒメビシ**

〔学名〕 *Trapa incisa* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 確認された個体数は前回約50であったが、今回は10未満と減少している。生育地も前回9地点から、今回加須・中川低地の沼からの暫定的な報告が1地点のみであった。浮水葉の形態のみならず、種子による同定が決め手になる。今後の継続した調査が必要である。池沼開発や水質汚濁が危険要因である。

【県内生育状況】 ヒシに混じって池沼に生育している。生育地は市街化調整区域内にある。

【特記事項】 標本：SMNH-As53164 (2006)、SMNH-As51988 (2004) など。文献：加須市環境安全部2016 (加須市)、嵐山町博物誌植物部会2012 (嵐山町)、長須2007 (杉戸町) 他。

旧植物誌では5郡市から報告があったが、1998年版植物誌では分布情報は3地点ある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

1544 ミソハギ科

〔和名〕 **ヒシ**

〔学名〕 *Trapa japonica* Flerow

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

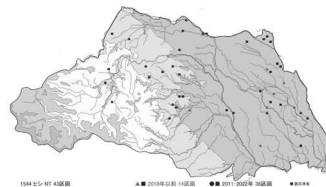
【評価所見】 確認された個体数は前回20,000超、今回も20,000超であった。生育地は36地点であったが、10地点で5年間で2～8割の個体数減少が報告されている。水質汚濁や池沼開発、農業汚染、河川改修などの危険性がある。また、個体数の把握に不確定要素があり、調査の継続が必要である。

【県内生育状況】 池や沼に分布する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○	○	○	○	◎



1545 ミソハギ科

〔和名〕 **オニビシ**

〔学名〕 *Trapa natans* L. var. *quadrspinosa* (Roxb.) Makino

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

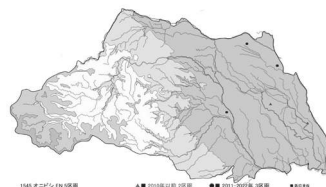
【評価所見】 確認された個体数は前回1,000超であったが、今回は500超と減少した。生育地は3地点、その中の1地点から5年間で個体数半減の報告があった。いずれも市街化調整区域内のため開発圧力が強い。管理放棄や動物被害が考えられる危険要因である。

【県内生育状況】 生育地は、池や沼である。

【特記事項】 標本：SMNH-As43471 (1954)。荒川西台地の分布は文献による (荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 生態系モニタリング専門委員会、2018)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		○



1546 アカバナ科

(和名) ウスゲヤナギラン

(学名) *Chamaenerion angustifolium* (L.) Scop. subsp. *circumvagum* (Mosquin) Moldenke

埼玉カテゴリ

2024 EN 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

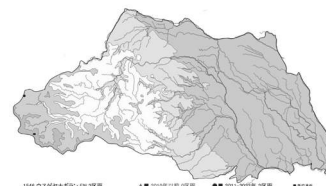
【評価所見】これまでヤナギランとしていたものは北東北に分布し、県内のものは細分化されたウスゲヤナギランとして調査を実施した。生育地の報告は2地点、二次メッシュは2区画であった。個体数は約20と少ない。シカ食害も報告されており、絶滅の危険性が高い。

【県内生育状況】山地帯のものは岩の隙間に1株のみ生育している。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：SMNH-As13542 (1987)、SMNH-As13541 (1986) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1547 アカバナ科

(和名) ウシタキソウ

(学名) *Circaea cordata* Royle

埼玉カテゴリ

2024 VU 2011 NT
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

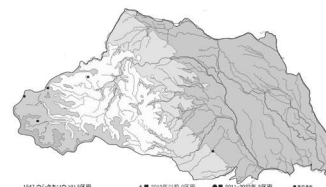
【評価所見】前回確認できた個体はなかったが、今回10個体が確認された。現地確認は2地点。他に採集標本リストから2地点、文献による1地点が確認された。シカ食害が報告されており大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】林床または林縁に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○				○		



1548 アカバナ科

(和名) ホソバアカバナ

(学名) *Epilobium palustre* L.

埼玉カテゴリ

2024 EN 2011 EN
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

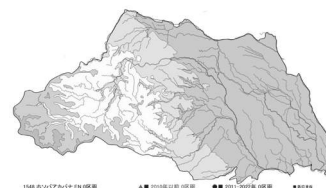
【評価所見】前回に続き、今回も確認することができなかった。絶滅したとは言い切れず継続した調査が必要である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】1998年版植物誌では、秩父市内の湿地に生育した記録がある。

【特記事項】国内分布は中部以北。河川の増水や河川改修などで、生育環境が激変し個体数を減らしてきた可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1549 アカバナ科

(和名) トダイアカバナ

(学名) *Epilobium platystigmatosum* C.B.Rob.

埼玉カテゴリ

2024 VU 2011 EN
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

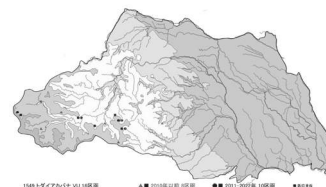
【評価所見】確認された個体数は前回2,000超、今回は1,000超であった。生息地は10地点あるが、そのうち3地点では5年間で2～5割の個体数減少報告がある。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また石灰岩採掘、産地極限も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】生育環境はやや湿った場所である。

【特記事項】国内分布は関東以西。文献：岩田・林2020（豆焼沢・雁峠）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	◎	○					



1550 アカバナ科

(和名) ミズユキノシタ

(学名) *Ludwigia ovalis* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認された個体数は前回50超、今回は20個体で生育地も2地点の報告があった。池沼開発、園芸採取が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】池沼などの水辺に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As51203 (2004)、SMNH-As25137 (1979)。文献：愛川2004 (鳩山町)、落合2000 (寄居町)、高橋1991 (寄居町) 他。生育地は工業地域および市街化調整区域にある。1地点は保全された区画に生育している。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			

1551 アカバナ科

(和名) ミズキンバイ

(学名) *Ludwigia peploides* (Kunth) P.H.Raven subsp. *stipulacea* (Ohwi) P.H.Raven

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし2011 DD
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】前回確認された個体数は10を超えないが、今回は確認できなかった。さらなる調査が必要である。自然遷移が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】池や小河川のところどころにつくられるほとんど水の流れのない湿地または浅水域に自生する。

【特記事項】国内分布は関東以西。今回の調査では自生としての分布の確認はできなかったが、荒川西台地、大宮台地での生育は確認している。しかし、これらは持ち込み（外来）と考えられるので自生とはみなさない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1552 ミカン科

(和名) フユザンショウ

(学名) *Zanthoxylum armatum* DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

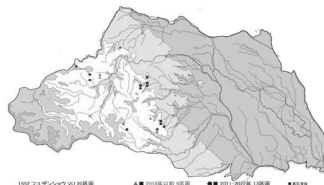
【評価所見】確認された地点数は12、個体数は100未満で前回も100未満だった。林内や林縁に点々と生育しており、各地点の確認個体数は少ない。各地点で減少傾向にあると考えられるため、絶滅の危険性は高まっている。道路工事が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】

【特記事項】国内分布は東北南部以南。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	◎	○				



1553 ジンチョウゲ科

(和名) オニシバリ (ナツボウス)

(学名) *Daphne pseudomezereum* A.Gray

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

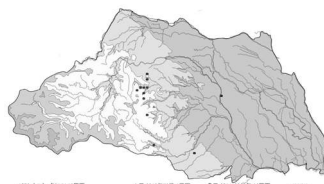
【評価所見】確認された個体数は前回10超、今回は100超で4地点から確認された。森林伐採、河川改修、自然遷移、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】河川敷の高水敷の草地などに生育する。

【特記事項】生育地はいずれも市街化調整区域で、保護などは受けていない。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○	○		○	



1554 ジンチョウゲ科

(和名) チョウセンナニワズ

(学名) *Daphne pseudomezereum* A.Gray var. *koreana* (Nakai) Hamaya

埼玉カテゴリー

2024 EN
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリー

2020 VU

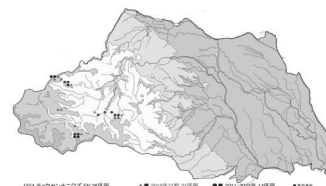
【評価所見】確認された地点数は14、個体数は1,000未満で前回の10,000未満から減少した。生育地では本種以外の低木はほとんどみられないことから、シカ食害の本種への影響は限定的と考えられる。安定して生育しており、絶滅の危険性は低くなっている。自然遷移、シカ食害、森林伐採、石灰岩採掘が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】石灰岩地の林床に生育する。

【特記事項】国内分布は本州中部（秩父・南アルプス）、四国、九州中部の石灰岩地に限定的。標本:SMNH-As52971(2007)、SMNH-As51728(1997)など。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1555 ジンチョウゲ科

(和名) コガンピ

(学名) *Diplomorpha ganpi* (Siebold et Zucc.) Nakai

埼玉カテゴリー

2024 EX
2005 DD2011 EX
1998 DD

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】前々回以降今回も生育を確認することができなかった。絶滅したと考えられる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】生育環境は、日当たりのよい草地や河川敷の砂礫地である。

【特記事項】国内分布は関東以西。標本:堀江標本2050(1970)。文献:堀江ほか1982(熊谷市)、東京薬科大学植物研究部1977(狭山丘陵)、飯能市史編集委員会1977(飯能市)他。旧植物誌では、北足立郡、南埼玉郡に分布の記録があるが、1998年版植物誌には記載がない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1556 アブラナ科

(和名) コカイタネツケバナ

(学名) *Cardamine kokaiensis* Yahara, Soejima, Kudoh, Šlenker et Marhold

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

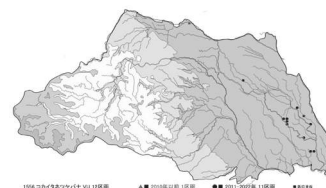
【評価所見】生育地の報告は10地点、二次メッシュは3区画であった。個体数は2,000超。継続した生育確認のできている4地点において増減の報告はなく一定している。河川改修、水質汚濁は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】生育地は河川敷の湿ったところである。

【特記事項】国内分布は本州(関東から近畿)の低湿地。標本:矢島標本YT029(2022)。文献:木村2020(西区・岩槻区)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	◎



1557 アブラナ科

(和名) ミズタガラシ

(学名) *Cardamine lyrata* Bunge

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 NT2011 EN
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

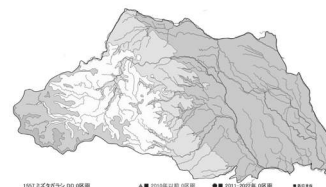
【評価所見】旧版植物誌では9郡市すべてから、1998年版植物誌でも4町2村の記録があるが、前々回調査以降の生育の確認はない。生育の可能性はあり、今後の詳細な調査が必要である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】過去の県内分布は、湿地や水田の周辺に生育した。

【特記事項】文献:嵐山町博物誌植物部会2012(嵐山町)、岩槻市2005(岩槻市)、山下2003(小川町)他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1558 アブラナ科

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし

2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CR

〔和名〕ヘラハタザオ

〔学名〕*Catolobus ligulifolia* (Nakai) Yonek.

【評価所見】

確認された個体数は前回今回ともに100を超えない。今回報告された生育地は1地点。集団数が少なく分布も限られている。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】

石灰岩地に生育する。

【特記事項】

国内分布は関東西部・南アルプスで限定的。標本：岩田標本82189（2008）、岩田標本79306（2007）。文献：岩田・

林2020（秩父市中津川）、須田ほか2019（県内石灰岩地）、岩田2005（秩父山地）他。生育地は国立公園内の第2種特別地域にある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

1559 アブラナ科

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし

2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕エゾハタザオ

〔学名〕*Catolobus pendula* (L.) Al-Shehbaz

【評価所見】

生育地の確認は2地点、二次メッシュも2区画であった。個体数は約30で、集団数ともに少ない。周辺の植生を含めシカの食害を受けている。また、その影響で植生が貧弱化し土壌流出が進むと絶滅が危惧される。減少の危険性が高い。

【県内生育状況】

生育地は石灰岩地で限定的である。露頭斜面及び崩石土上に生育する。

【特記事項】

国内分布は北海道・本州中部以北・広島で限定

的であり石灰岩地に多い。標本：SMNH-As53903（1986）、SMNH-As8943（1985）など。文献：岩田・林2020（小鹿野町）。特別な保護の対象にはなっていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

1560 アブラナ科

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 なし

2011 EX
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CR

〔和名〕ハナハタザオ

〔学名〕*Dontostemon dentatus* (Bunge) Ledeb.

【評価所見】

文献では1954年加須と、1962年秩父多摩国立公園内で生育の記録があるが、1998年版植物誌調査以降生育個体の確認はなく、今回も確認されなかった。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

かつては、利根川河川敷の砂地に生育していた。

【特記事項】

国内分布は東北南部から中部太平洋岸、九州で

限定的。文献：桧山1962（秩父多摩国立公園）、伊藤1958（秩父多摩国立公園）、新井1954（県内平地）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

1561 アブラナ科

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU

2011 CR
1998 VU

全国カテゴリ

2020 EN

〔和名〕ヤツガタケナズナ

〔学名〕*Draba oiana* Honda

【評価所見】

確認された二次メッシュは1区画、地点数は1、個体数は1,000未満で前回も1,000未満だった。生育地ではシカ食害に伴う乾燥化が進んだ。県内では生育地が限られており、今後も注視する必要がある。シカ食害、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】

石灰岩地に生育する。

【特記事項】

国内分布は本州中部（八ヶ岳・秩父山地）の石灰岩地に限定的。標本：SMNH-As53901（1986）、岩田標本

79307（2007）。文献：岩田・林2020（秩父市中津川）、須田ほか2019（県内石灰岩地）、岩田2005（秩父山地）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
○								

1562 アブラナ科

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし

2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

〔和名〕キバナハタザオ

〔学名〕*Sisymbrium luteum* (Maxim.) O.E.Schulz

【評価所見】

確認された個体数は前回10,000未満であったが、今回調査では文献報告のみで、個体数の規模は情報が不足しているため50株未満であろうと推定する。減少が著しい。危険要因としてシカ等の動物食害が懸念される。

【県内生育状況】

山地にまれに生える多年草で石灰岩地に生育。

【特記事項】

国内分布は本州と九州の石灰岩地に多く限定的。標本：SMNH-As56572（2016）、SMNH-As91632013（1987）。

文献：岩田・林2020（小鹿野町）、須田ほか2019（県内石灰岩地）、牧野ほか2005（小鹿野町）、岩田2005（秩父山地）他。過去の生育地は国立公園特別地域内である。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地
	○							

1563 アブラナ科

〔和名〕ハタザオ

〔学名〕*Turritis glabra* L.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認された個体数は前回200前後、今回は400前後であった。一方、生育地は今回4地点で確認されたが、2005年調査の11地点と比較すると減少傾向にある。自然遷移や河川敷の開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】河川敷では高水敷の草地などに生育する。

【特記事項】生育地はいずれも市街化調整区域で、保護などは受けていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			○



1564 ツチトリモチ科

〔和名〕ミヤマツチトリモチ

〔学名〕*Balanophora nipponica* Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 DD
1998 DD

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】前回生育の確認ができなかったが、今回は100超の個体数が確認された。生育地は4地点、二次メッシュは2区画である。自然遷移や踏みつけが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】カエデの仲間の根に寄生する。

【特記事項】低山西帯から山地帯にかけて生育する。いずれの生育地も国立公園普通地域である。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1565 オオバヤドリギ科

〔和名〕マツグミ

〔学名〕*Taxillus kaempferi* (DC.) Danser var. *kaempferi*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

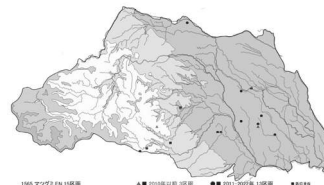
【評価所見】確認された個体数は前回100超に対し、今回200超であった。確認された二次メッシュは5区画から、今回9区画に増えた。市街化区域および市街化調整区域にあり、森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】主にモミ、ときには公園のヒマラヤスギなどの針葉樹に寄生する。常緑の小低木である。

【特記事項】国内分布は関東・北陸以西。神社や公園の針葉樹は一定の保護のもとにある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○	○	◎	○



1566 タデ科

〔和名〕イブキトラノオ

〔学名〕*Bistorta officinalis* Delarbre subsp. *japonica* (H.Hara) Yonek.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認個体数は1,000未満で前回の100未満から増加した。前回の調査では報告のなかった新たな生育地が確認された。既知の確認地では現状維持あるいは減少傾向だった。県内には、本種の生育に適した亜高山帯の草原は限られているため、絶滅の危険性は高い。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】日当たりのよい草原に生育する。

【特記事項】類似種のムカゴトラノオとは、本種の葉柄には翼があるが、ムカゴトラノオの葉柄には翼がない点で、幼株でも識別できる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1567 タデ科

(和名) クリンユキフデ

(学名) *Bistorta suffulta* (Maxim.) H.Gross

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 VU
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

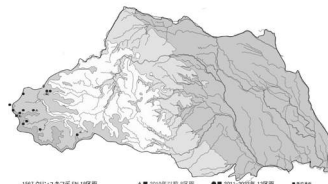
【評価所見】 確認された二次メッシュ数は5、地点数は13、個体数は1,000未満で前回も1,000未満だった。確認できた個体の多くはシカ食害の及ばない岩の上などだった。1地点あたりの確認個体数も少なく、絶滅の危険性が高まっている。また、森林伐採も大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林内に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1568 タデ科

(和名) ムカゴトラノオ

(学名) *Bistorta vivipara* (L.) Delarbree

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認された個体数は300超。生育地は1地点で国立公園特別保護地区内である。危険要因はシカ食害で、植物体上部の採食により小型化し、繁殖が阻害されている。

【県内生育状況】 草地に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As53818 (1974)、SMNH-As53822 (1974)。文献：ト沢1999 (秩父山系)、杉田・黒澤1993 (秩父市大滝)、山村1988 (秩父市大滝)、ト沢1975 (秩父市大滝)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐

国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1569 タデ科

(和名) ナガバノヤノネグサ

(学名) *Persicaria breviochreate* (Makino) Ohki

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認された個体数は約700、生育地の報告は4地点、二次メッシュは2区画である。1地点は無指定、3地点は市街化調整区域内にあり、土地造成や道路工事は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林下や林縁に生える。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：矢島 標本 2022YT071 (2022)。文献：太田2000 (幸手市) 等。旧版植物誌、1998年版植物誌ともに記載はない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



1570 タデ科

(和名) ヒメタデ

(学名) *Persicaria erectominor* (Makino) Nakai var. *erectominor*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

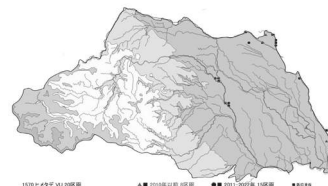
【評価所見】 花が紅色である狭義のヒメタデf. *erectominor* と、花が緑白色である品種のアオヒメタデf. *viridiflora* (Nakai) I.Itoを含め、広義のヒメタデとして扱った。確認された個体数は前回400超、今回は300を超えない。5～10年間で2～5割の減少を示す生育地もあった。日射を遮る植生の変化(自然遷移)による減少の危険性がある。

【県内生育状況】 河川敷の高水敷や池の辺縁の湿った場所に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51163 (2009)、SMNH-As43357 (2006)。狭義のヒメタデは葉が幅広く、花期が早く(主に5～7月)、アオヒメタデは葉が細長く、花期が遅い(主に8～10月)とされるが(伊藤, 1956; 藤井ほか, 2014)、生育地の水位環境によってアオヒメタデも6月頃からしばしば開花する。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	◎



1571 タデ科

(和名) ヤナギヌカボ

(学名) *Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 確認された個体数は約700。生育地の報告は4地点、二次メッシュは2区画であった。1地点では5年間で5割超の減少が報告されている。湿地開発、管理放棄は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 湿地に生育する。いずれも市街化調整区域内にあるが、一定の保護を受けている生育地もある。

【特記事項】 標本：TNS652679 (1975)、TNS87657 (1950) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	○



1572 タデ科

(和名) ナガバノウナギツカミ

(学名) *Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 NT2011 EX
1998 なし

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】 前回調査に続き、今回も生育を確認できなかった。過去に標本があり、今後の詳細な調査が期待される。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 生育環境は低地の湿地などである。

【特記事項】 標本：SMNH-As43339 (川口1954)。1998年版植物誌の標本は、再同定の結果アキノウナギツカミ (ウナギツカミ) とされている。文献：三上2022 (加須市)、岩槻市

2005 (岩槻市)、愛川2005 (さいたま市)、山下2003 (小川町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1573 タデ科

(和名) シロバナサクラタデ

(学名) *Persicaria japonica* (Meisn.) Nakai ex Ohki

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

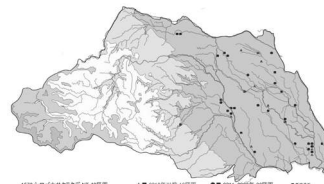
【評価所見】 確認された個体数は前回3,000超、今回は4,000超であった。生育地のいくつかで個体数の減少が報告されている。湿地開発、自然遷移、河川改修、農業汚染、管理放棄が大きな危険要因である。

【県内生育状況】 生育環境は湿性の休耕田や低湿地である。

【特記事項】 生育地は市街化調整区域または市街化区域である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	◎



1574 タデ科

(和名) ヌカボタデ

(学名) *Persicaria taquetii* (H.Lév.) Koidz.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 NT2011 EN
1998 NT

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 分類学的課題があるが、従来通りヌカボタデとして評価を行った。確認された個体数は前回は5,000超、今回は4,000を超えない。生育地は5地点、そのうち2地点から2割および8割の減少が報告された。湿地に生育する一年草のため、管理放棄、水質汚濁、湿地開発が危険要因としてあげられる。

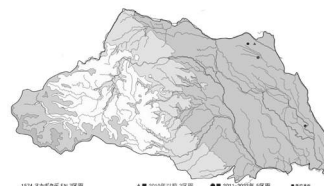
【県内生育状況】 河川敷や池沼の辺縁などの湿性の場所に生育する。

【特記事項】 標本：矢島標本YT1885 (2019)。今後の分類学的再検討が必要である。類似の型は長島 (2011, 2012) ではクボチヒメタデ、芹沢ほか (2013) ではエドガワヌカボとそれぞれ新称されたがいずれも未記載であり、米倉 (2017) ではマンシュウヒメタデ *Persicaria erectominor* (Makino) Nakai var. *sungareensis* (Kitag.) Kitag. に充てている。特別地域指

定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



1575 タデ科

(和名) ホソバイヌタデ

(学名) *Persicaria trigonocarpa* (Makino) Nakai

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 NT

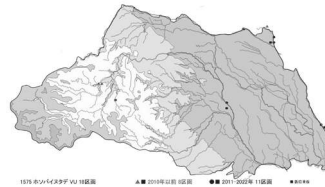
【評価所見】 確認された個体数は前回は1,000超、今回は1,000を超えない。生育地は11地点で確認されたが、そのうち2地点で5年間で2.5割減少の報告があった。危険要因は管理放棄と河川改修である。

【県内生育状況】 河川敷の氾濫原、湿地に生育する。

【特記事項】 生育地のほとんどは市街化調整区域である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○				○		◎



1576 タデ科

(和名) コギシギシ

(学名) *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 VU

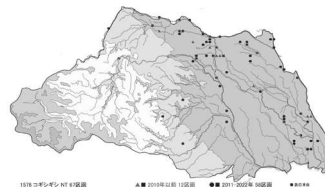
【評価所見】 確認された個体数は前回約1,400、今回は4,000超に増加した。生育地は59地点あり、そのほとんどは市街化調整区域にある。河川改修や水質汚濁、管理放棄、湿地開発が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 生育地は河川敷や用水路、池沼などに近いやや湿った場所が多い。

【特記事項】 国内分布は関東以西。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○	○	○	○	○	◎



1577 タデ科

(和名) ノダイオウ

(学名) *Rumex longifolius* DC.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

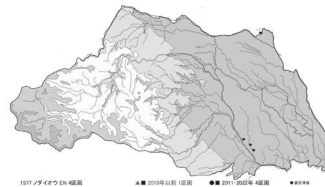
【評価所見】 前回は報告がなかったが、今回確認された個体数は約400、生育地は4地点であった。しかし、そのうち1地点は確認から5年後消滅し、1地点は2～5割の減少が報告されている。管理放棄、河川敷開発、湿地開発、埋め立て、薬用採取が危険要因である。

【県内生育状況】 河川敷や休耕田の湿地に生育する大型の草本植物である。

【特記事項】 いずれも市街化調整区域である。田島ヶ原サクラソウ自生地では保護されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	○



1578 タデ科

〔和名〕コガネギンギン

〔学名〕*Rumex maritimus* L. var. *ochotskius* (Rech.f.) Kitag.

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】以前は外来種という見解であったが自然分布という見解に変更となった。今回確認された個体数は約700、生育地6地点の報告があった。河川改修が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】低地の河川敷等に生育する。

【特記事項】国内分布は北海道東部・青森以南の太平洋側に限定的。標本：矢島標本YT1029 (2016)。文献：矢島2021 (岩槻区末田)。1998年版植物誌では加須・中川低地の4市町に分布の記録があるが、ユーラシア原産の外来のものとして記述されており、植村ほか (2015) でも埼玉県分布を外来として扱っている。今回、土屋 (1984) の報告に従い、水鳥等による自然分布として扱った。認識されにくい分類群であり、またニセコガネギンギンと混同され、それより以前にも生育していた可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	◎



1579 タデ科

〔和名〕ニセコガネギンギン

〔学名〕*Rumex trisetifer* Stokes

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 DD

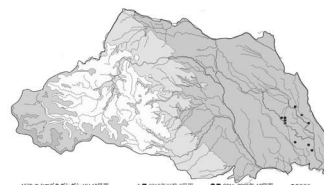
【評価所見】確認された個体数は約700、生育地は10地点であった。生育地の多くは市街化調整区域内（一部市街化区域内）の湿地にあり、水質汚濁や河川改修が危険要因である。

【県内生育状況】河川敷や用水路内や水田あぜなどの湿地に生育する。

【特記事項】国内分布は本州（関東）、四国（高知東部）で限定的。標本：矢島標本YT1414 (2003)、仮標本（矢島1995）。文献：矢島2021（越谷市）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	◎



1580 モウセンゴケ科

〔和名〕ムジナモ

〔学名〕*Aldrovanda vesiculosa* L.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 EW2011 EW
1998 EW

全国カテゴリー

2020 CR

【評価所見】前回まで野生絶滅EWであったが、羽生市・埼玉大学・保全団体による自生地復元の努力により、栽培維持されてきたかつての自生個体が、再び自生地で10年以上生育を続け増殖するまでになった。今回確認された個体数は100,000以上。危険要因は増水による流失、動物による採食、園芸採取、抽水植物の繁茂による陸地化などである。

【県内生育状況】国指定天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」内に生育している。

【特記事項】国内自生分布は現在のところ埼玉県に限定的。

標本：SMNH-As22520 (1998栽培品)。

文献：加須市環境安全部2016（加須市）、奥山1984（三田ヶ谷）他。国指定天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」内に生育し、羽生市や保全団体によって保護されている。日本では牧野富太郎ゆかりの食虫植物として人気が高く、園芸採取が危惧される。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

1581 モウセンゴケ科

〔和名〕モウセンゴケ

〔学名〕*Drosera rotundifolia* L.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】前回調査では、生育地の報告は2次メッシュ1区画であったが、今回は発見できなかった。近年の生育報告もないが、絶滅したとは言いきれない。自然遷移、湿地開発が考えられる危険要因である。

【県内生育状況】過去の県内自生地は、谷津内の湧水があり日当たりのよい湿地であった。

【特記事項】標本：SMNH-As41046 (1983)、仮標本（高橋1994）、仮標本（落合1989）。文献：愛川2003（鳩山町・寄居町）、落合2000（寄居町）、寄居町教育委員会1997（寄居町）

他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1582 ナデシコ科

(和名) オオヤマフスマ (ヒメタガソデソウ)

(学名) *Arenaria lateriflora* L.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認できた二次メッシュ数は3区画、生育地点は確認個体数は10,000未満で前回の1,000未満から増加した。個体サイズが小さいためシカ食害の影響は限定的だが、踏みつけの影響はあると考えられる。分布域は前回調査と変わらず、絶滅の危険性は低くなった。シカ食害、踏みつけ、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】林内や林縁に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1583 ナデシコ科

(和名) カワラナデシコ (ナデシコ)

(学名) *Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

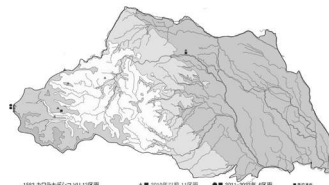
【評価所見】確認できた二次メッシュ数は4区画、個体数は1,000未満で前回の10,000未満から減少した。山地の草原の生育地では、シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また道路工事、園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】河原や草原に生育する。

【特記事項】過去の文献・標本等の記録では、エゾカワラナデシコと混同されている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							○



1584 ナデシコ科

(和名) エゾカワラナデシコ

(学名) *Dianthus superbus* L. var. *superbus*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認された二次メッシュは2区画、個体数は1,000未満で減少が著しい。また、県内には本種の生育に適した亜高山帯の草原は限られる。自然遷移やシカ食害が危険要因と考えられる。

【県内生育状況】草原などに生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：SMNH-As51889 (2003)、SMNH-As53958 (1986)。過去の文献・標本等の記録では、カワラナデシコと混同されている可能性がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1585 ナデシコ科

(和名) センジュガンピ (シラネガンピ)

(学名) *Silene gracillima* Rohrb.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 VU
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認された二次メッシュは2区画、個体数は100未満で前回の1,000未満から減少した。確認できた生育地あたりの個体数も少ない。自然遷移やシカ食害が危険要因と考えられる。現在の状況が続けば、近い将来絶滅する可能性がある。

【県内生育状況】林内や林縁に生育する。確認された生育地の一部は保護柵内である。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：SMNH-As7604 (1981)、SMNH-As7602 (1948)。文献：須田ほか2019 (県内石灰岩地)、矢島ほか2017 (秩父市大滝)、岩田2005 (秩父山地) 他特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1586 ナデシコ科

〔和名〕 フシグロセンノウ

〔学名〕 *Silene miqueliana* (Rohrb.) H.Ohashi et H.Nakai

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

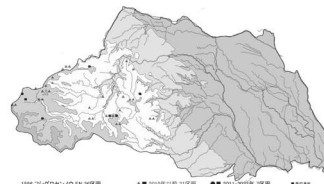
【評価所見】 確認された二次メッシュは5区画、地点数は7、個体数は100未満で前回の1,000未満から減少した。各生育地の個体数は少ない。前回調査より分布範囲、確認個体数が減少しているため、絶滅危険性は高くなっている。森林伐採が大きな危険要因となっている。またシカ食害、園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林内や林縁に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1587 ナデシコ科

〔和名〕 ワチガイソウ

〔学名〕 *Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax var. *heterantha*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認された二次メッシュは8区画、地点数は15、個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。シカ食害に伴い、一部の生育地では林床の乾燥化が進んだ。シカ食害、森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林縁や林床に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1588 ナデシコ科

〔和名〕 ヒゲネワチガイソウ

〔学名〕 *Pseudostellaria palibiniana* (Takeda) Ohwi

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

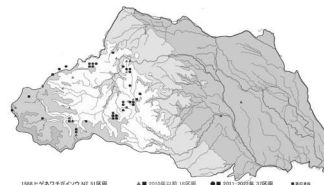
【評価所見】 確認された二次メッシュは11区画、地点数は36、個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。シカ食害に伴い、一部の生育地では林床の乾燥化が進んだ。シカやその他の動物食害、自然遷移、森林伐採、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林内や林縁に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1589 ナデシコ科

〔和名〕 ナンバンハコベ

〔学名〕 *Silene baccifera* (L.) Roth var. *japonica* (Miq.) H.Ohashi et H.Nakai

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

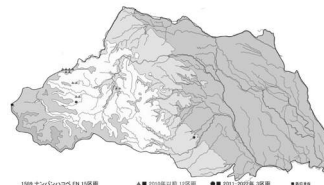
【評価所見】 前回改訂時の報告は6地点で約230個体であったが、今回の調査では3地点で約50個体確認と、減少傾向にある。競争力の強い種ではないため、他のつる植物との競合による衰退が懸念されるほか、つる植物であることから自ずと草刈の対象となり易く、希少な種と認識されないまま、過管理によって消滅してしまう恐れがある。危険要因として、シカ食害、自然遷移が挙げられる。

【県内生育状況】 丘陵から亜高山帯の山地にかけ、林道沿いなどの林縁や草地に生育するが、本種は元々まれな種で、産地はごく限定的である。

【特記事項】 生育地の一部ではボランティアによって保全されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○		○			○			



1590 ナデシコ科

(和名) オオビランジ

(学名) *Silene keiskei* Miq. var. *keiskei*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】確認個体数は1,000未満で前回の10,000未満から減少した。一部の生育地の岩壁では乾燥化が進んだ。生育環境を注視する必要がある。県内のオオビランジと変種のビランジの分布は不明確であり、報告にビランジが含まれる可能性がある。自然遷移、シカ食害が大きな危険要因となっている。また石灰岩採掘、園芸採取も懸念される危険要因である。

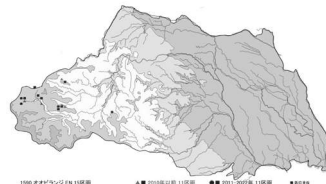
【県内生育状況】岩塊地に生育し、石灰岩地に多い。

【特記事項】国内分布は関東周辺（フォッサマグナ地域）に局在。標本:SMNH-As48432 (2003)、SMNH-As7654 (1970) など。Ohwi (1965) は葉・花柄・萼筒に毛があるものをビランジ、葉が無毛で花茎や萼筒がほぼ無毛のものをオオビランジとしているが、門田 (2017) は茎下部・花茎・萼筒に腺毛があるものをビランジ、短毛または無毛のものをオオビランジとしている。各生育地の個体について、今後の分類学的

再検討が必要である。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1591 ナデシコ科

(和名) ビランジ

(学名) *Silene keiskei* Miq. var. *minor* (Takeda) Ohwi et H.Ohashi

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認された二次メッシュは2区画、地点数は3、個体数は100未満で前回の1,000未満から減少した。一部の生育地の岩壁では乾燥化が進んだ。今後も生育環境を注視する必要がある。多くの生育地では類似種のオオビランジと混在している。県内のビランジと母変種のオオビランジの分布は不明確であり、報告にオオビランジが含まれる可能性がある。自然遷移、シカ食害が大きな危険要因となっている。また石灰岩採掘、園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】岩塊地に生育し、石灰岩地に多い。

【特記事項】国内分布は関東周辺（フォッサマグナ地域）に限定的。標本:SMNH-As22741 (1981)、SMNH-As532 (1948)。

Ohwi (1965) は葉・花柄・萼筒に毛があるものをビランジ、葉が無毛で花茎や萼筒がほぼ無毛のものをオオビランジとしているが、門田 (2017) は茎下部・花茎・萼筒に腺毛があるものをビランジ、短毛または無毛のものをオオビランジとしている。各生育地の個体について、今後の分類学的再検討が必要である。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1592 ナデシコ科

(和名) イトハコベ

(学名) *Stellaria filicaulis* Makino

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】1カ所からの生育報告があった。今回の確認個体数は500未満であった。前回は1,000未満で減少傾向にある。すぐに絶滅しそうな数ではない。保護区の管理放棄が大きな危険要因となっている。また周辺農地の水質汚濁、農薬汚染も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】平地の自然湿地に生育する一年生草本。一部ムカゴで越冬し翌年生育して、開花・結実する個体もある。

【特記事項】国内分布は関東以北でまれ。標本:SMNH-

As50922 (1993)、SMNH-As42835 (1994)。文献:三上2020 (加須市)、加須市環境安全部2016 (加須市)、加須市教育委員会1996 (加須市) 他。県内希少野生動植物種〔埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

1593 ナデシコ科

(和名) オオヤマハコベ

(学名) *Stellaria monosperma* Buch.-Ham. ex D.Don var. *japonica* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

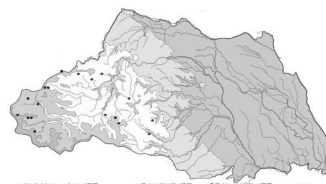
【評価所見】確認できた二次メッシュは11区画、個体数は100未満だった。シカ食害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】林内や林縁に生育する。

【特記事項】標本:SMNH-As7766 (1987)、SMNH-As7764 (1986) など。文献:岩田・林2020 (白谷沢・赤岩山・白石山)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1594 ヒユ科

(和名) カワラアカザ

(学名) *Chenopodium acuminatum* Willd. var. *vachelii* (Hook. et Arn.) Moq.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回の報告は2地点で、このうち1地点は文献記録、1地点は不確実なものである。前回改訂時から減少していると考えられるものの、情報が不足しているため今後も継続して確認が必要。

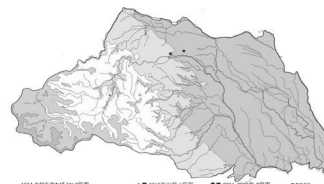
【県内生育状況】本種は冠水・洪水により維持される自然の礫河原などに生育する種であり、過去にはそうした立地環境に生育していたと考えられる。現在では、河川改修等により自然攪乱が生じにくくなっている上、攪乱頻度の減少による遷移進行、外来種のハルシャギク等との競合、オオキンケイギク・シナグレスズメガヤ等の定着・拡大によって生育適地はさらに限定的になっていると考えられる。

【特記事項】県内の標本はSMNH-As85 (1952)、SMNH-As42835 (1954) の2点のみである。本種の花序枝には透明

な管状毛が密生するが、本種との誤認が多いホソバアカザでは粉状毛である。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○				○



1595 ヒユ科

(和名) ミドリアカザ

(学名) *Chenopodium bryoniifolium* Bunge ex Trautv.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CR

【評価所見】前回の評価根拠となった標本の再検討の結果、他種の誤認であったため、県内の記録はあるが、証拠標本は1点も得られていない。情報が不足しているため今後も継続して確認が必要。

【県内生育状況】本県における生育状況に関する知見は得られていない。本種は岩礫地の林縁や疎林下に生育し、しばしば石灰岩地にも生育するとされる。北関東近県では集塊岩地に生育が知られている。

【特記事項】残されていた標本はイワアカザなど他種の誤認であったことから、県内の文献記録も誤認の可能性が高い。イワアカザに似るが、本種の葉は菱状卵形で、果皮は平滑である(菊地, 1967)。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

1596 ヒユ科

(和名) イワアカザ

(学名) *Chenopodium gracilispicum* H.W.Kung

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CR

【評価所見】報告は5地点、約100個体の生育個体数が確認されたが、1地点ではその後消滅した。未報告の産地が1地点あるが、その後現状不明となっている。産地・個体数ともに限定的である上、減少率が高いことから絶滅リスクは高いと判断される。元々まれな種である上、各産地の個体数はごくわずかで、さらに生活史が一年草であるため生育環境の変化に対し脆弱である。危険要因として、石灰岩の採掘などが挙げられる。

【県内生育状況】本県の産地は石灰岩地に多く、岩礫地の林縁や疎林下などに生育している。過去の標本採集地では、現在消滅している場所が多い。

【特記事項】国内分布は本州、四国に点在。標本: SMNH-As7473 (1984)、SMNH-As7471 (1981) など。文献: 岩田1987(秩父山系)、荒川村史編さん委員会1983(荒川村)、岩田1982(旧秩父市)他。ミドリアカザに似るが、本種の葉は三角状卵形で、果皮には乳頭状突起がある(菊地, 1967)。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						○

1597 ヤマゴボウ科

(和名) マルミノヤマゴボウ

(学名) *Phytolacca japonica* Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

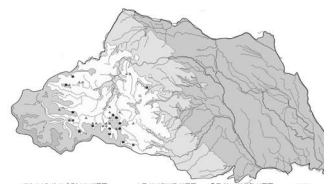
【評価所見】確認された二次メッシュは11区画、地点数は36、個体数は100未満で前回の1,000未満から減少した。ただ、採食痕はわずかであり、シカ食害の影響は限定的と考えられる。自然遷移、森林伐採が大きな危険要因となっている。また道路工事も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】林床や林縁に生育する。

【特記事項】国内分布は関東・北陸以西。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○					



1598 アジサイ科

(和名) ウメウツギ

(学名) *Deutzia uniflora* Shirai

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

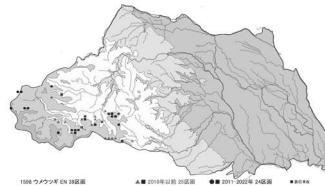
【評価所見】確認された二次メッシュは10区画、確認個体数は1,000未満で前回の10,000未満から減少した。確認個体の多くはシカの食害が及ばない岩壁の上部であった。森林伐採、園芸採取、産地極限が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】石灰岩の岩場などに生育する。

【特記事項】典型的なフォッサマグナ要素の植物とされ、埼玉、神奈川、山梨、静岡に分布が限定的。標本：SMNH-As53583 (2015)、SMNH-As51062 (2009) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1599 ツリフネソウ科

(和名) ワタラセツリフネソウ

(学名) *Impatiens ohwadae* M.Watan. et Seriz.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

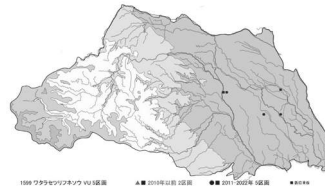
【評価所見】前回1地点100個体程度の報告であったが、今回は調査精度の向上により3地点で個体数10,000超が確認された。管理放棄が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】低地の湿地に生育する。

【特記事項】国内分布は関東周辺。2005年に渡良瀬遊水池で初めて発見された。文献：木村2020（さいたま市岩槻区）、三上・石川2018（北本市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	



1600 サクラソウ科

(和名) ノジトラノオ

(学名) *Lysimachia barystachys* Bunge

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

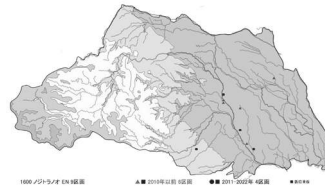
【評価所見】今回の調査では、前回の約1,000個体から400個体未満へ大きく減少した。主要な生育地がやや湿り気のある草地であるため、自然遷移や管理放棄等による生育環境の悪化が危険要因としてあげられる。なお、調査報告中には雑種のノジオカトラノオが含まれている可能性がある。

【県内生育状況】やや湿り気のある草地に生育する。

【特記事項】国内分布は関東以西。標本：SMNH-As51683 (2008)、SMNH-As51682 (2003) など。本種とオカトラノオの雑種をノジオカトラノオといい、本種の茎は開出毛を密生し、葉柄は不明瞭で葉は幅狭いが、ノジオカトラノオでは茎や花柄に縮毛が混じり、短い葉柄があり、葉はやや幅広く、また茎にはしばしば線状の紫斑が出る点で区別できる(寺村・大場, 2020)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○		○	



1601 サクラソウ科

(和名) ツマトリソウ

(学名) *Lysimachia europaea* (L.) U.Manns et Anderb.

埼玉カテゴリー

2024 EN
2005 NT2011 VU
1998 NT

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】奥秩父の亜高山帯に広く分布しているものの、今回の調査では200個体未満と前回の約500個体から大きく減少した。増加したシカの食害や踏み付けに加え、自然遷移等が危険要因と考えられる。

【県内生育状況】明るい尾根や林縁等に生える。

【特記事項】標本：SMNH-As14913 (1983)、SMNH-As14912 (1983) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1602 サクラソウ科

(和名) ヌマトラノオ

(学名) *Lysimachia fortunei* Maxim.

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】県内の低地・台地・丘陵地に広く分布しているが、個体数は5,000個体以上と前回の10,000個体以上から減少した。現時点ではここ数年で絶滅する可能性は低いが、湿地開発に加え管理放棄・自然遷移・農薬汚染等により個体数の減少が危惧される。なお、調査報告中には雑種のイヌヌマトラノオが含まれる可能性がある。

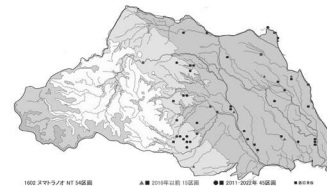
【県内生育状況】河川敷や休耕田等の湿った草地に生育する。

【特記事項】本種とオカトラノオの雑種をイヌヌマトラノオ (*Lysimachia* x *pilophora* (Honda) Honda) といい、本県ではヌマトラノオよりも多くみられ、生育環境も湿地だけでなく畦畔・土手・林縁など幅広い。本種の花序は直立し、茎は無毛、葉は幅狭く、葉柄の付け根は赤くないのに対し、イヌヌマトラノオでは花序がやや垂れるかやや不規則に曲がり、

茎は短毛が生えて時に脇芽を出して分岐し、葉はやや幅広く、葉柄の付け根が赤くなる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	◎



1603 サクラソウ科

(和名) サワトラノオ

(学名) *Lysimachia leucantha* Miq.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリー

2020 EN

【評価所見】今回の調査では2地点で生育が確認されただけである。個体数は約300個体と前回の100個体未満よりやや増加した。自然遷移による環境変化に加え、湿地の埋め立てや農薬散布等の人為的な影響が危険要因としてあげられる。

【県内生育状況】河川敷や自然湿地・休耕田に分布する。

【特記事項】国内分布は本州、九州で隔離分布でごくまれ。標本：SMNH-As51150 (2003)、TNS284973 (1958)。文献：木村2020 (さいたま市)、牧野ほか2018 (上尾市)、埼玉県野鳥の会1991 (上尾市) 他。県内希少野生動植物種 [埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

1604 サクラソウ科

(和名) クサレダマ

(学名) *Lysimachia vulgaris* L. subsp. *davurica* (Ledeb.) Tatew.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】今回確認された自生地は県東北部にある湿地の1地点のみである。個体数は前回の約600個体から今回約300個体とほぼ半減した。かつては県内に複数の自生地が存在したが、自然遷移や湿地開発等により多くの自生地で消滅した。

【県内生育状況】生育地は低地にある湿った草地である。

【特記事項】標本：仮標本 (田中溢1995)、仮標本 (田中実1993) など。文献：三上2022 (加須市)、加須市環境安全部2016 (加須市)、加須市教育委員会1996 (加須市)、伊奈町史編集室1993 (伊奈町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

1605 サクラソウ科

(和名) クリンソウ

(学名) *Primula japonica* A.Gray

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の調査で確認された自生地は2地点で、個体数は500個体以上と前回調査の100個体未満より増加した。鑑賞用に植栽されるため園芸目的の採取が懸念されるほか、自然遷移等による自生地の環境変化も危険要因として考えられる。

【県内生育状況】 明るい湿地に生える。

【特記事項】 以前はシカの食害がほとんど見られなかったが、近年食害にあった個体が増加している。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1606 サクラソウ科

(和名) クモイコザクラ

(学名) *Primula reinii* Franch. et Sav. var. *kitadakensis* (H.Hara) Ohwi

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 今回確認できたのは5,000個体未満で前回調査と大きな変化はみられなかった。自生地は簡単に到達できない場所であるが、園芸目的の採取に加えシカ等の食害や生育地の乾燥化等が危険要因としてあげられる。

【県内生育状況】 湿った岩場に生育する。

【特記事項】 国内分布は秩父山地、八ヶ岳、南アルプスと限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1607 サクラソウ科

(和名) コイワザクラ

(学名) *Primula reinii* Franch. et Sav. var. *reinii*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 今回の調査では前回調査と同様1地点で確認されたのみであった。個体数は前回調査の10,000個体以上より減少したものの3,000個体以上の生育が確認された。危険要因としては、森林伐採による環境変化や園芸採取が考えられる。

【県内生育状況】 湿った岩場に生育する。

【特記事項】 国内分布はフォッサマグナ地域（関東西南部・中部地方南部）、紀伊半島と限定的。標本：SMNH-As56730 (1993)、SMNH-As53699 (1972)、岩田標本65021 (2002)。文献：清水2005（秩父地方）、愛川2003（小鹿野町）、岩田2002（小鹿野町）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1608 サクラソウ科

(和名) チチブイワザクラ

(学名) *Primula reinii* Franch. et Sav. var. *rhodotricha* (Nakai et F.Maek.) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 CR

【評価所見】 コイワザクラの変種で、武甲山のみに生育する。前回は自生地での調査ができなかったため個体数は不明だったが、今回自生地で調査を行った結果、確認できた個体数は50個体未満であった。かつては複数個所の石灰岩壁に多くの個体がみられたが、産地が極限されているうえ、石灰岩の採掘でわずかな個体が残るのみとなり、絶滅の危機にある。

【県内生育状況】 石灰岩の湿った岩壁の割れ目や岩棚に生育する。

【特記事項】 埼玉県固有変種。標本：SMNH-As50797 (1993)、SMNH-As14906 (1983) など。文献：武甲山植物群保護対策推進協議会編2001（武甲山）、ト沢1999（秩父山系）、安原

1993（武甲山）、守屋1987（武甲山）他。本種を含む武甲山の石灰岩地特有の植物群落は、石灰岩地特殊植物群落として国の天然記念物に指定されている。県内希少野生動植物種〔埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例〕特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

1609 サクラソウ科

〔和名〕サクラソウ

〔学名〕*Primula sieboldii* E.Morren埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 CR
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリー 2020 NT

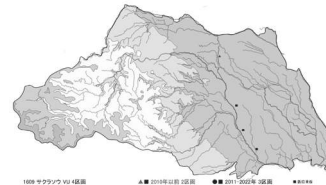
【評価所見】 今回の調査で確認された自生地は2地点で、個体数は10,000個体前後と前回調査と大きな変化はなかった。サクラソウは古くから園芸用に栽培されていることもあり、園芸目的で採取される危険性がある。また、生育地の管理放棄による乾燥化や種子生産力の低下も危険要因としてあげられる。

【県内生育状況】 河川敷など低地の湿った明るい草地に生育する。田島ヶ原では水を散布して乾燥化を防いでいる。

【特記事項】 さいたま市田島ヶ原の自生地は国の特別天然記念物に指定されている。県内希少野生動植物種〔埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	



1610 イワウメ科

〔和名〕ヒメイワカガミ

〔学名〕*Schizocodon ilicifolius* Maxim.埼玉カテゴリー 2024 NT 2011 VU
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリー 2020 なし

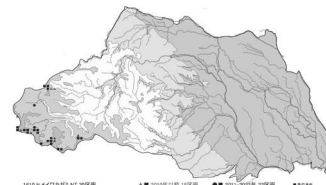
【評価所見】 確認個体数は前回と同様に500前後であった。生育地が広範に分散していることと、シカが生息できない場所がほとんどであること、現在の生育地が安定していることから、短期的には危険は少ない。しかし、自然遷移や園芸採取、踏み付けなどは、常に懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 沢筋から尾根まで、かなり広い範囲にわたって、岩場に生育している。岩であれば小さな岩でも、またある程度暗い条件下でも生育できる。

【特記事項】 関東・中部・紀伊半島の太平洋側の地域に分布する。関東山地のものは淡紅色の花の咲く品種、アカバナヒメイワカガミだけである。花が白色のヒメイワカガミは関東北部に分布し、アカバナヒメイワカガミとは分布が重ならない。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1611 ツツジ科

〔和名〕ウメガサソウ

〔学名〕*Chimaphila japonica* Miq.埼玉カテゴリー 2024 VU 2011 VU
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリー 2020 なし

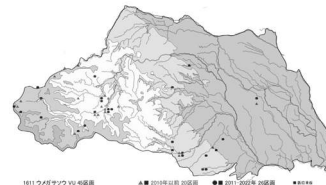
【評価所見】 今回の調査結果をみると、前回の報告25地点と比較し、今回は16地点とやや減少した。しかし、生育条件が不明なため、個体数の増減については明確に判断することはできないと考えられる。落葉樹林下の安定的環境に生育するが、集団の安定性には疑問がある。主な危険要因は、自然遷移、森林伐採、シカ被害、園芸採取、道路工事が大きいと考えられる。

【県内生育状況】 落葉樹林下の林床に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	◎		○	○	○	○	



1612 ツツジ科

〔和名〕ガンコウラン

〔学名〕*Empetrum nigrum* L. var. *japonicum* K. Koch埼玉カテゴリー 2024 CR 2011 CR
2005 CR 1998 DD

全国カテゴリー 2020 なし

【評価所見】 埼玉県内の分布は1集団1地点だけで、おそらく1つのクローンである。周囲の低木状態のコメツガが生長して一部が被圧されて枯れていることから、長期的な存続は非常に危うい。自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 岩塊地の一角の露岩上に、高さ10cmほどの直立茎が密集して2㎡ほどのマット状に広がっている。花は咲いてはいるが雌株だけしかないので、種子繁殖はできない。現存する集団は栄養繁殖で維持されている。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As51504

(2003)。文献：岩田2005（秩父山地）、愛川2003（大滝村）、岩田ほか2000（大滝村）他。岩塊地は現在は動いていない化石周氷河地形であり、リターや細粒物質の蓄積である程度岩塊の隙間が埋まれば、直立する針葉樹が育ってガンコウランは消滅する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1613 ツツジ科

(和名) サラサドウダン

(学名) *Enkianthus campanulatus* (Miq.) G.Nicholson var. *campanulatus*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

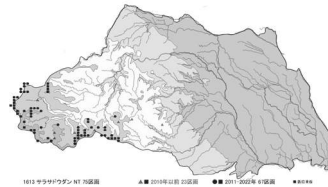
【評価所見】 分布が広範に及び個体数も多い。ただしシカによる樹皮剥ぎが激しい。急斜面のために樹皮全周は食べられないので、枯死するには至らないが衰弱している個体が複数みられ、減少する危険性は高まっている。

【県内生育状況】 尾根に多いが、尾根以外の林内にも生育している。

【特記事項】 花の縦縞の色は個体により濃淡があり、濃いものから赤みがなく全体が黄白色の個体まで変化がある。変種ベニサラサドウダンは日本海側に分布し、花の色が濃いだけでなく、花が小さく、赤みの強いサラサドウダンとは異なる。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1614 ツツジ科

(和名) ベニドウダン (チチブドウダン)

(学名) *Enkianthus cernuus* (Siebold et Zucc.) Makino f. *rubens* (Maxim.) Ohwi

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

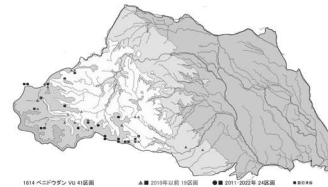
【評価所見】 個々の集団が小さく、1個体しかない場合が多い。また、縮小している集団も見られる。園芸採取圧は低下しているが、高木層の発達で暗くなることが、最も大きな危険要因になる。

【県内生育状況】 多くが岩の露出した土壌の浅い尾根に生育し、谷の側壁にもみられる。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1615 ツツジ科

(和名) ハナヒリノキ

(学名) *Eubotryoides grayana* (Maxim.) H.Hara var. *grayana*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

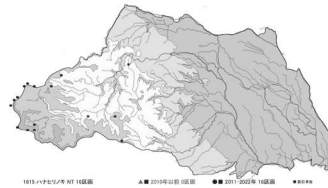
【評価所見】 有毒でシカによる採食は少なく、花が地味で園芸的興味も惹かないので、大きな危険要因とは考えにくい。むしろ増加傾向にありそうだが、数年では目に見える変化はわからない。岩塊地・岩地の自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 日当たりの良い岩場に多く、林縁、明るい林内にもみられる。

【特記事項】 以前評価されていたウラジロハナヒリノキは、誤認であり本県に分布しない (森廣, 2022)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1616 ツツジ科

(和名) シャクジョウソウ

(学名) *Hypopitys monotropa* Crantz

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

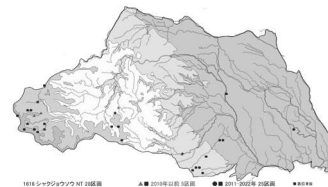
【評価所見】 亜高山帯から低地まで、広い範囲で記録がある。しかし一つの生育地での個体数は少なく、合計しても100個体を越えない。森林伐採、自然遷移、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林縁や林床に生育する。

【特記事項】 菌従属栄養植物で繁殖の時だけしか地上に現れないので、繁殖しない個体が多くある可能性があるが、地上からの観察では確認できない。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○			○	○	○	○



1617 ツツジ科

〔和名〕イワナンテン

〔学名〕*Leucothoe keiskei* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

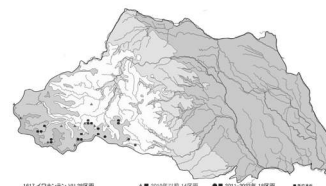
【評価所見】今回の調査では集団数はやや増えているが、個体数は減少傾向にある。あまり増水の影響を受けないような溪谷の小規模な露岩に点々と生育している。自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】生育地は、常に濡れているような岩壁で、日当たりも悪い。

【特記事項】国内分布は関東南部以西、中部地方（南部）、紀伊半島に限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1618 ツツジ科

〔和名〕ギンリョウソウモドキ（アキノギンリョウソウ）

〔学名〕*Monotropa uniflora* L.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】山地から低地まで、広い範囲で記録がある。しかし一つの生育地での個体数は少なく、合計しても数十個体にすぎない。森林伐採、土地造成が大きな危険要因となっている。また踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】林縁や林床に生育する。

【特記事項】シャクジョウソウと同じ菌従属栄養であり、記録に当たっても同じ問題がある。従って生育地の数、個体数とも過小評価になっている可能性が高い。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○	○	○			



1619 ツツジ科

〔和名〕ベニバナイチヤクソウ

〔学名〕*Pyrola incarnata* (DC.) Fisch. ex Freyn

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 NT2011 EN
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

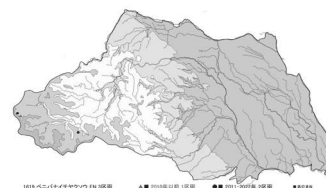
【評価所見】報告数が2005年までは6地点、2011年2地点と減ってきており、今回の調査でも2集団2地点の報告にとどまった。地下茎から複数のロゼットを出すのに関わらず、個体数も少ない。シカ被害、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】常緑の多年草で山地の林内に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：SMNH-As53655 (1988)、SMNH-As53969 (1986) など。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1620 ツツジ科

〔和名〕ジンヨウイチヤクソウ

〔学名〕*Pyrola renifolia* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回の調査でも生育地は1集団1地点のみで、個体数も非常に少ない。国立公園内で開発や大規模な工事は行われないとはいえ、偶然のシカの踏みつけでも影響が大きい。

【県内生育状況】針葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：岩田標本53900 (1998)、岩田標本54553 (1998)。文献：岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか2000 (大滝村)、ト沢1999 (秩父山系) 他。国立公園内に生育する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1621 ツツジ科

〔和名〕 **ハクサンシャクナゲ**

〔学名〕 *Rhododendron brachycarpum* D.Don ex G.Don

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし

2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

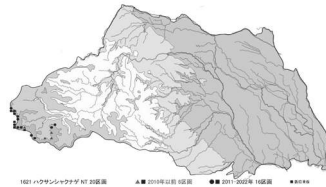
【評価所見】多くは亜高山帯の尾根に生育する。針葉樹の高木が育って暗くなると衰退する。シカの食害は、有毒なため少しかじる程度でほとんどみられないが、園芸採取は大きな危険要因である。また森林伐採も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】尾根を中心に分布し、アズマシャクナゲと混在する。

【特記事項】特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1622 ツツジ科

〔和名〕 **ヒカゲツツジ**

〔学名〕 *Rhododendron keiskei* Miq. var. *keiskei*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN

2011 VU
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

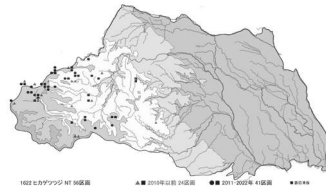
【評価所見】生育地は急峻で岩の出た、狭い尾根が多い両神山周辺に多い。園芸採取以外の危険要因は弱く、シカの近づけない場所が多いので、食害もほとんど目立たない。生育地では安定的に個体群が維持されている。

【県内生育状況】土壌の浅いところの、やや明るい林床か林縁や、露岩上、崖及びその周辺に生育する。

【特記事項】国内分布は東北部・北陸以西。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1623 ツツジ科

〔和名〕 **ウラジロヒカゲツツジ**

〔学名〕 *Rhododendron keiskei* Miq. var. *hypoglaucum* Sutô et T.Suzuki

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし

2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CR

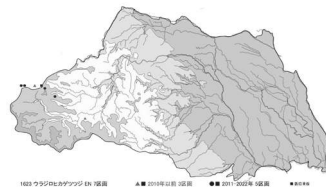
【評価所見】両神山でも日当たりの良い岩上に限られている。全体的に個体数が少なく、小型の個体が多く大型の繁殖個体は少ない。自然遷移、園芸採取が大きな危険要因となっている。また産地極限も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】チャートの岩上に数ヶ所確認されている。ヒカゲツツジより日当たりの良い場所に分布は限られている。

【特記事項】国内分布は関東中部（埼玉・群馬・栃木）の岩地に限定的。標本：SMNH-As14587（1976）、SMNH-As14585（1971）など。国内希少野生動植物種〔種の保存法〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1624 ツツジ科

〔和名〕 **レンゲツツジ**

〔学名〕 *Rhododendron molle* (Blume) G.Don subsp. *japonicum* (A.Gray) K.Kron

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

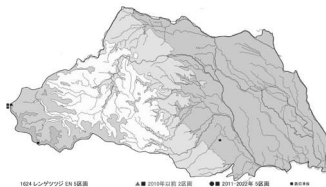
【評価所見】低地から亜高山帯下部まで散在しているが、特に丘陵地・低地での減少が著しく、消滅したところもある。丘陵地から低山では森林伐採が懸念される危険要因である。山地から亜高山帯では自然遷移、シカ食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】草原環境に多い種であり、明るい落葉樹林下にも生育する。

【特記事項】明るい林下や亜高山帯の草原では開花しない稚樹の小集団がみられる。有毒なため、牧場では増えるが、牧場の減少で大きな集団はなくなったと思われる。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○						○		



1625 ツツジ科

〔和名〕ウラジロヨウラク

〔学名〕*Rhododendron multiflorum* (Maxim.) Craven

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

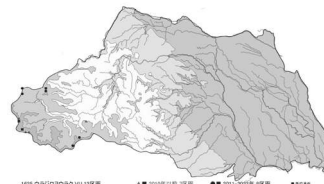
【評価所見】亜高山帯から山地に広くみられるが、多くは小型個体で、亜高山の露岩地とその周辺には大型の繁殖個体が多い。シカの食痕はみられるが、枯死するほどではない。自然遷移、森林伐採が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】主に林縁部分に多く、大型個体は林縁に集中する。林内の個体は葉の量が少なく、ほとんど繁殖しない状態にある。

【特記事項】国内分布は中部以北。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1626 ツツジ科

〔和名〕アカヤシオ

〔学名〕*Rhododendron pentaphyllum* Maxim. var. *nikoense* Komatsu

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

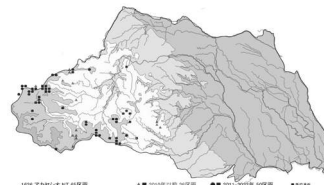
【評価所見】両神山、熊倉山などには非常に大きな集団があり、小規模な集団は広くみられる。報告数は増えているが、小さな実生・稚樹が多くみられる。自然遷移、森林伐採、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】露岩上、特にその側面の崖には、他の樹木が育たないため、多数の個体が生育する。

【特記事項】特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1627 ツツジ科

〔和名〕シロヤシオ（ゴヨウツツジ）

〔学名〕*Rhododendron quinquefolium* Bisset et S.Moore

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

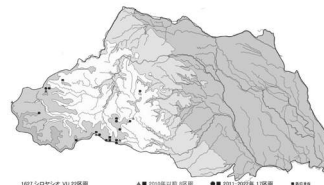
【評価所見】山地の広い範囲に生育がみられる。岩塊地ではシカの被害や開発などの影響も少ない。それ以外の地域では高木が育って被圧される可能性はある。自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】土壌の浅い、岩の露出もある尾根に、少数の集団か、時にまとまった個体数の集団がみられる。

【特記事項】特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○					



1628 ツツジ科

〔和名〕コメツツジ

〔学名〕*Rhododendron tschonoskii* Maxim.

埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 EN
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】山地から亜高山まで、広い範囲で記録されている。生育が確認された場所は複数あるが、1か所あたりの個体数は100前後かそれ以下と、やや少ないが集団は安定しているようである。一部地域ではシカ食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】チャートの岩上に多く、林縁などの、ある程度明るい場所に生育している。半日陰では幹が立ち上がり、最大1m程度になっている。

【特記事項】特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1629 ツツジ科

〔和名〕ハコネコメツツジ

〔学名〕*Rhododendron tsusioophyllum* Sugim.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

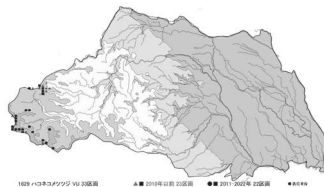
【評価所見】亜高山帯及び山地上部の日当たりのよい岩で、規模が小さい岩にも生育している。シカ食害の影響は小さく、園芸採取の対象になるが、大きな危険要因にはなっていない。安定して個体群が維持されていると考えられる。

【県内生育状況】主にチャートまたは花崗岩類の岩場に生育し、岩隙に根を下ろし、細かく枝分かれした低木となっている。

【特記事項】フォッサマグナ要素の植物とされ、分布は関東南部・静岡の狭い範囲に限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1630 ツツジ科

〔和名〕クロウスゴ

〔学名〕*Vaccinium ovalifolium* Sm. var. *ovalifolium*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 NT

2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回は1地点の情報があつたが、今回も1集団1地点の報告で、近年の確実な情報は少ない。減少した要因は断定できないが、シカの食害および自然遷移が危険要因になっていると考えられる。

【県内生育状況】岩場、林縁に生育する低木である。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本:SMNH-As3074(1948)。文献:岩田2005(秩父山地)、岩田ほか2000(大滝村)、山村1988(甲武信岳・木賊山北面)他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1631 ツツジ科

〔和名〕コケモモ

〔学名〕*Vaccinium vitis-idaea* L.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR

2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

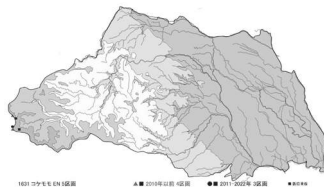
【評価所見】県内には高山帯がなく、亜高山帯の面積も狭い。その中で、それぞれの生育地が孤立し、個体数は少ない。自然遷移が大きな危険要因となっている。またシカ食害や踏みつけも懸念される。

【県内生育状況】露岩地や登山道の縁の部分に多く、森林・低木林の中にまではほとんど入らない。

【特記事項】標本:SMNH-As48263(2002)、SMNH-As14715(1984)など。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1632 アカネ科

〔和名〕アリドオシ

〔学名〕*Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. var. *indicus*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU

2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

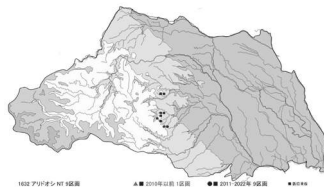
【評価所見】丘陵南、低山東、丘陵北から4か所の生育報告があつた。今回の確認個体数は5,000未満であり、前回の1,000未満から増加した。森林伐採、道路工事、園芸採取、シカや他の動物による食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】丘陵から低山のアラカシやスダジイなどの常緑樹林の林床に生育する常緑低木。

【特記事項】国内分布は関東以西。特に保護された生育地はない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			◎	○	○			



1633 アカネ科

〔和名〕キクムグラ

〔学名〕*Galium kikumugura* Ohwi

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 NT
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】以前は県西部を中心に報告があったが、今回は秩父地域・県西部地域の3カ所から報告があった。今回の確認個体数は1,000未満と前回の3,000未満から減少した。自然遷移による環境変化が主な危険要因である。

【県内生育状況】丘陵から山地の林床や草地に生育する多年生草本。

【特記事項】報告のあった丘陵北のものは国営公園として保護されている。山地のものは特に保護されていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○			○				



1634 アカネ科

〔和名〕ハナムグラ

〔学名〕*Galium tokyoense* Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】荒川や利根川・江戸川などの河川敷などの低地を中心として多数の生育報告があった。前回同様個体数は6,000未満と変化はない。堤防建設などの河川敷開発、自然遷移、湿地開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】低地の湿地のヨシの群落の中や沼の畔などに生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部、中部、関東で限定的。さいたま市桜草公園や上尾市江川下流域などでは保護されている。各地で湿地の開発が進んでおり、消滅が危惧される生育地もある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	◎	◎



1635 アカネ科

〔和名〕ホソバノヨツバムグラ

〔学名〕*Galium trifidum* L. subsp. *columbianum* (Rydb.) Hultén

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回3カ所から報告があった。報告された個体数は1,000未満で前回の500前後から調査精度の向上により増加した。自然遷移、湿地開発は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】低地から山地の湿地に生育する一年生草本。県内では低地に生育していることが報告されている。

【特記事項】加須市北篠崎にある自生地は保護されている。そのほかの場所は特に、保護されていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	○



1636 アカネ科

〔和名〕カワラマツバ

〔学名〕*Galium verum* L. subsp. *asiaticum* (Nakai) T.Yamaz. var. *asiaticum* Nakai f. *lacteum* (Maxim.) Nakai

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回の調査では1カ所の報告があったのみである。継続的な調査が望まれる。前回は報告がなかったが、今回は10未満の個体数が報告されている。シカの食害による植生の劣化、自然遷移などが主な危険要因である。

【県内生育状況】丘陵から山地帯に分布し、やや乾燥した草原や草地に生育する多年生草本。

【特記事項】標本：SMNH-As24783 (1980)、SMNH-As5193 (1977)、岩田標本51010 (1997) など。文献：岩田・林2020 (本庄市)、岩田2005 (秩父山地)、落合2005 (岡部町) 他。以前からの生育地はシカの食害に伴う生育環境の悪化で植生の劣化が激しい地域である。保護対策は取られていない。特別

地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1637 アカネ科

(和名) オオキヌタソウ

(学名) *Rubia chinensis* Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】2006年の報告以降今回の調査でも報告はなかった。今後も継続して確認が必要。希少種のため、園芸採取される危険性がある。

【県内生育状況】秩父地方の低山から山地帯の自然林の林床に生育する多年生植物。

【特記事項】特に、生育地は保護された地域ではない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1638 アカネ科

(和名) オオアカネ

(学名) *Rubia hexaphylla* (Makino) Makino

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】秩父地域で1カ所のみ報告があった。個体数は50未満である。引き続き調査が必要である。シカによる食害、自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】山地の林内や林縁にまれに生育するつる性の多年生植物。

【特記事項】国内分布は北海道・本州（関東から中部）。県立自然の博物館にも標本はない。保護された生育地はない。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



1639 リンドウ科

(和名) コケリンドウ

(学名) *Gentiana squarrosa* Ledeb.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 NT2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

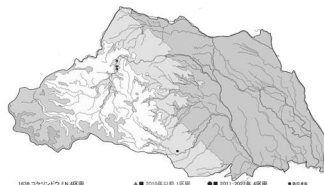
【評価所見】今回新たな生育地が報告されている。しかし以前の生息地で確認できなくなった所もある。個体数は前回30株、今回70株となっているが、増減については明確には判断できない。主な危険要因は、自然遷移、園芸採取、増水にともなう流出が考えられる。河川改修、自然遷移が大きな危険要因となっている。また河川敷開発も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】日当たりの良い低い草丈の草地に生育する。河川敷の草地などにまれにみられる。

【特記事項】標本:SMNH-As59290 (2022)、仮標本(落合1995)、平標本(長瀬町2010)。文献:長谷川・小澤2023(入間市)、岩田・林2020(親鳥駅~野上駅)、落合2000(寄居町)ほか。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			



1640 リンドウ科

(和名) チチブリンドウ

(学名) *Gentianopsis contorta* (Royle) Ma

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 EN

【評価所見】今回は数カ所の報告があった。今回の確認個体数は500未満であった。前回の1,000未満から減少傾向である。生育地域はあまり変化がなく、今後とも継続して調査を行っていく必要がある。シカ食害、森林伐採、自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】山地帯から亜高山帯の石灰岩地の岩棚や周辺の林の林床・草地に生育する多年生植物。

【特記事項】国内では秩父、南アルプス、伊吹山に隔離分布。標本:SMNH-As51131 (1997)、TNS112745 (1954)、岩田標本77613 (2006) など。文献:五十嵐・岩田2005(東大演習林)、岩田2005(秩父山地)、岩田2004(大滝村)、愛川2003(両

神村)他。シカによる調査地及び周辺の植生劣化に伴い、絶滅が危惧されている。保護された生育地はない。県内希少野生動植物種〔埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例〕特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	○						

1641 リンドウ科

(和名) ハナイカリ

(学名) *Halenia corniculata* (L.) Cornaz埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

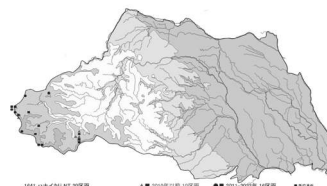
【評価所見】秩父地域から多くの生育報告があったものの、前回・今回ともに2,000未満で、シカの食害のために小さな個体が多い。自然遷移、園芸採取、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】秩父山地において尾根上の草原や岩壁の上や岩棚などに生育している。シカの食害があり小さな個体として生き残っているものが多い。

【特記事項】旧版植物誌には比企・北足立・北葛飾郡市にも記録があるが、最近発見されておらず、これらの地区では絶滅した可能性もある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1642 リンドウ科

(和名) ホソバノツルリンドウ (ホソバツルリンドウ)

(学名) *Pterygocalyx volubilis* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】30カ所の報告があった。報告数が増えた分、今回の確認個体数は200未満と前回の100未満から増加した。森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。また産地極限も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】山地帯から亜高山帯の石灰岩地やその周りの草原に生育する多年生のつる植物。

【特記事項】国内分布は北海道・本州・四国に局在。標本：仮標本(平1998)、TNS10062(1881)、岩田標本52288(1997)。特に保護されてはいない。今のところ採集圧も高くない。シカの植生への食害がみられる場所に生育地はあるが、本種への食害はほぼ見かけられない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1643 リンドウ科

(和名) アケボノソウ

(学名) *Swertia bimaculata* (Siebold et Zucc.) Hook.f. et Thomson ex C.B.Clarke埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

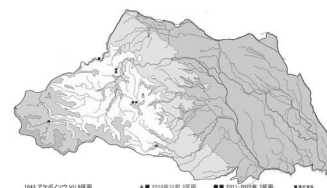
【評価所見】5カ所から報告があった。今回の報告個体数は100未満から300未満へと増加した。園芸採取、シカの食害、道路工事、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】低地から山地の湿った草地や林床に生育する多年生草本。

【特記事項】山野草として園芸採取の危険性が非常に高い植物である。シカの植生への食害がみられるところが多く、生育地が減少したり、食べられたりしている個体がみられた。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎			○			



1644 リンドウ科

(和名) センブリ

(学名) *Swertia japonica* (Schult.) Makino var. *japonica*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

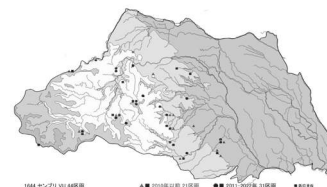
【評価所見】多くの地域から生育報告があった。確認個体数は前回同様1,000未満と変わらなかった。平地から丘陵地では増減は少ないようであるが、山地では減少傾向が見られる。自然遷移、薬用採取、園芸採取、シカ食害、森林伐採が主な危険要因である。

【県内生育状況】丘陵帯から山地帯の日当たりのよい林の林縁や草地に生育する一年生から多年生植物。

【特記事項】園芸・薬用のための採取が考えられ、絶滅が危惧される。とくに、薬用採取のために一度に生育地が奪われることがある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○	○	○	○	○		



1645 リンドウ科

(和名) ムラサキセンブリ

(学名) *Swertia pseudochinensis* H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD2011 EX
1998 DD

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】今回調査の報告はない。分布未確認のため危険要因の判断を行うには情報不足である。

【県内生育状況】低地から丘陵地の日当たりのよい草地に生育する多年生植物。

【特記事項】文献：長瀬町教育委員会1997（長瀬町）、松山1965（武蔵野（広域））、伊藤1958（秩父多摩国立公園）他。旧版植物誌には3郡市に記録があり、後も各地で記録はある。1998年版植物誌では記録されず、生育が確認されていない。自然の博物館にも収蔵標本はない。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1646 リンドウ科

(和名) イヌセンブリ

(学名) *Swertia tosaensis* Makino

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD2011 EX
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】今回調査報告はない。分布未確認のため危険要因の判断を行うには情報不足である。

【県内生育状況】低地から丘陵の湿地に生育する一〜越年生植物。

【特記事項】標本：東大標本（和光市1914）。1998年版植物誌では記録されず、その後生育は確認されていない。自然の博物館には収蔵標本はない。文献：朝霞市教育委員会1989（朝霞市）、桶川市1987（桶川市）、北本市郷土植物研究会1976（北本市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1647 マチン科

(和名) ヒメナエ

(学名) *Mitrasacme indica* Wight

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 DD2011 CR
1998 DD

全国カテゴリ

2020 VU

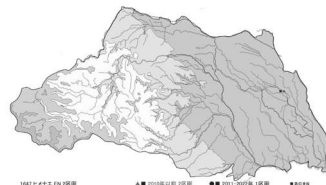
【評価所見】今回の調査では1か所のみ生育地が確認されている。今回の確認個体数は1,000未満である。前回の2,000個体前後から減少した。農薬汚染、湿地開発が大きな危険要因となっている。また管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】丘陵地から低地の水田のあぜなど、やや湿り気のある草地に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As51167（2006）、TNS409475（1958）。特に保護された生育地はない。2005年以降加須・中川低地の1か所からしか生育報告はない。旧版植物誌には秩父郡市・児玉郡市を除く県内各地に記録がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	



1648 マチン科

(和名) アイナエ

(学名) *Mitrasacme pygmaea* R.Br.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

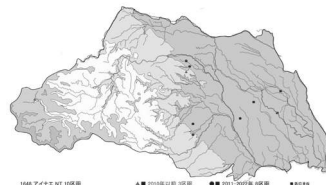
【評価所見】10か所から報告があった。今回の確認個体数は10,000未満で、前回の5,000未満から調査精度の向上により増加した。管理放棄、自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】低地から山地の日当たりのよい草原や湿地に生育する。人手の入った芝地や草地、田の畔などにも生育する。

【特記事項】特に保護されていない。採集圧も高くない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	◎	



1649 キョウチクトウ科

〔和名〕 **チョウジソウ**〔学名〕 *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 NT

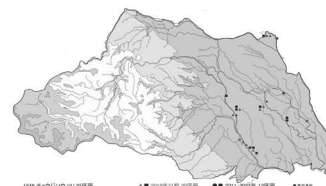
【評価所見】 今回の調査を見ると前回の生育確認場所と同じ場所から確認できている。今回の確認個体数は3,000未満であった。前回の6,000未満から減少している。自然遷移、管理放棄、湿地開発、埋め立てが大きな危険要因となっている。また河川改修も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 低地の湿地のヨシの群落に生育するが、ヤナギ類やハンノキが侵入している場所でもよく生育する。

【特記事項】 園芸採取の危険がある。さいたま市桜草公園や上尾市江川下流域では保護区として保護されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							◎	○



1650 キョウチクトウ科

〔和名〕 **コイケマ**〔学名〕 *Cynanchum wilfordii* (Maxim.) Hook.f.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回報告はなかったものの、さらに調査が必要である。シカの食害による植生の劣化、自然遷移などが主な危険要因である。

【県内生育状況】 山地の林縁などのやや湿った所に生えるつる性の多年生植物。

【特記事項】 標本はSMNH-As57169 (2020)、SMNH-As30859 (1981)、SMNH-As48348 (2005)。文献：牧野・山下2003 (大滝村)、山下2003 (小川町)、岩田1972 (東松山市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1651 キョウチクトウ科

〔和名〕 **キジョラン**〔学名〕 *Marsdenia tomentosa* C.Morren et Decne.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

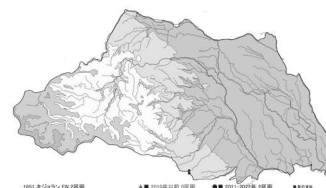
【評価所見】 県西部地区からの1か所で個体数10未満の報告があった。今後も継続した調査が必要である。森林伐採が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 常緑樹林の林縁に生育する常緑でつる性の多年生草本。

【特記事項】 国内分布は関東以西。新井1954「埼玉県の植物」に生育報告がある。温暖化やアサギマダラ幼虫の食草であるため移植・逸出の可能性もあり、今後の検討が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



1652 キョウチクトウ科

〔和名〕 **クサタチバナ**〔学名〕 *Vincetoxicum acuminatum* Decne.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 NT2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】 1カ所の報告のみである。確認個体数は今回は500未満であった、前回の2,000未満から減少している。森林伐採、シカによる食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 中間温帯の山地の明るい草原から林床の明るい草原でやや乾いた場所に生育する。石灰岩地やその周辺に生育することが多い。

【特記事項】 国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As15307 (1984)、SMNH-As5748 (1961) など。文献：岩田・林2020 (武甲山)、清水2005 (秩父地方)、牧野ほか2004 (中津川)、卜澤ほか2001 (小鹿野町) 他。1か所のみからの報告であり、特に保護された場所ではない。白色のやや大きな花をつける

ために園芸採取の危険がある。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1653 キョウチクトウ科

(和名) フナバラソウ

(学名) *Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 今回の調査では1か所の報告のみであった。個体数も前回、今回とも50未満と少ない。草地開発、管理放棄は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 低山の明るい林縁や草地にごくまれに生育する多年生植物。

【特記事項】 標本：SMNH-As49564 (1988)。文献：大塚ほか2014 (皆野町)、太田2000 (幸手市)、守屋1987 (武甲山) 他。特に保護された生育地はない。低山西の1か所のみ生育地が知られている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				

1654 キョウチクトウ科

(和名) コカモメヅル

(学名) *Vincetoxicum floribundum* (Miq.) Franch. et Sav.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 7か所からの報告があった。今回の確認個体数は500未満で、前回の1,000未満から減少している。シカによる食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 河川敷や低地の湿地に生育する。オギやヨシの群落に絡みついて生育する多年生のつる植物である。

【特記事項】 さいたま市の桜草公園と加須市の保護地では保護されているが、他は特に保護対策は取られていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							◎	○



1655 キョウチクトウ科

(和名) ツルガシワ

(学名) *Vincetoxicum macrophyllum* Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

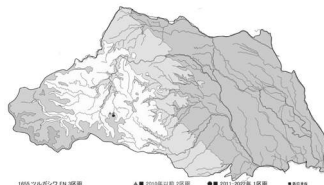
【評価所見】 3次メッシュで1か所からの報告である。確認個体数は500未満であった。前回の1,000未満から減少している。シカによる食害、森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 山地の森林の林床に大きな群落をつくって生育するつる性の多年草である。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As15322 (1984)、SMNH-As3266 (1951)、岩田標本65541 (2002) など。特に保護されていない。今のところ採集圧も高くないようである。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1656 キョウチクトウ科

(和名) タチガシワ

(学名) *Vincetoxicum magnificum* (Nakai) Kitag.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 NT
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

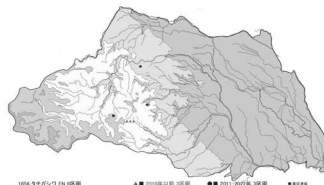
【評価所見】 4か所報告があり、その中には3か所の新規の報告があった。確認個体数は前回と同じく50未満である。シカの食害による植生の劣化、自然遷移などが主な危険要因である。

【県内生育状況】 丘陵帯から低山帯の落葉広葉樹林の林床に生育する多年生草本。

【特記事項】 標本：SMNH-As49567 (1990)、SMNH-As5193 (1983) など。生育地の中に特に保護されている場所はない。ネット販売されており、採集圧は高い。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○	○				



1657 キョウチクトウ科

〔和名〕スズサイコ

〔学名〕*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN

2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

今回7カ所からの報告があり報告数が増加したが、個体数は前回同様500未満と少ない状態である。踏み付け、園芸採取、シカ食害が主な危険要因である。

【県内生育状況】

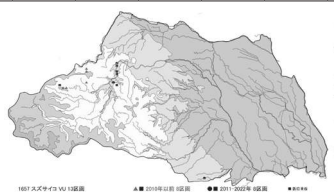
丘陵帯から低山帯の日当たりのよい乾いた草地や岩上、河川敷の砂礫地などにみられる多年生植物。

【特記事項】

一部の生育地は国指定の名勝・天然記念物になっており、植物採集は禁止されている。他は、特に保護されていない。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		◎	○			



1658 ヒルガオ科

〔和名〕マメダオシ

〔学名〕*Cuscuta australis* R.Br.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 CR

2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CR

【評価所見】

2005年までに3件報告されていたが、前回調査に引き続き今回の調査においても生育は確認されていない。これまで証拠標本を伴った本種の記録はなく県内に生育していたとしても、生育立地や生育環境が競合するアメリカネナシカズラとの置き換わりが進んでいると考えられ両種を明確に区別した詳細な調査が必要である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

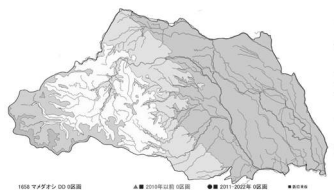
日当たりのよい低茎草地や耕作地に生育するとされる。

【特記事項】

本種の証拠標本は無いが、県内の文献記録についてはいくつか報告されている。しかし、類似の外来種アメリカネナシカズラと誤認している可能性が高い。アメリカネナシカズラの花冠裂片は果時に反曲し、花筒部の内側基部にある裂片は精円形で分裂せず、先に多数の小突起があるのに対し、本種の花冠裂片は果時に反曲しなく、花筒部の内側基部の鱗片は先が2裂し、先に少数の突起がある点で区別できるが（米倉, 2017）、花筒部の内側基部にある裂片の観察には、花筒部を分解した上で実体顕微鏡での観察を行う必要があり、同定には慎重を要する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1659 ナス科

〔和名〕ヤマホオズキ

〔学名〕*Archiphysalis chamaesarachoides* (Makino) Kuang

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし

2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 EN

【評価所見】

前回に引き続き今回も確認できなかったが、標本が2点と伊藤ほか1950（奥秩父）や伊藤1953（秩父多摩国立公園）等に文献記録が残されており、生育の可能性があると思なされた。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

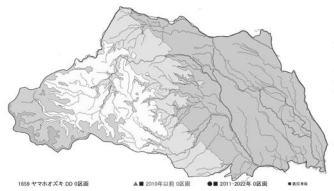
かつては、県内の山地のやや湿った林下に生育していた。

【特記事項】

国内分布は本州（関東南部・東海・紀伊半島南部）に限定的。標本：SMNH-As37899（小川1981）、SMNH-As37900（都幾川1983）。文献：岩槻市2005（岩槻市）、新井1954（県内の山地）、伊藤1953（秩父多摩国立公園）、伊藤ほか1950（奥秩父）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1660 ナス科

(和名) アオホオズキ

(学名) *Physaliastrum japonicum* (Franch. et Sav.) Honda

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

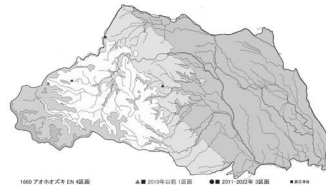
【評価所見】前回1地点で100個体未満、今回3地点で100個体未満が確認された。森林伐採が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】やや湿った林下に生育する。

【特記事項】国内分布は関東以西。標本：SMNH-As23962 (1984)、SMNH-As16014 (1987) など。文献：岩田・林2020 (豆焼沢・牛首峠) 五十嵐・岩田2005 (東大秩父演習林)、岩田2005 (秩父山地) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○				



1661 ムラサキ科

(和名) サワルリソウ

(学名) *Ancistrocarya japonica* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】県内2か所で生育が確認され、前回の調査に引き続き今回の調査においても確認個体数は10個体以下である。極めて個体数が少なく、増減の評価が困難であり引き続き詳細な調査が必要である。シカ食害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】沢沿いなどの湿った場所に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As15375 (1968)、岩田標本75887 (2005)。文献：岩田2021 (横瀬町)、岩田ほか2000 (大滝村)、守屋1987 (横瀬町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1662 ムラサキ科

(和名) オオルリソウ

(学名) *Cynoglossum furcatum* Wall. var. *villosulum* (Nakai) Riedl

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN2011 NT
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

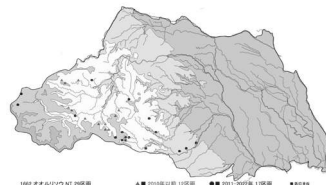
【評価所見】前回の調査においては12件合計1,000個体程度の報告があったが、今回17件合計700個体程度の報告があった。シカによる食害や自然遷移など、各所に個体数減少の危惧がある。また河川改修、河川敷開発、草地開発、土地造成も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】沢沿いに生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	◎		○	○		



1663 ムラサキ科

(和名) ムラサキ

(学名) *Lithospermum murasaki* Siebold

埼玉カテゴリ

2024 EW
2005 EW2011 EW
1998 EW

全国カテゴリ

2020 EN

【評価所見】前回の調査に引き続き、今回の調査での報告はなかった。旧版植物誌には秩父・入間郡市に記録があり、その後もいくつかの生育記録があるが、栽培品の可能性は否定できない。自生品の確実な記録は武甲山のものであるが、生育地点は石灰岩の採掘により消滅した。一部、移植され県内で栽培されている。野生絶滅したものと思われる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】乾燥した草原に生育する。

【特記事項】標本：TNS133533 (1956)。文献：ト沢1999 (秩父山系)、長瀬町教育委員会1997 (長瀬町)、桶川市1987 (桶川市)、守屋1987 (武甲山) 他。特別地域指定植物 [秩父多

摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1664 ムラサキ科

(和名) ホタルカズラ

(学名) *Lithospermum zollingeri* A.DC.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 VU
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

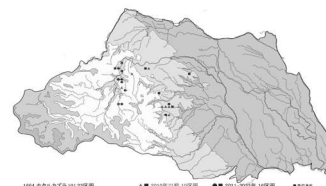
【評価所見】 前回の調査では10件合計1,500個体程度の報告があったが、今回16件合計1,100個体程度の生育が確認された。調査精度の向上により報告件数は増加したが、園芸採取や森林伐採などで個体数は減少していると考えられる。また、自然遷移、道路工事、管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 二次林の林縁や、沢沿いの草地に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		◎	○	◎	○			



1665 ムラサキ科

(和名) ヤマルリソウ

(学名) *Nihon japonicum* (Thunb.) A.Otero, Jim.Mejías, Valcárcel et P.Vargas

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

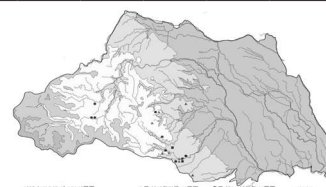
【評価所見】 前回の調査では4,000個体程度確認されたが、今回の確認個体数は減小し2,000個体を超えない。森林伐採や自然遷移により減少していると考えられ、生育状況に関して注視する必要がある。森林伐採、自然遷移、土地造成が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 二次林の林縁や沢沿いの草地に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○		◎			



1666 ムラサキ科

(和名) ルリソウ

(学名) *Nihon krameri* (Franch. et Sav.) A.Otero, Jim.Mejías, Valcárcel et P.Vargas

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 EX2011 EX
1998 EX

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回の調査に引き続き、今回の調査においても生育は確認できなかった。旧版植物誌には比企郡市に記録がある。その後、小川町での採集記録があるが、1998年版植物誌以後では生育確認の報告はない。絶滅したものと思われる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 二次林のやや湿った明るい林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：仮標本（安田ほか1981、1982）、SMNH-As3344（1956）、SMNH-As3345（1952）など。文献：ト沢1999（秩父山系）、長瀬町教育委員会1997（長瀬町）、桶川市1987（桶川市）、守屋1987（武甲山）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1667 ムラサキ科

(和名) タチカメバソウ

(学名) *Trigonotis guilielmii* (A.Gray) A.Gray ex Gürke

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 NT2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の調査では文献調査も含め3地点の報告があった。生育が確認された場所はかなり限定的である。前回の調査においては100個体程度、今回の調査での確認個体数は50を超えない。シカによる食害や森林伐採による減少が懸念される。

【県内生育状況】 やや湿った林内に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51169（2006）、SMNH-As15399（1986）など。文献：岩田・林2020（両神山・秩父市）、五十嵐・岩田2005（東大演習林）、埼玉県環境部1992（秩父市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							

1668 ムラサキ科

(和名) ツルカメバソウ

(学名) *Trigonotis iinumae* (Maxim.) Makino

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 EN

【評価所見】 前回の調査では生育は確認できなかった。今回の報告件数は1地点で、確認個体数は50を超えない。森林伐採、シカによる食害が危険要因と考えられる。

【県内生育状況】 やや湿った林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As15402 (1972)、SMNH-As15403 (1973)。文献：伊藤 編1998 (飯

能市)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1669 モクセイ科

(和名) ハシドイ

(学名) *Syringa reticulata* (Blume) H.Hara var. *reticulata*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回の調査では確認されなかったが、今回4地点の報告があった。個体数は100を超えない。今後も継続して確認が必要である。森林伐採は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 おもに石灰岩地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As15168 (1971)、SMNH-As3235 (1954)。文献：岩田2021 (横瀬町)、岩田2002 (横瀬町)、埼玉県1987 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲

斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						

1670 オオバコ科

(和名) マルバノサワトウガラシ

(学名) *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD2011 EX
1998 DD

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数0であった。1998年版植物誌調査以後、生育が確認できていない。絶滅したと考えられる。農薬汚染、管理放棄が危険要因と考えられる。

【県内生育状況】 水田や休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】 文献：埼玉県教育委員会1976 (羽生市)、岩田1972 (東松山市)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1671 オオバコ科

(和名) サワトウガラシ

(学名) *Deinostema violaceum* (Maxim.) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 DD2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数30未満である。前回調査では1地点の報告であり、今回の調査では2地点の報告があったが、不安定な要素を含み今後も継続して確認が必要。農薬汚染、管理放棄が危険要因と考えられる。

【県内生育状況】 水田や休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】 文献：牧野・山下2019 (飯能市)、太田2000 (幸手市) 他。マルバノサワトウガラシと生育環境は類似してお

り、混生していたといわれている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○		○	

1672 オオバコ科

(和名) アブノメ

(学名) *Dopatrium junceum* (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

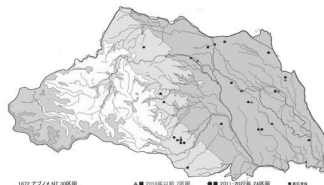
【評価所見】 今回の確認個体数は2,300以上で前回は1,500以上である。確認地点数及び個体数について前回より増加した。休耕田により農薬を使用しなくなった影響も見受けられ、新発見の地点も多く含まれているが休耕田は一時的状態であり今後の動向に注視していく必要がある。農薬汚染、管理放棄、湿地開発、自然遷移が大きな危険要因となっている。今後の土地利用の動向によっては急激に数を減らす可能性がある。

【県内生育状況】 湿地のほかに休耕田や農薬の影響が少ない田にみられる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	◎	○	◎	○



1673 オオバコ科

(和名) キクガラクサ

(学名) *Ellisiophyllum pinnatum* (Wall.) Makino var. *reptans* (Maxim.) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 EW2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】 確認個体数0であり生育未確認だが過去に文献記録及び標本もあることから、生存の可能性がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 山地の湿り気のある林縁に生育する多年草。

【特記事項】 国内分布は本州（青森・栃木・長野・三重と近畿・中国）、四国に限定的。標本：仮標本（愛川1990）。文献：桧山1965（武蔵野（広域））。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1674 オオバコ科

(和名) オオアブノメ

(学名) *Gratiola japonica* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 VU

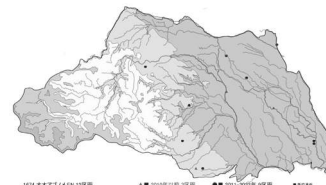
【評価所見】 今回の確認個体数は600未満で前回は450未満であるが今回の調査報告を精査した結果、さらにデータが必要で今後も継続して確認が必要。自然遷移が大きな危険要因となっている。また農業汚染、管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 休耕田、水田、湿地に生育する一年草。

【特記事項】 アブノメに類似するが、茎はやや太く大型であり、花は白色で花期は5-6月である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○		◎



1675 オオバコ科

(和名) スギナモ

(学名) *Hippuris vulgaris* L.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD2011 EX
1998 DD

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数0であった。1998年以降の確実な生育確認はない。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 かつては、池沼に生育した。

【特記事項】 国内分布は中部以北。文献：埼玉県教育委員会1976（羽生市 絶滅）。旧版植物誌や文献では秩父郡、加須・中川低地の報告が記録されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1676 オオバコ科

(和名) シソクサ

(学名) *Limnophila chinensis* (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は450以上で前回は1,000以上である。報告の中には新規報告地点も含まれている。生育地点の多くが水田及び休耕田であるので、管理状態によって生育環境が大きく変化することがある。管理放棄が大きな危険要因となっている。また湿地開発、農業汚染、自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 水田、休耕田及び湿地に生育。

【特記事項】 国内分布は関東以西。確認された生育地の中には保護地内や保全環境活動による管理が行われている場所も含まれている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	○



1677 オオバコ科

(和名) コキクモ

(学名) *Limnophila trichophylla* (Kom.) Kom.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

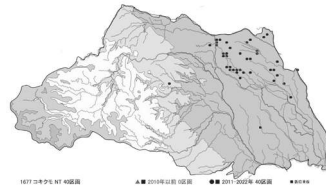
【評価所見】本県では以前から生育が知られていたものの分布の全容が把握されていなかったが、今回の調査で二次メッシュによる分布では12区画で確認することができ、確認個体数は3,200以上であった。農薬汚染、土地造成、管理放棄、自然遷移、湿地開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】水田や休耕田の縁辺及び浅水内に生育。

【特記事項】国内分布は本州（埼玉・群馬・栃木・兵庫・岡山）、福岡で限定的。標本：矢島標本 YT078（2022）。文献：木村2022（見沼区）。県内の分布については長島（2021）によって発表されているが、それ以前から非公開資料で同様の分布が知られている。本種は類似種のキクモと異なり一年草であり、本種の果実は明確に有柄であるのに対し、キクモでは無柄（または短い柄がある）である点、本種の茎は無毛で腺点があるのに対し、キクモの上部の茎には密に軟毛が生える点で区別できる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○			○	◎



1678 オオバコ科

(和名) スズメハコベ

(学名) *Microcarpaea minima* (K.D.Koenig ex Retz.) Merr.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は3,000以上であった。しかし精査の結果、さらにデータが必要で今後も継続して確認が必要。農薬汚染、管理放棄、自然遷移が危険要因となっている。

【県内生育状況】水田や休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。標本：矢島標本 YT1729（2018）。文献：伊藤 編1998（春日部市）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○

1679 オオバコ科

(和名) イヌノフグリ

(学名) *Veronica polita* Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 NT
1998 VU

全国カテゴリ

2020 VU

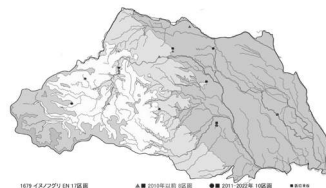
【評価所見】今回の確認個体数は300未満で前回は500未満である。前回調査で減少傾向にあることが確認されており、今回の報告でも同様の傾向が明らかとなった。農薬汚染、自然遷移、踏み付け、帰化競合が大きな危険要因となっている。また管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】比較的人里に近い、草刈りなどの手入れが頻繁に行われるような場所や石垣などに生育する。

【特記事項】特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		◎	○	○	○	○



1680 オオバコ科

(和名) ヒメトラノオ

(学名) *Veronica rotunda* Nakai var. *petiolata* (Nakai) Albach

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 NT2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回、前回ともに確認個体数0であった。2005年までは報告があるが、それ以降は確認されていない。絶滅したとは言いつれず判断資料が不足している。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】林道脇の林縁や草地にみられる多年草。

【特記事項】国内分布は関東以西、四国、九州北部で限定的。標本：SMNH-As53965（1986）、SMNH-As16349（1981）など。文献：岩田2005（秩父山地）、清水2005（秩父地方）、岩田2000（大滝村）、岩田ほか2000（大滝村）他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1681 オオバコ科

〔和名〕カワヂシャ

〔学名〕*Veronica undulata* Wall.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 NT

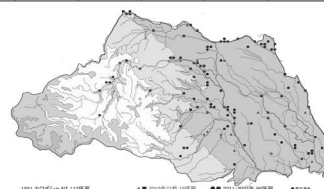
【評価所見】 今回の確認個体数は8,500未満で前回は3,000未満である。県内の丘陵地から低地まで広く確認された。しかし精査の結果確認が必要で継続的な調査が必要。水質汚濁、自然遷移、帰化競合、湿地開発、河川改修が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 水田、休耕田やそれらの水路、河川敷の低水路など、湿り気の多いところに生育する。

【特記事項】 オオカワヂシャとの競合が生じているところがいくつかある。両方ある場合はカワヂシャのほうが少なく、雑種を作る場合もあるので、今後注視して調査を続ける必要がある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○	○	○	○	◎



1682 オオバコ科

〔和名〕クガイソウ

〔学名〕*Veronicastrum japonicum* (Nakai) T.Yamaz. var. *japonicum*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

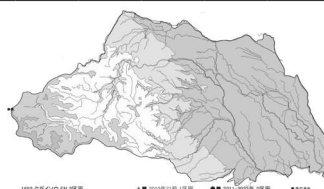
【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数30未満であった。前回の調査では2地点であったが、今回は実質3地点の報告である。精査の結果不確定要素があり継続調査が必要である。シカ食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林道脇の草地や林縁の日当たりのよいところに生育するが、シカ食害を受けない崖地でも確認されている。

【特記事項】 標本：SMNH-As56660 (2016)、SMNH-As53905 (1986) など。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1683 ゴマノハグサ科

〔和名〕キタミソウ

〔学名〕*Limosella aquatica* L.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

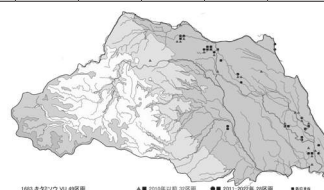
【評価所見】 今回の確認個体数は60,000未満で前回は90,000未満である。前回同様の地点数が報告され、二次メッシュによる分布では10区画で確認されている。産地極限、水質汚濁、自然遷移、管理放棄、河川敷開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 冬季は泥湿地が出現するような河川敷内に分布する。

【特記事項】 国内では北海道、本州（埼玉・群馬・茨城・奈良）、熊本と隔離分布する。県内希少野生動植物種〔埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○	○	◎



1684 ゴマノハグサ科

〔和名〕ゴマノハグサ

〔学名〕*Scrophularia buergeriana* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 前回の確認個体数は0であったが、今回の確認個体数は30未満であった。今回は2地点から報告された。個体数は極めて少ない状況で精査の結果確認が必要で継続的な調査が必要。管理放棄は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 やや湿った草地に生育。

【特記事項】 国内分布は秋田・宮城、関東以西。標本：TNS977335 (1991)、TNS794543 (1958)。文献：木村2020（さいたま市）、荒川の自然を守る会2011（上尾市）、磯田2006（さいたま市）、岩槻市2005（岩槻市）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

1685 ゴマノハグサ科

(和名) ヒナノウスツボ

(学名) *Scrophularia duplicatoserrata* (Miq.) Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100未満であった。採食採取圧があり、シカ食害の影響が大きい地点では植物体自体が小型化している報告があった。シカ食害、園芸採取が大きな危険要因となっている。また産地極限も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林の沢沿いなどの湿潤なところに生育する。

【特記事項】 標本:SMNH-As51668 (2004)、岩田標本 (2008) など。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1686 ゴマノハグサ科

(和名) オオヒナノウスツボ

(学名) *Scrophularia kakudensis* Franch.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

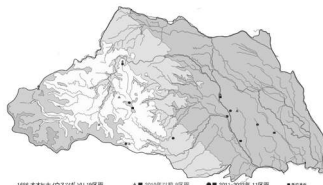
【評価所見】 確認個体数は100以上であった。二次メッシュによる分布では9区画で確認された。複数の調査地点で以前よりも減少が確認されている。また、生育地の大半が市街化調整区域又は市街化区域内であるため、急な環境の変化の危険もある。自然遷移、森林伐採、園芸採取が大きな危険要因となっている。また管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 草地や林縁に生育する。

【特記事項】 標本: SMNH-As50785 (2001)、SMNH-As51669 (2002) 他多数。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○		○	○	◎	



1687 ゴマノハグサ科

(和名) サツキヒナノウスツボ

(学名) *Scrophularia musashiensis* Bonati var. *musashiensis*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は100未満で前回は150未満である。前々回以降減少傾向である。隔離分布がみられる種でもある。森林伐採、シカ食害が大きな危険要因となっている。また土地造成、道路工事、自然遷移も懸念される危険要因である。

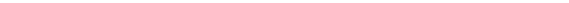
【県内生育状況】 山地の樹林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東（東京・埼玉・栃木）・滋賀・福井と隔離分布。標本: SMNH-As34269 (1986)、SMNH-As16279 (1987) など。文献: 岩田・林2020 (白谷沢・仙元尾根)、木村・森廣2014 (名栗) 他。ヒナノウスツボに似るが、開花期が異なっている (4～5月)。特別地域指定植物 [秩

父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎		○					



1688 アゼナ科

(和名) エダウチスズメノトウガラシ

(学名) *Lindernia antipoda* (L.) Alston var. *grandiflora* (Retz.) Tuyama

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

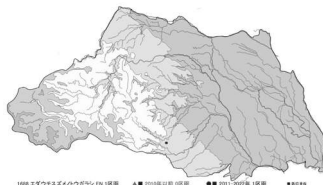
【評価所見】 個体数は100未満。実質1地点の報告であった。前回まではスズメノトウガラシの表記で掲載されていたが、近年エダウチスズメノトウガラシとヒロハスズメノトウガラシとに区別されていることから (大場, 2000)、両者を分けて評価を行った。農薬汚染、管理放棄、自然遷移が危険要因となっている。

【県内生育状況】 谷津田の畦や湿地などに生育する。

【特記事項】 文献: 埼玉県2022 (本庄市)。本種の葉は披針形で、花序上部の果柄は葉より短い傾向がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			



1689 アゼナ科

〔和名〕ヒロハスズメノトウガラシ

〔学名〕*Lindernia antipoda* (L.) Alston var. *antipoda*埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 個体数は700未満。二次メッシュによる分布では4区画で確認された。前版まではスズメノトウガラシの表記で掲載されていたが、近年エダウチスズメノトウガラシとヒロハスズメノトウガラシに区別されていることから（大場、2000）、両者を分けて評価を行った。エダウチスズメノトウガラシよりも個体数、集団数ともに多い。農業汚染、管理放棄、自然遷移が危険要因となっている。

【県内生育状況】 水田や休耕田に生育する。

【特記事項】 文献：吉見町2019（吉見町飯島新田）。本種の葉は長楕円形で、花序上部の果柄は葉より長い傾向がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



1690 シソ科

〔和名〕ヒイラギソウ

〔学名〕*Ajuga incisa* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 EN

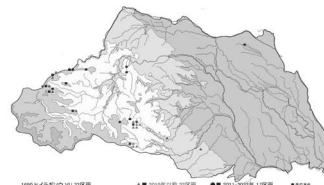
【評価所見】 今回の確認個体数は10,000未満で前回は20,000未満である。低山帯から山地帯まで10地点を超える報告があった。生育地は限られているものの、新たな地点の報告もあった。園芸採取、自然遷移、シカ被害、道路工事が大きな危険要因となっている。また土地造成も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林縁や林床に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州（関東・中部）。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○	○					○



1691 シソ科

〔和名〕オウギカズラ

〔学名〕*Ajuga japonica* Miq.埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は750以上で前回は600以上である。今回の調査では前回よりも多い10地点以上から報告があったが、被害等もあることから個体数としては決して多くない。森林伐採、シカ被害、産地極限が大きな危険要因となっている。また自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の木陰・林床に生育する。

【特記事項】 関東以西の分布とされるため、産地極限も個体数が限られている要因となっている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



1692 シソ科

〔和名〕ツルカコソウ

〔学名〕*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew.埼玉カテゴリ 2024 EX 2011 EX
2005 DD 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 今回、前回ともに確認個体数0であった。1998年版植物誌以後、生育が確認されていない。EW消滅か、絶滅したと考えられる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や林縁に生育したとされる。

【特記事項】 標本：SMNH-As34610（1984）。文献：東京薬科大学植物研究部1977（狭山丘陵）、松山1965（武蔵野（広域））、松山1964（狭山丘陵）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1693 シソ科

(和名) ツクバキンモンソウ

(学名) *Ajuga yezoensis* Maxim. ex Franch. et Sav. var. *tsukubana* Nakai

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

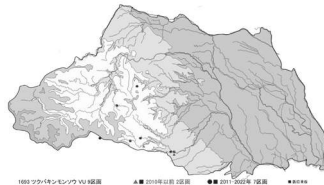
【評価所見】 今回の確認個体数は100以上で前回は30以上である。今回は7地点からの報告があった。他にも分布している可能性があるものの、まれな種となっている。森林伐採は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 植林地や二次林の明るめの林床に生育。

【特記事項】 ニシキゴロモの変種とされ、花冠上唇は目立たず長さは1-2mmである。ニシキゴロモは主に日本海側に分布するのに対し、本種は太平洋側に分布する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	◎		○			



1694 シソ科

(和名) ジャコウソウ

(学名) *Chelonopsis moschata* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

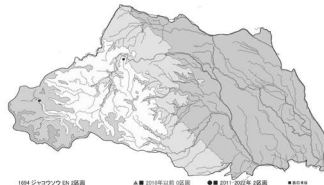
【評価所見】 確認個体数50未満であった。過去には秩父郡を中心に生育が確認できたものの、今回の報告は2地点にとどまった。森林伐採は懸念される危険要因となる。低山西帯の集団はシカの食害が確認されている。

【県内生育状況】 木陰や湿り気のある谷間などに生育。

【特記事項】 標本:SMNH-As5502 (2005) など、仮標本多数。文献:岩田・林2020 (両神山)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○					



1695 シソ科

(和名) テンニンソウ

(学名) *Comanthosphace japonica* (Miq.) S.Moore

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認個体数30未満であった。過去に1地点の確認があったが、今回も同地点からの報告である。本来の生育地域的には他のメッシュからも確認されてよい。過去の地点周辺の地域の実態が不明である。森林伐採は懸念される危険要因となる。

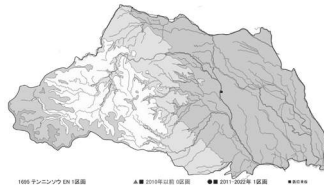
【県内生育状況】 林縁など木陰で湿り気のある場所に群落をつくる。

【特記事項】 標本: 仮標本 (小島1992)

特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	



1696 シソ科

(和名) ヒキオコシ

(学名) *Isodon japonicus* (Burm.f.) H.Hara var. *japonicus*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

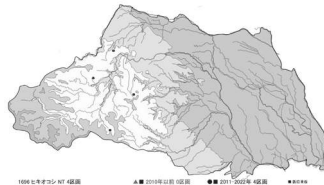
【評価所見】 確認個体数400未満であった。報告があった地点の大半で5割程度の減少が確認されている。二次メッシュによる分布では4区画である。森林伐採が大きな危険要因となっている。またシカ食害、自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林道沿い等のやや乾いた場所に生育。

【特記事項】 標本: 岩田標本54117 (1998)、新岩田標本 (2015)、新岩田標本 (2018) など。
隣接3都県で絶滅危惧種となっている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○					



1697 シソ科

〔和名〕 **タカクマヒキオコシ**〔学名〕 *Isodon shikokianus* (Makino) H.Hara var. *intermedius* (Kudô) Murata

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 CR2011 DD
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回、前回ともに確認個体数0であった。1986年に生育確認の記録があるものの、前回調査同様、今回も発見することはできなかったが調査の継続が必要である。

【県内生育状況】山地内の樹陰に生育する。

【特記事項】国内分布は関東以西。標本：仮標本（小島1986）。文献：神川町・神川町教育委員会1989（神川町）。ミヤマヒキオコシの変種で葉が細いのが特徴である。群馬県では絶滅とされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1698 シソ科

〔和名〕 **キセワタ**〔学名〕 *Leonurus macranthus* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】前回は確認できなかったが。今回の確認個体数は50未満で1件確認された。シカによる被害、自然遷移が危険要因になっている。

【県内生育状況】山地などの日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As15717（1981）、SMNH-As34802（1983）など。文献：神川町・神川町教育委員会1989（神川町）、守屋1987（武甲山）、岩田1987（秩父山系）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						

1699 シソ科

〔和名〕 **マネキグサ**〔学名〕 *Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 NT

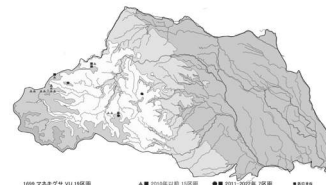
【評価所見】今回の確認個体数は3,500未満で前回は12,000未満である。報告数は前回に比べて半分に減少している。シカ被害が大きな危険要因となっている。また森林伐採、産地極限も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】落葉広葉樹林の林縁や草地に生育する多年草。

【特記事項】国内分布は関東以西。本種は2006年以降、情報収集種などで断続的に調査が行われてきた。それらの調査で確認できた地点が今回は報告されていないものも複数ある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						



1700 シソ科

〔和名〕 **ハッカ**〔学名〕 *Mentha canadensis* L.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

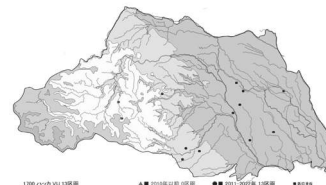
【評価所見】確認個体数は200未満であった。従来広く県内に分布が確認されていたが、急速に個体数を減らしている。管理放棄、自然遷移、農業汚染は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】やや湿潤なところに生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As51704（2003）、MNH-As52951（2005）など多数。過去には多数の地点で、標本や文献で生育が記録されているが、今回の調査では生育が確認できない地点が多くみられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○		○	○	○	◎	



1701

シソ科

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU

2011 EN
1998 VU

(和名)

ヒメハッカ

(学名)

Mentha japonica (Miq.) Makino

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

今回の確認個体数は100未満で前回は0である。1地点の報告のみであった。また、従来確認されていた分布地からは前回に引き続き確認することができず減少傾向が続いている。農業汚染、管理放棄、自然遷移が危険要因になっている。

【県内生育状況】

谷津田や休耕田などの湿地に生育するとされる。

【特記事項】

標本：仮標本（須永1993）、仮標本（山岸1993）。文献：岩槻市2005（岩槻市）、落合2000（寄居町）、磯田1990（浦和市）他

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1702

シソ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし

2011 EN
1998 なし

(和名)

シラゲヒメジソ

(学名)

Mosla hirta (H.Hara) H.Hara

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の確認個体数は700未満で前回は0である。今回は数か所で生育が確認できた。生育地の多くが市街化調整区域に含まれる。管理放棄、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】

林縁や放棄水田などの湿地に生育する。

【特記事項】

県内では、丘陵南を中心に生育が確認されたが、大宮台地にも分布している。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		◎		○	

1703

シソ科

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU

2011 VU
1998 VU

(和名)

ヤマジソ

(学名)

Mosla japonica (Benth. ex Oliv.) Maxim. var. japonica

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

今回の確認個体数は100未満で前回は200未満である。前回調査時点で既に報告数が減少しており、生育環境の悪化が懸念されていたが減少傾向が明らかとなっている。自然遷移、道路工事、土地造成が危険要因になっている。

【県内生育状況】

日当たりの良い裸地や草地に生えたとされる。

【特記事項】

標本：SMNH-As52957（2007）、SMNH-As49864（1988）など。文献：三上・石川2020（小川町）、荒川の自然を守る会2011（上尾市）、岩田2008（横瀬町）他。東京都の一部の地域では絶滅となっており、隣接県などにおいても絶滅危惧の懸念がされている種である。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○			○				

1704

シソ科

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD

2011 EX
1998 DD

(和名)

ミズネコノオ

(学名)

Pogostemon stellatus (Lour.) Kuntze

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

今回、前回ともに確認個体数0であった。1994年まで川越市で生育が確認された場所が用途変更となり、前回調査でも確認できなかった。絶滅したと考えられる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】

かつては、池沼脇の湿地や水田に生育していた。

【特記事項】

標本：ト沢標本YT1857(1994)、TNS284553(1957)。文献：奥山1984（越谷市）、桧山1965（武蔵野（広域））。埼玉県植物誌1998以降確実な生育確認なし。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1705 シソ科

〔和名〕ミズトラノオ

〔学名〕*Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD2011 EX
1998 DD

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】今回、前回ともに確認個体数0であった。1998年版植物誌調査以降、生育が確認できていない絶滅したと考えられる。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】かつては、池沼脇の湿地や水田に生育した。

【特記事項】文献：江森・加藤1980（大宮市）、企画部市史編さん室1978（与野市）、寺崎1977（戸田原）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1706 シソ科

〔和名〕ミヤマタムラソウ

〔学名〕*Salvia lutescens* (Koidz.) Koidz. var. *crenata* (Makino) Murata

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

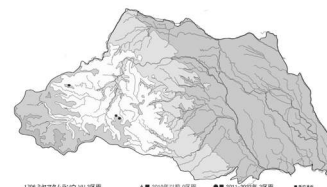
【評価所見】確認個体数50未満であった。二次メッシュによる分布では2区画の報告であった。シカによる被害も確認されており、今後の動向に注意する必要がある。自然遷移、シカ被害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】山地の半日陰に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：SMNH-As15926（1983）、SMNH-As15922（1970）ほか、仮標本4点がある。文献：岩田2021（武甲山）。ナツノタムラソウの変種で花が淡青紫色で葉片に丸みがある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1707 シソ科

〔和名〕オカタツナミソウ

〔学名〕*Scutellaria brachyspica* Nakai et H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

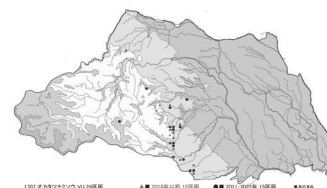
【評価所見】今回の確認個体数は900未満で前回は1,800未満である。前回調査時に比べ、新知見もあるが実質減少傾向である。自然遷移、森林伐採、道路工事、踏み付け、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】林縁、湿地などに生育する。

【特記事項】東京都（本土部）でも準絶滅危惧となっている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○		○		◎			



1708 シソ科

〔和名〕ヒメナミキ

〔学名〕*Scutellaria dependens* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

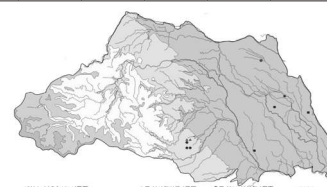
【評価所見】今回の確認個体数は1,100以上で前回は700未満である。本調査では、加須・中川低地での新知見に加え、丘陵帯でも報告があり、一定の集団数が確認できた。管理放棄、湿地開発、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】草刈によって管理された湿地及び草地など、ヨシ原に生育する。

【特記事項】国内分布は関東以西。保全活動の一環で管理されている生育地もある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					◎		◎	○



1709 シソ科

(和名) コナミキ

(学名) *Scutellaria guilielmii* A.Gray

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 EN2011 DD
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】今回、前回ともに確認個体数0であった。1998年版植物誌調査で生育が確認されて以降、報告がない。判断材料が乏しく調査の継続が必要がある。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】休耕田で湿地となる場所に生育していた。

【特記事項】国内でも生育地は限られている。茨城県ではDD、千葉県ではX（消息不明・絶滅生物）、長野県ではEX（絶滅）となっている。文献記録は無い。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1710 シソ科

(和名) カリガネソウ

(学名) *Tripura divaricata* (Maxim.) P.D.Cantino

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回の確認個体数は10未満で前回は0である。今回の調査では2地点の報告があったが、絶滅の危機である状況は変わっていない。湿地開発、自然遷移が危険要因となっている。

【県内生育状況】谷津や麓の林縁などに生育する多年草。

【特記事項】標本：SMNH-As15420（1967）、SMNH-As15419（1964）、岩田標本69815（2003）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		



1711 ハマウツボ科

(和名) ナンバンギセル

(学名) *Aeginetia indica* L.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

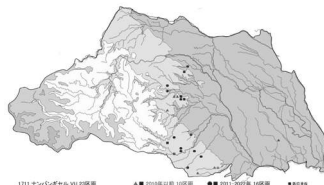
【評価所見】今回の確認個体数は250以上で前回は200以上である。前回調査でも増加傾向が確認され、今回は前回は上回る地点数が報告されているが不確定要素もあり継続調査が必要。自然遷移、園芸採取、草地開発が大きな危険要因となっている。また土地造成、動物被害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】ススキ、オギ、アズマネザサなど単子葉植物の根に寄生する寄生植物。

【特記事項】長野県では絶滅の扱いとなっている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	◎			



1712 ハマウツボ科

(和名) オオナンバンギセル

(学名) *Aeginetia sinensis* G.Beck

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

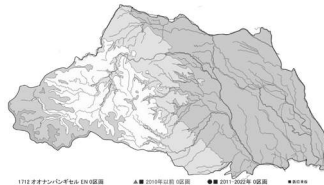
【評価所見】今回、前回ともに確認個体数0であった。埼玉RDB2005調査含め、未確認状態が続いているが絶滅したとは言いきれない。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】ヒメノガリヤスやシバスゲなどの単子葉植物の根に寄生する寄生植物である。

【特記事項】標本：SMNH-As16380（1986）、SMNH-As16379（1981）など。ナンバンギセルに似るが、全体的に大型で花冠裂片の縁は細鋸歯である。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1713 ハマウツボ科

〔和名〕 タチコゴメグサ

〔学名〕 *Euphrasia maximowiczii* Wettst. var. *maximowiczii*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は100以上で前回は200未満である。シカなどの食害の危険性があるなかで、今回の調査結果では、継続確認及び新発見も確認できた。自然遷移が大きな危険要因となっている。またシカ食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 亜高山帯の登山道脇の林縁などにみられる。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1714 ハマウツボ科

〔和名〕 ヤマウツボ (ケヤマウツボ)

〔学名〕 *Lathraea japonica* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

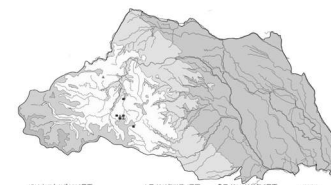
【評価所見】 今回の確認個体数は100以上で前回は200以上である。今回の調査では、継続確認に加え新発見の地点も複数含まれていた。森林伐採、自然遷移が大きな危険要因となっている。また石灰採掘も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地帯にみられる。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○					



1715 ハマウツボ科

〔和名〕 ミヤマママコナ

〔学名〕 *Melampyrum laxum* Miq. var. *nikkoense* Beauverd

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

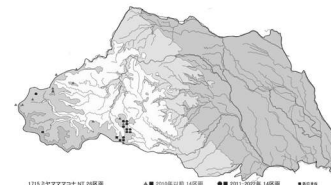
【評価所見】 今回の確認個体数は2,000以上で前回は4,500未満である。不確定要素もあり継続調査が必要。自然遷移、シカ食害が大きな危険要因となっている。また土地造成も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 登山道などの乾いた林縁や林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎		○					



1716 ハマウツボ科

〔和名〕 ママコナ

〔学名〕 *Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonicum* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 NT
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

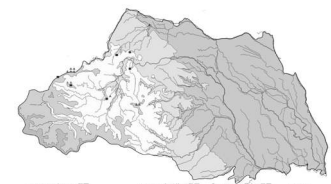
【評価所見】 今回の確認個体数は700未満で前回は2,300未満である。前回に比べ、報告数が半分以下となっている。分布域も従来は台地や丘陵地にも確認できていたようである。シカ食害、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 やや乾いた林床や林縁に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎	○					



1717 ハマウツボ科

(和名) クチナシグサ

(学名) *Monochasma sheareri* (S.Moore) Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 NT
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

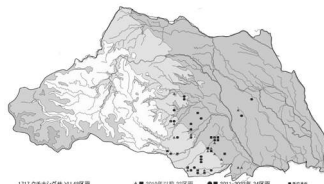
【評価所見】今回、前回ともに確認個体数650未満であった。報告地点は全て市街化調整区域または市街化区域のため、開発圧力が強い状態である。自然遷移、森林伐採、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】やや乾いた林内や林縁に生育する、半寄生の二年草。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。群馬県及び千葉県では絶滅扱いとなっている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					◎	○	○	



1718 ハマウツボ科

(和名) ハンカイシオガマ

(学名) *Pedicularis gloriosa* Bisset et S.Moore

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 NT2011 EN
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

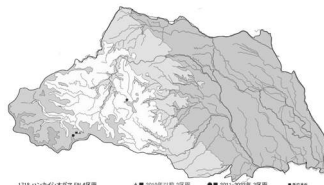
【評価所見】今回、前回ともに確認個体数30未満であった。2005年に8地点が記録されて以降、減少傾向である。今回は3地点の報告があった。生育地域が限られ、森林伐採、園芸採取は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】深山のやや湿った林縁に生育する。

【特記事項】国内分布は関東周辺（フォッサマグナ地域）。標本：SMNH-As16214 (1984)、SMNH-As16213 (1983) など。文献：岩田・林2020大血川西谷沢・豆焼沢。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1719 ハマウツボ科

(和名) シオガマギク

(学名) *Pedicularis resupinata* L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

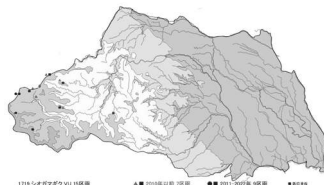
【評価所見】今回の確認個体数は600未満で前回は1,200以上である。前回調査に比べ、報告数は減少している。石灰岩採掘、シカ食害が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】林道脇の斜面など、日当たりの良い草地に生育する。生育地の多くは石灰岩地である。

【特記事項】茨城、千葉、神奈川県、東京都においても絶滅危惧扱いとなっている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1720 ハマウツボ科

(和名) トモエシオガマ

(学名) *Pedicularis resupinata* L. subsp. *teucriifolia* (M.Bieb. ex Steven) T.Yamaz. var. *caespitosa* Koidz.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】確認個体数10未満で1地点の報告であった。確認された地点も林道脇の斜面に点在している程度であり、シカ食害もみられる地域のため、今後消失する危険性が高い。自然遷移、シカによる食害、園芸採取が危険要因になっている。

【県内生育状況】草地に生育する。

【特記事項】国内分布は中部以北。標本：SMNH-As53944 (1986)、岩田標本73326 (2015)、新岩田標本 (2017)。文献：岩田・林2020 (小鹿野町)、須田ほか2019 (県内石灰岩地) 他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1721 ハマウツボ科

(和名) キヨスミウツボ

(学名) *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回、前回ともに確認個体数30未満であった。報告数は過去の調査も含めて限られている。今回の調査でも報告があったものの、個体数、集団数などの評価は減少傾向にある。採取価値は低く採取の危険性は少ないとされるものの、注意が必要である。分布未確認のため情報がなく危険要因は判断できない。

【県内生育状況】やや湿潤な林内に生育。カシ類やアジサイ類などの根に寄生する。

【特記事項】標本：SMNH-As51930 (2003)。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1722 ハマウツボ科

(和名) ヒキヨモギ

(学名) *Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook. et Arn.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

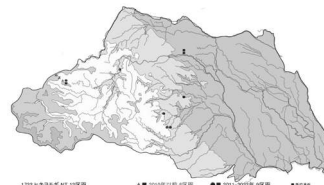
【評価所見】今回、前回ともに確認個体数1,200未満であった。地点によっては100株以上の集団が確認されている。現状維持の状態にある。自然遷移が大きな危険要因となっている。また園芸採取、道路工事も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】日当たりの良いやや乾燥した草地などに生育する。

【特記事項】特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	◎	○	◎			◎



1723 ハマウツボ科

(和名) オオヒキヨモギ

(学名) *Siphonostegia laeta* S.Moore

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

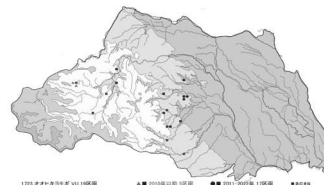
【評価所見】今回の確認個体数は1,000未満で前回は600以上である。丘陵帯や台地帯を中心に前回を超える地点数が報告された。自然遷移などにより大幅に個体数を減らしている地点はあるもの、新知見が多数報告されている。報告件数はヒキヨモギより多いが個体数はやや少ない。自然遷移、森林伐採、道路工事、管理放棄、園芸採取が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】山麓や山林の斜面など、やや乾いた草地に生育する。

【特記事項】国内分布は関東、中京、近畿、中国、四国に限定的。文献：岩田・林2021 (牛首峠)、本橋2020 (天覧山・多峯主山) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	◎	○		



1724 タヌキモ科

(和名) ムシトリスミレ

(学名) *Pinguicula macroceras* Pall. ex Link

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回の確認個体数は500未満で前回と同じである。生育地は前回と同じで、二次メッシュで1区画1地点で局限される。武甲山にはかつて生育していた記録があるが、現在は生育は不明である。石灰の採掘が主な危険要因である。

【県内生育状況】県内では湿り気ある石灰岩地に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As56604 (2013)。文献：岩田・林2020 (秩父市)、牧野ほか2005 (秩父市)、愛川2003 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						

1725 タヌキモ科

(和名) ノタヌキモ

(学名) *Utricularia aurea* Lour.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 EX2011 EX
1998 EX

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】今回までの調査では発見できなかった。標本は羽生市（1960）や日高市（1985）の採集記録がある。その後文献での記録がある。水質汚濁が主な危険要因である。

【県内生育状況】池沼や水路内に生育する水生植物である。

【特記事項】標本：TNS137339（幸手市1958）、TNS137340（羽生市1960）、TNS409471（日高町1985）。文献：太田2000（幸手市）、奥山1984（高萩・幸手）、埼玉県教育委員会1976（羽生市）、卜沢1967（仙女が池）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1726 タヌキモ科

(和名) イヌタヌキモ

(学名) *Utricularia australis* R.Br.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】今回の調査で加須低地の二次メッシュで3区画、個体数は10,000以上確認された。かなり多くの個体が安定して生育している。水質汚濁が主な危険要因となる。

【県内生育状況】ため池や湖沼に生育する浮遊性の食虫植物。

【特記事項】浮遊性の水草で群生するため、同じ場所にはかなりの個体数がみられる。このため環境の悪化で絶滅する可能性が大きい。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	○



1727 タヌキモ科

(和名) ミミカキグサ

(学名) *Utricularia bifida* L.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 EX2011 EX
1998 EX

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】古い標本や生育記録はあるが、寄居町三ヶ山の現地はすでに埋め立てられ絶滅したと考えられる。以後の調査では発見できない。湿地の埋め立てやため池の改修が危険要因である。

【県内生育状況】かつては、湿地に生育した食虫植物。

【特記事項】標本：SMNH-As56530（浦和市田島1905）。文献：加須市環境安全部2016（加須市）、寄居町教育委員会1986（寄居町）、卜沢1967（仙女が池）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1728 タヌキモ科

(和名) ホザキノミミカキグサ

(学名) *Utricularia caerulea* L.

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 CR2011 EX
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】標本や文献では寄居町三ヶ山の記録が残る。現地はすでに埋め立てられ絶滅したと考えられる。湿地の埋め立てやため池の改修が危険要因である。

【県内生育状況】かつては、湿地に生育した食虫植物。

【特記事項】標本：SMNH-As49034（寄居町三ヶ山1988）。文献：落合2000（寄居町）、寄居町教育委員会1986（寄居町）。県指定天然記念物〔ミミカキグサとモウセンゴケ自生地〕（寄居町鉢形地内）

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1729 タヌキモ科

(和名) **コタヌキモ**

(学名) *Utricularia intermedia* Heyne

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 EX

2011 EX
1998 EX

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

文献では旧大宮市深作沼の記録が残るが、その後の生育記録はない。水質汚濁が主な危険要因である。

【県内生育状況】

かつては、ため池や湖沼に生育した浮遊性の食虫植物。

【特記事項】

文献：江森・加藤1980（大宮市）、埼玉県教育委員会1976（羽生市）、埼玉県教育委員会1962（北埼玉地区）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1730 タヌキモ科

(和名) **タヌキモ**

(学名) *Utricularia x japonica* Makino

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR

2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

今回の確認個体数は100未満で前回は1,000未満である。かつては県内に広く生育していたが、今回の報告は1集団の生育記録となっている。水質汚濁が主な危険要因である。

【県内生育状況】

池沼や水路内に生育する浮遊性の食虫植物。

【特記事項】

標本：SMNH-As50019（1988）、SMNH-As16400（1964）、SMNH-As43392（1954）。文献：三上2022（加須市）（文献では絶滅？の記載あり）、加須市環境安全部2016（加須市）、岩槻市2005（岩槻市）、落合2000（寄居町　消失）他。1998年版埼玉県植物誌では3地点から生育が報告がされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	

1731 タヌキモ科

(和名) **ムラサキミミカキグサ**

(学名) *Utricularia uliginosa* Vahl

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 CR

2011 EX
1998 CR

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】

文献では寄居町三ヶ山、加須市浮野や日高市仙女が池の生育記録がある。以後今回の調査でも報告例はない。湿地の埋め立てやため池の改修が危険要因である。

【県内生育状況】

かつては、湿地に生育した食虫植物。

【特記事項】

文献：三上2022（加須市）（文献では絶滅？の記載あり）、寄居町教育委員会1986（寄居町）、ト沢1967（仙女が池）、橋本1954（加須市）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1732 キツネノマゴ科

(和名) **ハグロソウ**

(学名) *Peristrophe japonica* (Thunb.) Bremek, var. *subrotunda* (Matsuda) Murata et Terao

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の確認個体数は10,000未満で前回と同じで、安定した生育が確認されている。道路工事、自然遷移、土地造成、踏み付けなどが危険要因となっている。また管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】

林縁に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	◎	○		○

維管束植物

蘇苔類

藻類

地衣類

菌類

1733 クマツヅラ科

〔和名〕クマツヅラ

〔学名〕*Verbena officinalis* L.

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

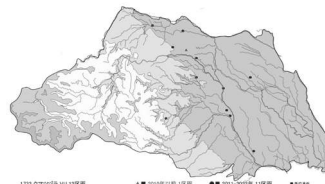
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000未満で前回と変わらない、二次メッシュでは8区画と増加傾向がみられる。踏み付けが大きな危険要因となっている。また自然遷移や湿地開発も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 林縁や道端のやや乾燥した場所に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	◎



1734 キキョウ科

〔和名〕フクシマシャジン

〔学名〕*Adenophora divaricata* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 NT
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

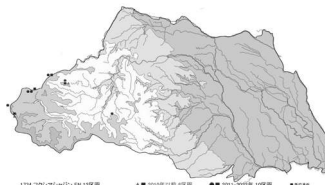
【評価所見】 今回の確認個体数は100以上であるが前回より半減している。二次メッシュで4区画の生育地が報告されている。分布域は狭く、急激に個体数が減少している。シカ食害が大きな危険要因となっている。特に成熟個体が少なくなっている。

【県内生育状況】 やや乾いた斜面や草地に生育する。県内では主に石灰岩地にみられる。

【特記事項】 国内分布は本州中北部・中国地方・徳島で限定的。標本:SMNH-As17191 (1986)、SMNH-As17190 (1986) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1735 キキョウ科

〔和名〕ヒメシャジン

〔学名〕*Adenophora nikoensis* Franch. et Sav. var. *nikoensis*

埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 VU
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

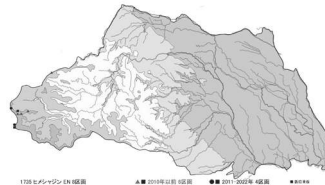
【評価所見】 今回の確認個体数は100以上あるが、前回よりやや減少している。県内の生育は二次メッシュで3区画確認されている。近年シカの食害や踏みつけなどで減少が激しい。

【県内生育状況】 岩礫地などに生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本:SMNH-As56654 (2016)、SMNH-As17206 (1986) など。甲武信岳山頂付近ばかりに生育する。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1736 キキョウ科

〔和名〕ミョウギシャジン

〔学名〕*Adenophora nikoensis* Franch. et Sav. var. *petrophila* (H.Hara) H.Hara

埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 EN
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 なし

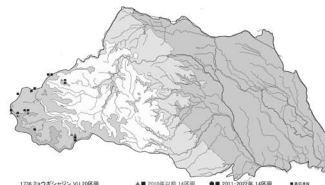
【評価所見】 今回の調査では個体数1,000以上で前回も1,000以上である。二次メッシュで7区画と前回より個体数、集団数ともやや増加している。自然遷移や管理放棄が危険要因となる。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育する。本種の葉は披針形で先が鎌形に湾曲し、ほとんど輪生するものが多いが、一部のみ輪生し多くが互生する型もある (岡崎, 2017)。

【特記事項】 国内分布は本州中部で限定的。本種の葉の短いものが石灰岩地のフクシマシャジンと時に類似するが、フクシマシャジンの花盤は細長く2mm程度あるのに対し、ミョウギシャジンでは花盤が短く1mm程度である。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1737 キキョウ科

(和名) ツルギキョウ

(学名) *Codonopsis javanica* (Blume) Hook.f. et Thomson subsp. *japonica* (Makino) Lammers

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】県内で確認されている生育地は二次メッシュで1区画1地点で、ここ数年成熟個体が確認されていない。前回の調査では7件の報告があるがいずれも同一地点である。園芸採取、自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 つる性の多年草でスギ植林地や二次林の林床や林縁に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As51507 (2003)、SMNH-As51509 (1999)。文献：愛川2003 (越生町)、植物誌活用部会2001 (場所未記載) 日高町史編集委員会・日高町教育委員会1991 (日高町) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○			

1738 キキョウ科

(和名) バアソブ

(学名) *Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

埼玉カテゴリー

2024 EN
2005 NT2011 EN
1998 NT

全国カテゴリー

2020 VU

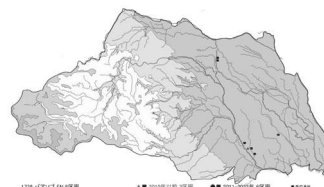
【評価所見】 今回の調査では個体数100以上で前回と変化がない。二次メッシュ3区画6地点で、いずれも生育環境は減少傾向にあり、管理放棄、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 低地の湿地周辺や湿り気にある林縁に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As55622 (1994)、SMNH-As55093 (1993) など。さいたま市緑区や桜区のサクラソウ保護区では保護団体により保護されている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							◎	○



1739 キキョウ科

(和名) サワギキョウ

(学名) *Lobelia sessilifolia* Lamb.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 VU2011 CR
1998 VU

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回確認された個体数は50個体未満で前は100個体未満であった。現在確認されている生育地点は二次メッシュで1区画1地点で、ここ数年開花個体も減少傾向にある。自然遷移による日照不足などが主な危険要因となっている。

【県内生育状況】 谷地や湿った草地に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As31079 (1985)、SMNH-As24100 (1983)。文献：牧野・田島2019 (坂戸市)、落合2000 (寄居町)、天然記念物保護増殖委員会1997 (寄居町) 他。1998年版埼玉県植物誌では5地点から生育が報告がされていた。現在の生育地は保護団体により保護されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1740 キキョウ科

(和名) キキョウ

(学名) *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】 前回確認されていない。野生での生育が極端に少なく、今回二次メッシュで1区画1地点のみで確認された。絶滅が心配される。園芸採取、自然遷移は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や管理された人里近くに生育する。園芸品の逸出が多く、野生種の確認が難しくなっている。

【特記事項】 標本：SMNH-As49591 (1990)、SMNH-As17383 (1986) など。文献：藤波ほか2021 (上尾市)、山下ほか2020 (飯能市)、嵐山町博物誌植物部会2012 (嵐山町) 他。1998年版埼玉県植物誌では13地点から生育が報告がされて

いる。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1741 ミツガシワ科

(和名) ヒメシロアサザ

(学名) *Nymphoides coreana* (H.Lév.) H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

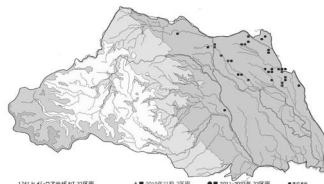
【評価所見】 今回の確認個体数は10,000以上で前回の1,000以上から増加している。二次メッシュでも加須・中川低地の水田を主に10区画で確認されている。農業汚染、土地造成、自然遷移、水質汚濁、などが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 湖沼やため池などに生育する浮葉植物で県内ではほとんどが水田内でみられる。

【特記事項】 生育地では条件が良いと、大群落となることが多く、評価が低くなる要因といえる。近県の群馬、栃木、千葉などでは絶滅危惧種に指定されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		◎



1742 ミツガシワ科

(和名) ガガブタ

(学名) *Nymphoides indica* (L.) Kuntze

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 NT

【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回に比べやや増加している。新たに二次メッシュの2区画で生育が確認された。水質汚濁、河川改修、池沼開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 湖沼やため池などに生育する浮葉植物。

【特記事項】 標本：SMNH-As51029 (1995)、SMNH-As43557 (1954) など。東京、神奈川では絶滅種とされている。水生植物で群生するため、同じ場所にはかなりの個体数がみられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○		○	○	○



1743 ミツガシワ科

(和名) アサザ

(学名) *Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 EN2011 VU
1998 EN

全国カテゴリ

2020 NT

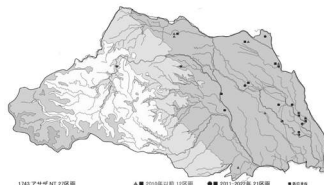
【評価所見】 今回の確認個体数は10,000以上で前回より増加している。閉鎖水面の池沼では絶滅したところもあるが、河川では増加しているところもある。水質汚濁、河川改修、池沼開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 池沼、ため池、河川などに生育する浮葉植物。

【特記事項】 水生植物で群生するため、同じ場所にはかなりの個体数がみられる。このため環境の悪化で短期間で絶滅する可能性が大きい。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○		○	○	◎



1744 キク科

(和名) ヤマノコギリソウ

(学名) *Achillea alpina* L. subsp. *alpina* var. *discoidea* (Regel) Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 前回は確認されていなかったが、今回の確認個体数は10以下で、二次メッシュで1区画1地点である。シカによる食害が目立ち、成熟個体が減少していることが主な危険要因である。

【県内生育状況】 亜高山帯の草原に生育している。ノコギリソウの変種とされ、頭花が小さく径4mm。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As17388 (1973)、SMNH-As17387 (1971) ほか。文献：岩田・林2020 (秩父市)、岩田2000 (大滝村)、ト沢1999 (秩父山系)、磯田1997 (大滝村)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1745 キク科

〔和名〕ノコギリソウ

〔学名〕*Achillea alpina* L. subsp. *alpina* var. *longiligulata* H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 確認個体数は100以下である。県内の生育地点は限られており、自然遷移による草地の減少や園芸採取が主な危険要因である。

【県内生育状況】 丘陵から山地の草原に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As4063 (1948)、仮標本（安田ほか1982）、仮標本（寺尾1994）。旧版埼玉県植物誌（1962）では大里、比企、秩父3郡から記録されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						



1746 キク科

〔和名〕カワラハハコ

〔学名〕*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. var. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Ohwi

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50以下で前回は100個体以下であった。これまで二次メッシュで2区画2地点の生育地が報告されている。河川敷の礫地の安定化にともなう自然遷移が危険要因である。

【県内生育状況】 河川敷の礫地に生育。

【特記事項】 標本：SMNH-As49605 (1990)、SMNH-As31212 (1979) ほか。文献：加須市環境安全部2016（加須市）、山下ほか2006（熊谷市）、尾形ほか2005（熊谷市）、落合2000（寄居町）他。1998年版埼玉県植物誌では9地点から生育が報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○						○

1747 キク科

〔和名〕ヤハズハハコ

〔学名〕*Anaphalis sinica* Hance var. *sinica*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

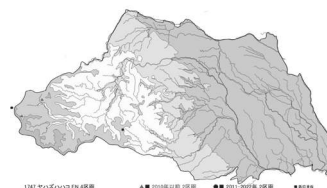
【評価所見】 今回の確認個体数は50以下で前回は100以上であった。これまで二次メッシュで2区画2地点の生育地が報告されている。シカによる食害が危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い礫地に生育する。ヤハズハハコ、トダイハハコ、クリヤマハハコの3変種には連続的変異がある。

【特記事項】 標本：SMNH-As56863 (2016)、SMNH-As17496 (1986) など。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1748 キク科

〔和名〕トダイハハコ

〔学名〕*Anaphalis sinica* Hance var. *pernivea* T.Shimizu

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 確認された二次メッシュは2区画、地点数は3、個体数は1,000未満で前回の100未満から増加した。県内の分布は限られており、絶滅の危険性は依然高い。シカ食害は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部山岳周辺で限定的。標本：SMNH-As56862 (2017)、SMNH-As53857 (1986) など。文献：岩田・林2020（秩父市）、須田ほか2019（県内石灰岩地）、牧野ほか2019（中津川）他。ヤハズハハコ、トダイハハコ、クリヤマハハコの3変種には連続的変異がある。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1749 キク科

(和名) クリヤマハハコ

(学名) *Anaphalis sinica* Hance var. *viscosissima* (Honda) Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 EN
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

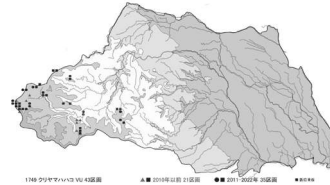
【評価所見】確認された二次メッシュ数は9、地点数は35、個体数は10,000未満で前回は10,000未満だった。シカ食害の及ばない岩壁の上部などで多くの個体を確認できたものの、自然遷移やシカ食害により減少は続いていると考えられる。自然遷移、石灰岩採掘、シカ食害、森林伐採が大きな危険要因となっている。また園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】岩場などに生育する。本県では石灰岩地での確認個体数が多い。

【特記事項】国内分布は埼玉・群馬・栃木に限定的。ヤハズハハコ、トダイハハコ、クリヤマハハコの3変種には連続的な変異がある。ここでは北村（1943）に従いウスゲクリヤマハハコの型をクリヤマハハコに広く含めて扱った。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1750 キク科

(和名) カワラヨモギ

(学名) *Artemisia capillaris* Thunb.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

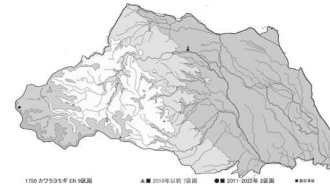
【評価所見】今回の確認個体数は100以上で前回は1,000以上であった。これまで二次メッシュで1区画2地点の生育地が報告されている。シカ食害、自然遷移などが主な危険要因である。

【県内生育状況】日当たりのよい河原の砂礫地に生育する。

【特記事項】標本: SMNH-As52778 (2007)、SMNH-As48964 (2006) など。1998年版埼玉県植物誌では21地点から生育が報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							○



1751 キク科

(和名) ヒメシオン

(学名) *Aster fastigiatus* Fisch.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 VU
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回の調査以後、渡良瀬川河川敷内に20個体ほどの生育が確認されている。しかし2016年以後は生育の報告がない。河川敷開発、園芸採取、管理放棄が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】湿った河川敷の草地や水田のあぜに生育する。

【特記事項】標本: SMNH-As31432 (1984)、SMNH-As4020 (1952)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
								○



1752 キク科

(和名) サワシロギク

(学名) *Aster rugulosus* Maxim. var. *rugulosus*埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 DD
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 前回も今回も発見することができなかったが調査の継続が必要である。湿地の開発や自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い、酸性の湿地に生育する。

【特記事項】 文献：堀江ほか1976（熊谷市）、卜沢1967（仙女が池）、桧山1965（武蔵野（広域））他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1753 キク科

(和名) ミヤマヨメナ

(学名) *Aster savatieri* Makino var. *savatieri*埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 EN
2005 NT 1998 NT

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 過去の記録は文献のみで標本はない。今回も生育は未確認だが生育の期待がある。シカによる食害や園芸採取が危険要因である。

【県内生育状況】 山地の日陰に生育し、匍匐する長い地下茎がある。

【特記事項】 標本：仮標本（牧野ほか1994）。文献：高橋ほか1994（大滝村）、高橋ほか1993（大滝村）、埼玉県1987（大滝村）他。1998年版埼玉県植物誌には中津川1地点の記録があるが、その後の報告はない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1754 キク科

(和名) ハコネギク

(学名) *Aster viscidulus* (Makino) Makino var. *viscidulus*埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 NT
2005 CR 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

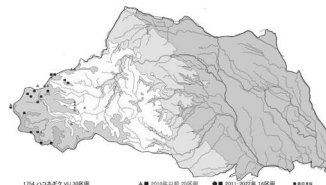
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回よりやや減少している。報告数は二次メッシュ5区画で前回とほとんど変化がない。しかし今回の調査では草地でのシカの食害による成熟個体の減少が著しく、危険要因となっている。

【県内生育状況】 草原や岩場に生育する。

【特記事項】 フォッサマグナ要素の植物とされ、関東地方と中部地方に分布する。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1755 キク科

(和名) タウコギ

(学名) *Bidens tripartita* L.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

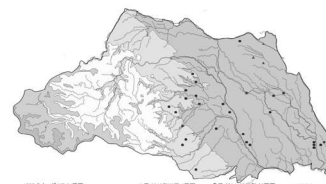
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回の100以上に比べ増加している。近年農業使用の減少や耕作放棄水田の増加により、個体数の増加傾向がみられる。しかし、放棄水田の増加による拡大は一時的なものであると考えられ、農業汚染、湿地開発が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 水田のへりやあぜなどの湿地に生育する。初期の耕作放棄地に多くみられる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	◎	○	○



1756 キク科

(和名) オオガンクビソウ

(学名) *Carpesium macrocephalum* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は100以上であった。二次メッシュも3区画だけとなった。山地ではシカの食害が激しく、危険要因となっている。

【県内生育状況】 湿った林内や道路わきの斜面に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As17769 (1986)、SMNH-As24156 (1985) など。文献：平ほか2005 (神泉村)、五十嵐・岩田2005 (東大秩父演習林)、岩田2005 (秩父山地)、牧野・山下2003 (大滝村) 他。1998年版埼玉県植物誌では14地点から生育が報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○		○				

1757 キク科

(和名) イワインチン

(学名) *Chrysanthemum rupestre* Matsum. et Koidz.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認された成熟個体は岩上にわずか数十個体である。現在の生育地は秩父市雁坂峠草原のみで、ここでもシカの食害がみられる。園芸採取、自然遷移、シカ食害などが危険要因となっている。

【県内生育状況】 乾いた草地に生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As4203 (1948)、TNS9434 (1892)、MAK161796 (1895)。文献：岩田・林2020 (秩父市)、岩田2005 (秩父山地)、三上ほか2000 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1758 キク科

(和名) キクタニギク (アワコガネギク)

(学名) *Chrysanthemum seticuspe* (Maxim.) Hand.-Mazz. f. *boreale* (Makino) H.Ohashi et Yonek.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 NT

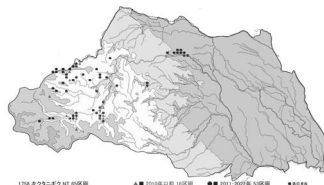
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回よりやや増加している。低地から山地に広く生育するが、一部にシカの食害がみられる。自然遷移、道路工事、園芸採取などが主な危険要因となっている。

【県内生育状況】 山地の林道脇や河川敷のやや乾いた砂礫地に生育する。

【特記事項】 在来の子クタニギクの他に法面緑化の目的で種子を移入した中国・韓国由来の子クタニギクがみられるようになっている。両者の区別は難しい。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	◎		○		○		○



1759 キク科

(和名) キセルアザミ

(学名) *Cirsium sieboldii* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 DD2011 なし
1998 DD

全国カテゴリ

2020 なし

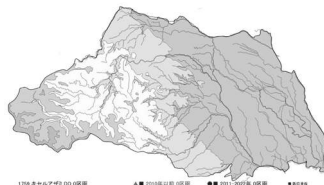
【評価所見】 今回の調査では生育が確認できなかった。過去の標本は立正大堀江 (未登録) といくつかの文献記録がある。近年の調査でも生育地は未確認であるが、今後再発見が期待される。自然遷移や湿地開発が危険要因である。

【県内生育状況】 湿地に生育する。

【特記事項】 標本：堀江標本 (熊谷1976)。文献：埼玉県生態系保護協会1993 (見沼地区)、堀江ほか1982 (熊谷市)、企画部市史編さん室1978 (与野市) 他。

【県内分布状況】

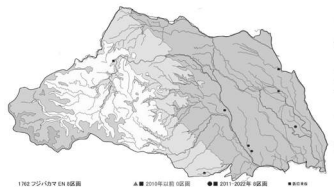
亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1760	キク科	埼玉カテゴリ	2024 EX 2005 EX	2011 EX 1998 EX				
〔和名〕	クサノオウバノギク	全国カテゴリ	2020 VU					
〔学名〕	<i>Crepidiastrum chelidoniifolium</i> (Makino) Pak et Kawano							
【評価所見】 今回の調査では生育が確認できなかった。1970年代（熊倉山、両神山、白泰尾根）の標本を最後に、近年の調査では生育地の報告はない。森林の伐採やシカの食害が主な危険要因である。								
【県内生育状況】 かつては、山地の明るい落葉樹林内に生育した。								
【特記事項】 国内分布は本州（埼玉・栃木・奈良・三重）、四国と限定的。標本：SMNH-As18946(1974)、TNS137442(1970)、MAK198044(1972)。文献：長瀬町教育委員会1997（長瀬町）、岩田1987（秩父山系）、荒川村史編さん委員会1983（荒川村）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕								
【県内分布状況】								
亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1761	キク科	埼玉カテゴリ	2024 EX 2005 DD	2011 EX 1998 DD				
〔和名〕	アズマギク	全国カテゴリ	2020 なし					
〔学名〕	<i>Erigeron thunbergii</i> A.Gray subsp. <i>thunbergii</i>							
【評価所見】 今回の調査では生育が確認できなかった。標本は原寛1952（秩父郡見鈴山）を最後に記録がない。文献では1970年代の生育記録が最後である。管理放棄による草地の減少が主な危険要因である。								
【県内生育状況】 かつては、乾いた山地草原に生育した。								
【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：TNS12248（横瀬市1885）、東大標本（皆野町見鈴山1952）。文献：磯田1990（田島ヶ原）、岩田1982（秩父市）、埼玉県教育委員会1978（浦和市）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕								
【県内分布状況】								
亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1762	キク科	埼玉カテゴリ	2024 EN 2005 なし	2011 NT 1998 EN				
〔和名〕	フジバカマ	全国カテゴリ	2020 NT					
〔学名〕	<i>Eupatorium japonicum</i> Thunb.							
【評価所見】 今回の確認個体数は100以上、二次メッシュで6区画の生育地が報告されている。各地点の個体数は少なく、野生の生育地の減少が著しい。自然遷移、管理放棄が大きな危険要因となっている。また園芸採取も懸念される危険要因である。								
【県内生育状況】 大きな川の氾濫原や土手に生育する。								
【特記事項】 1998年版埼玉県植物誌では15地点から生育が報告されている。生育地の一部は保全団体により保全されている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕								
【県内分布状況】								
亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	◎	○



1763	キク科	埼玉カテゴリ	2024 CR 2005 CR	2011 CR 1998 CR				
〔和名〕	ヤナギタンポポ	全国カテゴリ	2020 なし					
〔学名〕	<i>Hieracium umbellatum</i> L.							
【評価所見】 今回の調査では前回と同様発見することができなかった。文献によると2008年までは生育が確認されており、絶滅したとは言いきれない。シカの食害が主な危険要因である。								
【県内生育状況】 山地のやや湿り気のある草地に生育する。								
【特記事項】 標本：SMNH-As53852（1986）、SMNH-As18255（1986）など。文献：牧野ほか2008（秩父市）、岩田2005（秩父山地）、清水2005（秩父地方）、岩田2000（大滝村）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕								
【県内分布状況】								
亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1764

キク科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 なし

(和名)

オグルマ

(学名)

Inula britannica L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の確認個体数は500以上で前回は500以下とやや増加している。低地から丘陵にかけて広く生育するが、農薬汚染、管理放棄、自然遷移、湿地開発などが大きな危険要因となっている。また河川敷開発も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】

日当たりの良い湿地や河川敷、水田畔などに生育する。

【特記事項】

オグルマの頭花は3～4cmと大きく、花時に根生葉はなく、葉は幅が1～3cmと幅広く基部は茎を抱く、下面の腺点は白色である点などでホソバオグルマと区別される(大場, 2003; 門田ほか, 2017)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	○	○	◎	○

1765

キク科

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD

2011 EX
1998 DD

(和名)

ミズギク

(学名)

Inula ciliaris (Miq.) Maxim. var. *ciliaris*

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の調査でも生育の確認ができなかった。旧版植物誌以後、文献は飯能市1977の生育記録がある。その後生育地の報告はなく絶滅したと考えられる。

【県内生育状況】

山地の湿地に生育する。

【特記事項】

標本はSMNH-As50691(寄居町1950)。文献: 飯能市史編集委員会1977(飯能市)。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1766

キク科

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN

2011 EN
1998 EN

(和名)

ホソバオグルマ

(学名)

Inula linariifolia Turcz.

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】

今回の確認個体数は1,000以上で前回よりやや増加している。調査精度の向上により個体数の報告が増加した。農薬汚染、管理放棄、自然遷移、湿地開発などが大きな危険要因となっている。また河川敷開発も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】

低地の湿地に生育する。

【特記事項】

標本はSMNH-As43150(1954)、SMNH-As51140(2009)、TNS-978。県内には葉裏の腺点は白色と黄褐色が散在し、葉は広い線形、頭花は3～3.5cmなどオグルマとの中間の特徴をもつ、雑種のサクラオグルマが多く見られる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○	◎	○

1767

キク科

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN

2011 NT
1998 なし

(和名)

カセンソウ

(学名)

Inula salicina L. var. *asiatica* Kitam.

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】

今回の確認個体数は50未満で前回は100未満であった。今回の調査では二次メッシュで3区画の報告で、近年生育環境の減少が顕著で個体数も少ない。草地の放棄や開発による自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】

山の日当たりの良い、やや乾いた草地に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○			○		○	

1768 キク科

〔和名〕 **タカネニガナ**〔学名〕 *Ixeridium alpicola* (Takeda) Pak et Kawano

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 CR2011 VU
1998 CR

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は500未満で前回は1,000以上であった。二次メッシュも3区画と前回と同じである。シカの食害がみられるが、危険要因としては小さい。

【県内生育状況】 尾根の岩場に生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1769 キク科

〔和名〕 **タカサゴソウ**〔学名〕 *Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. et Vaniot) Kitam.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】 今回の調査でも発見することができなかった。しかし絶滅したとは言いきれず、今後の調査により生育地の確認が期待される。土地の造成や管理放棄による自然遷移が主な危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりのよい乾いた草地や丘陵に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As43154 (1954)、仮標本 (植田1944)、仮標本 (小島1992)。文献：磯田1997 (大滝村)、日高町史編集委員会・日高町教育委員会1991 (日高町)、中澤・小川1982 (都幾川町) 他。1998年版埼玉県植物誌では2地点から生育が報告がされている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1770 キク科

〔和名〕 **ノニガナ**〔学名〕 *Ixeris polycephala* Cass.

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

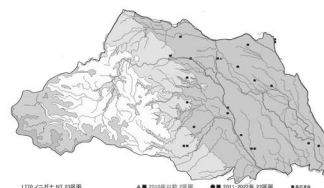
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回は500未満で増加傾向である。しかし、水田では除草剤の使用による個体数の減少がみられる。自然遷移、農薬汚染、湿地開発が大きな危険要因となっている。また管理放棄も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 水田のまわりや河川敷などの湿り気のある所に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○	○	◎



1771 キク科

〔和名〕 **カワラニガナ**〔学名〕 *Ixeris tamagawaensis* (Makino) Kitam.

埼玉カテゴリー

2024 EN
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリー

2020 NT

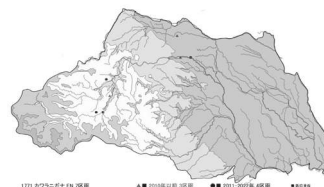
【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は10個体で増加傾向であるが依然として個体数は少ない。二次メッシュで3区画6地点の報告がある。以前からの生育地点で、今回確認できなかった生育地も多い。河川改修、帰化競合、自然遷移が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 河原の砂礫地などに生育する。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本：SMNH-As48362 (2002)、SMNH-As49697 (1991)。1998年版埼玉県植物誌では11地点から生育が報告されている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○				○		



1772 キク科

(和名) ミヤマアキノノゲシ

(学名) *Lactuca triangulata* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし2011 DD
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

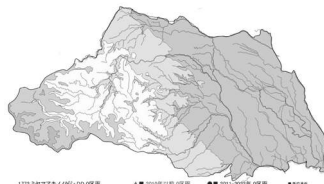
【評価所見】今回の調査でも発見することができなかった。2005年には奥秩父林道入り口付近で生育が確認されている。絶滅したとは言い切れず今後も継続して確認が必要。シカによる食害が主な危険要因である。

【県内生育状況】山地の開けた樹林内に生育する。

【特記事項】国内分布は関東、中部の山地に限定的。標本：SMNH-As24281 (1983)、SMNH-As50699 (1998)。文 献：岩田2005 (秩父山地)、愛川ほか2004 (大滝村)、愛川2003 (大滝村) 他。以前に奥秩父林道入り口付近で採集された標本はあるが、近年の調査では確認できない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1773 キク科

(和名) ウスユキソウ

(学名) *Leontopodium japonicum* Miq. var. *japonicum*

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

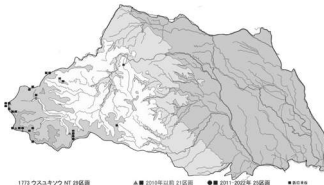
【評価所見】今回の確認個体数は1,000以上で前回とはほぼ同じである。今回の調査でも集団数や個体数がかなり報告されている。シカによる食害が主な危険要因である。

【県内生育状況】岩の隙間や乾燥した礫地に生育する。県内では石灰岩地や蛇紋岩地に主に生育する。

【特記事項】県内の石灰岩地では葉表にも綿毛が生えて葉幅が狭く、花序枝がやや長くなる型もみられるが、これは長野県の戸台から記載されているカワラウスユキソウ (Honda, 1932) の形態に類似する。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○	○	○					



1774 キク科

(和名) カイタカラコウ

(学名) *Ligularia kaialpina* Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

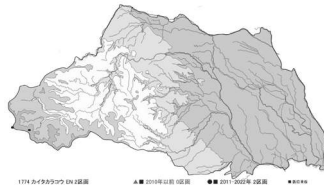
【評価所見】今回の確認個体数は50未満で前は未確認であった。今回の調査で二次メッシュで2区画あるが、いずれも2016年以前の報告である。シカの食害が主な危険要因である。

【県内生育状況】沢沿いで湿気の多い場所に生育する。

【特記事項】国内分布は東北から本州中部。標本：SMNH-As18442 (1967)、岩田標本61085 (2000) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1775 キク科

(和名) メタカラコウ

(学名) *Ligularia stenocephala* (Maxim.) Matsum. et Koidz.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 NT

全国カテゴリ

2020 なし

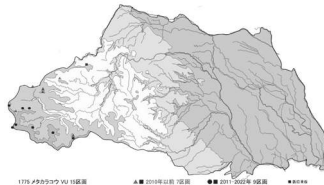
【評価所見】今回の確認個体数は500以上で前は1,000未満でやや減少傾向である。今回の調査で二次メッシュで7区画9地点の報告がある。近年シカの食害が目立ち、大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】沢沿いの湿気の多い場所に生育する。

【特記事項】特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1776 キク科

(和名) オオモミジガサ

(学名) *Miricacalia makinoana* (Yatabe) Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

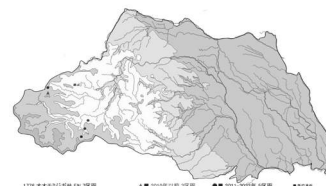
【評価所見】今回二次メッシュで4区画5地点で前回は6区画であった。最近シカの食害による成熟個体の減少が著しく、主な危険要因となっている。

【県内生育状況】山地の沢沿いの夏緑樹林内に生育が知られている。

【特記事項】国内分布は関東以西。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1777 キク科

(和名) オオニガナ

(学名) *Nabalus tanakae* Franch. et Sav. ex Y.Tanaka et Ono

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】前回までの調査では生育地の報告がなく絶滅が心配されたが、今回の調査では二次メッシュで1区画1地点、個体数20程度の生育が確認された。自然遷移や管理放棄は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】谷戸湿地や湿り気のある草地に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As32481 (1986)、仮標本 (寺尾1994)、仮標本 (落合1988)。文献：落合2000 (寄居町)、高橋1991 (寄居町)、鶴ヶ島町史編さん室1990 (鶴ヶ島町)、草加市史編さん委員会1988 (草加市) 他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1778 キク科

(和名) カニコウモリ

(学名) *Parasenecio adenostyloides* (Franch. et Sav. ex Maxim.) H.Koyama

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

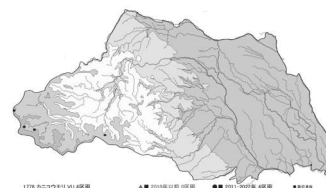
【評価所見】今回の確認個体数は500未満である。今回の調査では二次メッシュで3区画4地点の報告がある。1998年版植物誌では亜高山にかなり広く記録されている。最近シカによる食害が目立ち主な危険要因となっている。

【県内生育状況】針葉樹林の林床などに群生する。

【特記事項】標本：SMNH-As17796 (1986)、SMNH-As17795 (1986) など、仮標本多数。1998年版埼玉県植物誌では5地点から生育が報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○							



1779 キク科

(和名) コウモリソウ

(学名) *Parasenecio maximowiczianus* (Nakai et F.Maek. ex H.Hara) H.Koyama var. *maximowiczianus*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

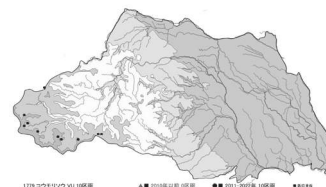
【評価所見】今回の確認個体数は500以上で、二次メッシュで5区画10地点の報告がある。1998年版植物誌では山地にかなり広く記録されているが、生育個体が著しく減少している。最近シカによる食害が目立ち、主な危険要因である。

【県内生育状況】夏緑樹林内などに群生する。

【特記事項】国内分布は東北南部から紀伊山地。標本：SMNH-As50669 (1995)、SMNH-As17870 (1987) など、仮標本多数。1998年版埼玉県植物誌では7地点から生育が報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	◎							



1780 キク科

(和名) オクヤマコウモリ

(学名) *Parasenecio maximowiczianus* (Nakai et F.Maek, ex H.Hara) H.Koyama var. *alatus* (F.Maek.) H.Koyama

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の調査では発見することができなかった。近年岩田2020の報告もあり、今後大型のコウモリソウやヨブスマソウとされる標本を再確認する必要がある。シカによる被害が主な危険要因である。

【県内生育状況】 深山の湿り気のある樹林内に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州中部の太平洋側山地に限定的。標本：仮標本（ト沢1992）、岩田標本（1996）。文献：岩田・林2020（秩父市）、岩田2005（秩父山地）、岩田ほか2000（大滝村）他。1998版埼玉県植物誌以後県内の確かな生育記録はない。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1781 キク科

(和名) アカイシコウゾリナ

(学名) *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Krylov var. *akaishiensis* Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は10個体程度である。以前に生育記録があった、大血川林道や奥秩父林道などでは確認できていない。シカによる被害が主な危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い河原や崩壊地に生育する。

【特記事項】 国内分布は南アルプスから富士山（フォッサマグナ地域）で限定的である。標本：SMNH-As18552（1964）、岩田標本73557（2004）など。文献：五十嵐・岩田2005（東大秩父演習林）、岩田2005（秩父山地）、ト沢ほか2001（大滝村）、岩田ほか2000（大滝村）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1782 キク科

(和名) アキノハハコグサ

(学名) *Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B.L.Burt

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 CR
1998 VU

全国カテゴリ

2020 EN

【評価所見】 今回の調査でも発見することができなかった。標本を確認すると1988年児玉を最後に生育の確認ができていない。道路の拡幅工事やシカの被害などが危険要因である。

【県内生育状況】 山地の道路脇のように、やや乾いた日当たりの良い所に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As49664（1988）、SMNH-As18233（1986）など。文献等でのアキノハハコグサの記録は注意が必要である。文献：荒川の自然を守る会2011（上尾市）、磯田2006（さいたま市）、岩槻市2005（岩槻市）、山下2003（小川町）他。県内の標本を見ると外来種ハハコグサ類や、秋に開花したハハコグサの誤同定が多い。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1783 キク科

(和名) コウシュウヒゴタイ

(学名) *Saussurea amabilis* Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

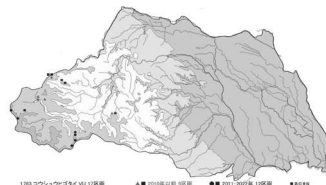
【評価所見】 今回の確認個体数は500未満で前回と同じ程度である。今回の調査では石灰岩地に比較的安定した生育が報告されている。石灰岩の採掘やロッククライミングなどの危険要因が上げられるが、シカの被害は比較的少ない。

【県内生育状況】 石灰岩の岩場に生育する。

【特記事項】 国内分布は埼玉・栃木・山梨・長野・岐阜と限定的。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1784 キク科

〔和名〕キンブヒゴタイ

〔学名〕*Saussurea kinbuensis* Nakai

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

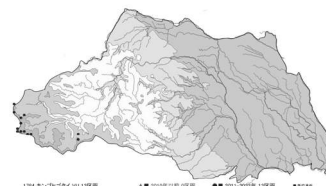
【評価所見】今回の確認個体数は1,000程度である。前回まで本県産のタカネヒゴタイやヤハズヒゴタイとされていたものを、合わせて評価した。シカ食害や自然遷移が大きな危険要因となっている。また園芸採取、踏み付けも懸念される危険要因である。

【県内生育状況】亜高山の岩礫地や県境の尾根沿いの林床に生育する。

【特記事項】キンブヒゴタイの分布は奥秩父と御坂山地に限られている（門田，2017）。以前県内でタカネヒゴタイやヤハズヒゴタイとされていたものはキンブヒゴタイと再同定された。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1785 キク科

〔和名〕ミヤコアザミ

〔学名〕*Saussurea maximowiczii* Herder

埼玉カテゴリー

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】今回の確認個体数は50未満で前回と同じ程度である。二次メッシュで2区画2地点の報告がされている。個体数は近年急激に減少しているが、自然遷移が大きな危険要因となっている。また園芸採取、動物食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】日当たりの良いやや湿った草原や夏緑樹林の林縁に生育する。

【特記事項】1998年版埼玉県植物誌では9地点から生育が報告がされている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○			



1786 キク科

〔和名〕アサマヒゴタイ

〔学名〕*Saussurea savatieri* (Franch.) Franch. ex Kadota

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 CR2011 VU
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】今回の確認個体数は100未満で前回100以上で減少傾向にある。二次メッシュでは4区画4地点で確認されている。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また他の動物食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】夏緑樹林の林縁や林床に生育する。

【特記事項】国内分布は関東周辺。標本：SMNH-As18627 (1986)、SMNH-As18626 (1984) など。文献：岩田2021（横瀬町）、岩田・林2020（小鹿野町・秩父市）、五十嵐・岩田2005（東大秩父演習林）他。1998年版埼玉県植物誌では11地点から生育が報告されている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	○					

1787 キク科

〔和名〕タカオヒゴタイ

〔学名〕*Saussurea sinuatoides* Nakai

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】今回の確認個体数は50未満で前回と同じ程度である。二次メッシュで1区画1地点の報告で変化はみられない。シカ食害は懸念される危険要因である。

【県内生育状況】樹林下に生育する。

【特記事項】国内分布は関東周辺（フォッサマグナ地域）。標本：SMNH-As32527 (1986)、SMNH-As32532 (1983) など。文献：岩田・林2021（横瀬町・ときがわ町）、岩田・林2020（横瀬町）、落合2000（寄居町）岩田ほか2000（大滝村）他。1998年版埼玉県植物誌では9地点から生育が報告されている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1788 キク科

(和名) セイタカトウヒレン

(学名) *Saussurea tanakae* Franch. et Sav. ex Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 EN
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

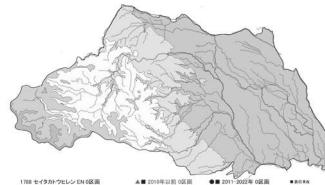
【評価所見】今回の調査でも発見することができなかった。1998年版植物誌以後の確実な記録が少ないが、絶滅したとは言いきれない。

【県内生育状況】山地の草地や夏緑樹林の林縁に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As53866 (1986)、SMNH-As32519 (1986) など。1998年版埼玉県植物誌では8地点から生育が報告されている。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1789 キク科

(和名) キクアザミ

(学名) *Saussurea ussuriensis* Maxim.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 EN
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】今回の調査でも発見することができなかった。1998年版植物誌以後の確実な記録が少ないが、絶滅したとは言いきれない。

【県内生育状況】山地の草地や夏緑樹林の林縁に生育する。

【特記事項】国内分布は東北南部以南。標本：SMNH-As32501 (1986)、SMNH-As18657 (1983) など。1998年版埼玉県植物誌では5地点から生育が報告されている。特別地域指定植物[秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1790 キク科

(和名) キオン

(学名) *Senecio nemorensis* L.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

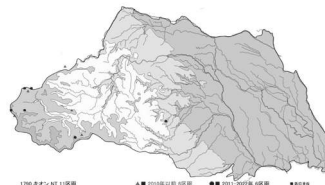
【評価所見】確認できた二次メッシュ数は5区画、個体数は1,000未満で前回の10,000未満から減少した。一部個体に採食痕があるものの、本種のみが残存している生育地もあり、シカ食害の影響は限定的と考えられる。自然遷移が大きな危険要因となっている。またシカ食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】草地に生育する。今回の調査では、登山道沿いや皆伐跡地でも確認された。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○				○			



1791 キク科

(和名) タムラソウ

(学名) *Serratula coronata* L. subsp. *insularis* (Iljin) Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

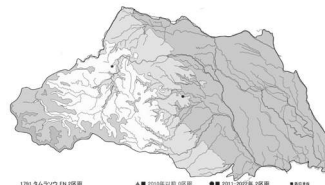
【評価所見】今回の調査報告はすべて2018年以前で、二次メッシュで2区画2地点である。近年では成熟個体の減少が顕著で、主にシカの食害が危険要因である。

【県内生育状況】草原から林間の草地に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As32589 (1984)、SMNH-As49718 (1991) など、仮標本多数。1998年版埼玉県植物誌では14地点から生育が報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○			○			



1792 キク科

〔和名〕ハバヤマボクチ

〔学名〕*Synurus excelsus* (Makino) Kitam.

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 VU2011 VU
1998 VU

全国カテゴリ

2020 なし

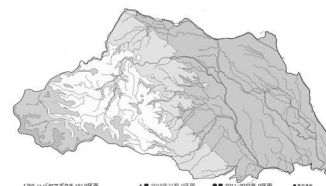
【評価所見】もともと生育個体が少なく、今回の調査でも前回と同じく発見することができなかった。1998年版植物誌以後の確実な記録がないが、絶滅したとは言い切れない。主にシカ食害が危険要因である。

【県内生育状況】山地の乾いた草地や夏緑樹林の林縁に生育する。

【特記事項】国内分布は東南北部以南。1998年版埼玉県植物誌では5地点から生育が報告されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1793 キク科

〔和名〕コウリンカ

〔学名〕*Tephrosia flammea* (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 CR2011 CR
1998 なし

全国カテゴリ

2020 VU

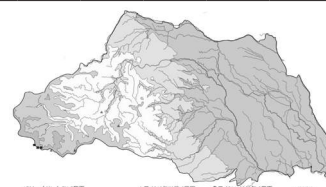
【評価所見】確認された二次メッシュ数は1区画、個体数は1,000未満で前回も1,000未満だった。前回調査時から個体数は維持していると考えられる。本種の生育地はシカ食害が激しいことに加えて、生育に適した草原が限られている。自然遷移、踏み付けが大きな危険要因となっている。またシカ食害も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】草原に生育する。

【特記事項】標本：SMNH-As18672 (1981)、SMNH-As18673 (1966) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								



1794 キク科

〔和名〕キバナコウリンカ

〔学名〕*Tephrosia furusei* (Kitam.) B.Nord.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 EN

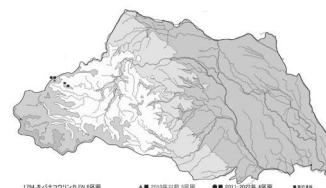
【評価所見】確認できた二次メッシュ数は2区画、地点数は4、個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。前回調査時から安定して生育していると考えられる。採食痕はあったものの、シカ食害の影響は軽微であると考えられる。石灰岩の採掘による生育地の破壊が心配される。生育地が限られており、今後も注視する必要がある。シカ食害、石灰採掘が大きな危険要因となっている。また園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】山地帯の石灰岩地に生育する。

【特記事項】国内分布は本県と群馬県の石灰岩地に限定的。本県の亜高山帯に生育していたものは、タカネコウリンカとされた。標本：SMNH-As56884 (2016)、SMNH-As52312 (2010) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園] 県内希少野生動植物種 [埼玉県希少種野生動植物の種の保護に関する条例]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1795 キク科

(和名) オカオグルマ

(学名) *Tephroseris integrifolia* (L.) Holub subsp. *kirilowii* (Turcz. ex DC.) B.Nord.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

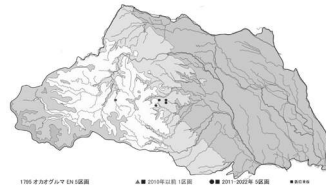
【評価所見】 今回の確認個体数は500未満で前回は100以上でやや増加している。二次メッシュで2区画3地点で前回と同じである。除草剤の使用や草地の管理放棄が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 日当たりの良いやや乾いた草地や田んぼのあぜ付近に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As32556 (1988)、SMNH-As18692 (1986) など。一部の生育地では土地所有者によって生育に配慮した管理（結実期以降に草刈を行う、株を刈り残す等）が行われ、保全が図られている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○		○			



1796 キク科

(和名) サワオグルマ

(学名) *Tephroseris pierotii* (Miq.) Holub埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 EN
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は未確認であった。今回の調査では二次メッシュで1区画1地点の報告で、個体数、集団数ともに減少傾向にある。湿地開発、土地造成が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い山間地の湿地などに生育する。

【特記事項】 標本：TI (1899, Y.Yabe: 栗橋)、SMNH-As32568 (1983)、SMNH-As32569 (1980) など。文献：日高町史編集委員会・日高町教育委員会1991(日高町)、岩田1987(秩父山系)、中澤・小川1982(都幾川町)他。1998年版埼玉県植物誌では4地点から生育が報告されている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1797 キク科

(和名) タカネコウリンカ

(学名) *Tephroseris takedana* (Kitam.) Holub埼玉カテゴリ 2024 CR 2011 CR
2005 EN 1998 なし

全国カテゴリ 2020 NT

【評価所見】 確認された二次メッシュは1区画、地点数は1、個体数は10,000未満で前回は10,000未満だった。一部個体に採食痕はあるものの開花しており、シカ食害の影響は軽微であると考えられる。県内では生育地が限られており、今後も注視する必要がある。自然遷移は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育する。

【特記事項】 国内分布は本州中部の亜高山から高山で限定的。標本：SMNH-As56665 (2016)。文献：岩田・林2020(秩父市中津川)、須田ほか2019(県内石灰岩地)、岩田2005(秩父山地)。過去の記録ではキバナコウリンカと混同されてい

た。県外では、中部地方の亜高山帯から高山帯の草地や礫地に生育する。県内のタカネコウリンカは中部山岳の個体とくらべ、やや形態的に異なる点があり、分類学的再検討が必要である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1798 キク科

(和名) オナモミ

(学名) *Xanthium strumarium* L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter埼玉カテゴリ 2024 DD 2011 VU
2005 NT 1998 なし

全国カテゴリ 2020 VU

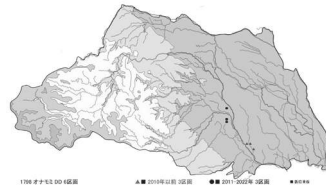
【評価所見】 過去の標本を他県産オナモミの標本と比較したが、県内では確実なオナモミの標本は確認できなかった。危険要因は外来種オオオナモミとの競合(帰化競合)が考えられる。

【県内生育状況】 荒地や河川脇の土手などに生育する。現在外来種のオオオナモミが多く、確実な生育地が確認できない。

【特記事項】 特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		



1799 ウコギ科

〔和名〕ミヤマウド

〔学名〕*Aralia glabra* Matsum.

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 前回は発見することができなかった。今回の調査では二次メッシュ1区画の報告がある。近年シカの食害が顕著で、絶滅の危険性が高い。

【県内生育状況】 林床に生育する。

【特記事項】 国内では関東、中部の山地に特産。標本：TNS79538 (1946)。文献：岩田2005 (秩父山地)、牧野・山下2003 (秩父市中津川) 等。国立公園の特別地区に生育するが、特に保護されておらず絶滅が心配される。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1800 ウコギ科

〔和名〕ウラジロウコギ

〔学名〕*Eleutherococcus hypoleucus* (Makino) Nakai

埼玉カテゴリー

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 生育地点は1地点のみで、確認できた個体数は100未満で前回も100未満だった。本種の生育地はシカ食害が激しい。現在の状況が続けば、近い将来絶滅する可能性がある。シカによる食害が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 岩場などに生育する。石灰岩地にも生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。標本：SMNH-As13660 (1987)、SMNH-As13658 (1973)、岩田 標本 71638 (2004)。文献：五十嵐・岩田2005 (東大演習林)、岩田1987 (秩父山系)、守屋1974 (三峰山) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							

1801 ウコギ科

〔和名〕オオバチドメ

〔学名〕*Hydrocotyle javanica* Thunb.

埼玉カテゴリー

2024 NT
2005 なし2011 NT
1998 なし

全国カテゴリー

2020 なし

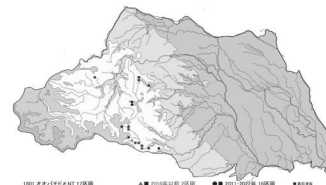
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回は500未満でやや増加している。飯能周辺の山地から二次メッシュで16区画の報告がある。森林伐採、自然遷移、踏み付けが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 湿り気のある林床に生育し、スギの植林地内に多くみられる。

【特記事項】 国内分布は関東以西。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○	◎		○			



1802 セリ科

〔和名〕ハナビゼリ

〔学名〕*Angelica inaequalis* Maxim.

埼玉カテゴリー

2024 EN
2005 EN2011 VU
1998 EN

全国カテゴリー

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は50以上からやや減少している。二次メッシュ3区画の報告がある。近年シカなどの食害が進み、成熟個体が著しく減少している。

【県内生育状況】 沢沿いでやや湿った場所に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As51803 (2008)、SMNH-As5124 (1977) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1803 セリ科

(和名) エキサイゼリ

(学名) *Apodicarpum ikenoi* Makino

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 NT

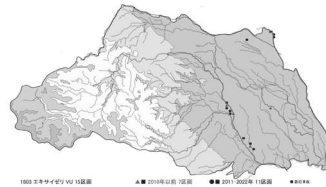
【評価所見】 今回の確認個体数は10,000未満で前回とほぼ同じである。今回の調査で比較的多くの個体数、集団数が報告されている。自然遷移、河川敷開発、河川改修、産地極限などが危険要因である。

【県内生育状況】 河川敷やその近辺のヨシ群落内に生育する。

【特記事項】 関東地方と愛知県に隔離分布するが、東京や神奈川では絶滅種とされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						◎	○	◎



1804 セリ科

(和名) ホタルサイコ

(学名) *Bupleurum longiradiatum* Turcz. var. *elatus* (Koso-Pol.) Kitag.

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 VU2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

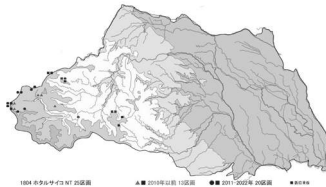
【評価所見】 今回の確認個体数は500未満で前回とほぼ同じである。シカの食害や石灰岩採掘が大きな危険要因となっている。また自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 やや乾燥した場所にみられる。県内では石灰岩地が多い。

【特記事項】 県内の石灰岩地には比較的良好にみられるが、近県では絶滅種や絶滅危惧種となっておりところが多い。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1805 セリ科

(和名) ミシマサイコ

(学名) *Bupleurum stenophyllum* (Nakai) Kitag. var. *stenophyllum*

埼玉カテゴリ

2024 EX
2005 DD2011 EX
1998 DD

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 今回の調査では生育の報告がなかった。文献等には記録があるが、守屋1987年の報告後県内の生育記録がない。

【県内生育状況】 草地に広く分布、生育する。

【特記事項】 文献：守屋1987（武甲山）、寄居町教育委員会1986（寄居町）、東京薬科大学植物研究部1977（狭山丘陵）、奥山1974（武甲山）他。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1806 セリ科

(和名) ドクゼリ

(学名) *Cicuta virosa* L.

埼玉カテゴリ

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

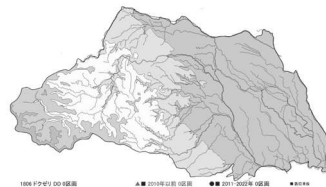
【評価所見】 前回までは文献記録のみであったが、今回2点の標本が発見され、埼玉県内にかつて生育したことが確認できた。今後生育地が見つかる可能性がある。湿地開発が主な危険要因である。

【県内生育状況】 湖沼や河川に生育する水生植物。

【特記事項】 標本はMAK036755（戸田1906）、MAK038033（飯能1926）。文献：加須市環境安全部2016（加須市）、埼玉県生態系保護協会1993（見沼地域）、日高町史編集委員会・日高町教育委員会1991（日高町）他。旧版植物誌（1962）では秩父、北埼玉、比企を除く6郡から生育するとされていた。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1807 セリ科

(和名) イブキボウフウ

(学名) *Libanotis ugoensis* (Koidz.) Kitag. var. *japonica* (H.Boissieu) T.Yamaz.

埼玉カテゴリ

2024 NT 2011 VU
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

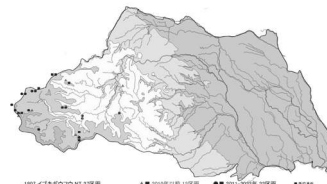
【評価所見】確認個体数は10,000未満で前回も10,000未満だった。確認個体の多くはシカの食害が及ばない岩壁の上部などだった。シカ食害、石灰岩採掘、自然遷移、森林伐採が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】日あたりのよいところに生育する。石灰岩地で多く確認された。

【特記事項】特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎	○						



1808 セリ科

(和名) オオカサモチ

(学名) *Pleurospermum uralense* Hoffm.

埼玉カテゴリ

2024 CR 2011 なし
2005 なし 1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】生育地点は1地点のみで、確認できた個体数は100未満だった。減少が著しいと考えられる。現在の状況が続くと、近い将来絶滅する可能性がある。シカによる食害が危険要因と考えられる。

【県内生育状況】

【特記事項】国内分布は中部以北。標本: SMNH-As13969 (1973)、岩田標本50028 (1997) など。文献: 岩田・林2020 (皆野町・秩父市)、須田ほか2019 (県内石灰岩地)、岩田2005 (秩父山地) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1809 セリ科

(和名) シムラニンジン

(学名) *Pterygopleurum neurophyllum* (Maxim.) Kitag.

埼玉カテゴリ

2024 EN 2011 CR
2005 CR 1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

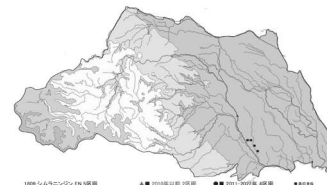
【評価所見】今回の確認個体数は1,000以上で前回は100未満であった。二次メッシュで1区画3地点の生育が報告されている。埋め立て、自然遷移、湿地開発は懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】荒川沿いの河川敷内の湿地に生育する。

【特記事項】国内分布は関東・九州北部と隔離分布。標本: SMNH-As50848 (1996)、SMNH-As43326 (1954)、MAK058610 (1888) など。生育地の一つは、さいたま市桜区サクラソウ保護区内であるが、減少傾向は著しい。群馬、東京では絶滅とされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
							○	



1810 セリ科

(和名) ヤマナシウマノミツバ

(学名) *Sanicula kaiensis* Makino et Hisauti

埼玉カテゴリ

2024 CR 2011 CR
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ

2020 EN

【評価所見】今回の確認個体数は50以下で前回は1,000未満であった。二次メッシュで1区画、成熟個体が少ない。シカやカモシカの食害や踏みつけなどが主な危険要因である。

【県内生育状況】夏緑樹林内に生育している。

【特記事項】国内分布は埼玉・山梨・長野に限定的。標本: 仮標本 (平1995)、岩田標本58375 (1999)。文献: 岩田・林2020 (秩父市)、岩田2005 (秩父山地)、岩田ほか2000 (大滝村) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1811 セリ科

(和名) ムカゴニンジン

(学名) *Sium ninsi* L.

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 CR2011 CR
1998 CR

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50以下で前回は100未満であった。過去の生育地でも発見できない場所が見られる。湿地開発や自然遷移が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 湿地や水中に生育する。

【特記事項】 標本: SMNH-As36458 (1990)、SMNH-As36462 (1984)、岩田標本64010 (2001) など。文献: 山下ほか2020 (飯能市)、木村・森廣2014 (飯能市)、岩槻市2005 (岩槻市)、木村ほか2004 (飯能市) 他。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1812 セリ科

(和名) タニミツバ

(学名) *Sium serra* (Franch. et Sav.) Kitag.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

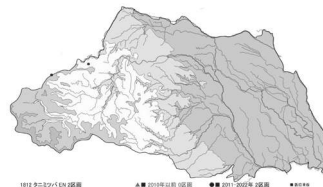
【評価所見】 今回の調査では報告がなかった。2016年以前には二次メッシュで2区画の報告があり、現在も生育している可能性は高い。湿地開発や自然遷移が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 水辺に生育する。無毛の草本。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本: TNS255692 (1969)、岩田標本63501 (2001)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1813 セリ科

(和名) ヌマゼリ (サワゼリ)

(学名) *Sium suave* Walter

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】 今回の調査では発見することができなかった。絶滅したとは言いきれない。湿地開発や自然遷移が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 主に丘陵地の池沼脇の湿地に生育する。

【特記事項】 標本: SMNH-As49929 (1988)、SMNH-As36451 (1984)、SMNH-As36450 (1983) など。古くはMAK058726 (1894)。文献: 岩槻市2006 (岩槻市)、伊奈町史編集室1993 (伊奈町)、日高町史編集委員会1991 (日高町) 他。東京、神奈川では絶滅種とされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

1814 セリ科

(和名) ミヤマウイキョウ (イワウイキョウ)

(学名) *Tilingia tachiroei* (Franch. et Sav.) Kitag.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

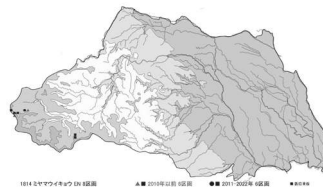
【評価所見】 確認された二次メッシュは3区画、地点数は6、個体数は10,000未満で前回は10,000未満だった。成熟個体の多くはシカ被害の及ばない岩壁などで確認された。シカ被害、自然遷移が大きな危険要因となっている。また森林伐採、園芸採取も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 岩場に生育する。県内では石灰岩地で多く確認された。

【特記事項】 国内分布は中部以北。標本: SMNH-As56663 (2016)、SMNH-As53846 (1986) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1815 ガマズミ科

〔和名〕ゴマキ（ゴマギ）

〔学名〕*Viburnum sieboldii* Miq. var. *sieboldii*

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 NT2011 NT
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

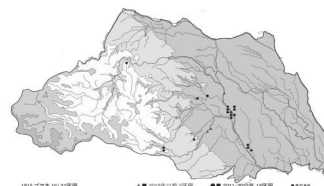
【評価所見】 今回の確認個体数は100以上で前回は100未満でやや増加している。二次メッシュは6区画と前回とあまり変化はみられない。自然遷移や森林伐採などが大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 低地から丘陵にかけての荒川・入間川などの河川敷内で、やや湿り気のある場所に生育する。

【特記事項】 国内分布は関東以西。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○		○	◎	○	



1816 スイカズラ科

〔和名〕ナベナ

〔学名〕*Dipsacus japonicus* Miq.

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

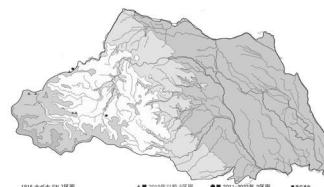
【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回も50未満で同じ程度である。二次メッシュで2区画の報告があるが、個体数は減少傾向にある。草地の管理放棄による自然遷移やシカの食害などが危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い草原に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As17114（1985）、SMNH-As17112（1981）など。1998年版埼玉県植物誌では7地点から生育が報告がされている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○	○						



1817 スイカズラ科

〔和名〕イボタヒョウタンボク

〔学名〕*Lonicera demissa* Rehder var. *demissa*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は1株だけである前回は未確認であった。二次メッシュで三国尾根の1区画1点でのみである。シカ食害や自然遷移が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 岩塊地に点在する。

【特記事項】 国内分布は関東周辺（埼玉、長野、山梨）。標本：SMNH-As16736（1986）、SMNH-As16733（1983）など。文献：岩田・林2020（秩父市）、岩田2005（秩父山地）、岩田2002（大滝村）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○								

1818 スイカズラ科

〔和名〕ニッコウヒョウタンボク

〔学名〕*Lonicera mochidzukiana* Makino var. *mochidzukiana*

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 VU2011 VU
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は50以上である。二次メッシュで3区画であったが、前回とは異なる3区画となった。武甲山の生育地では確認されなかった。いずれの地点でも個体数が極めて少なく絶滅の危険が増加している。石灰岩の採掘や自然遷移が懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 石灰岩地に点在する。

【特記事項】 標本：SMNH-As54131（2016）、SMNH-As52319（2010）など。文献：岩田・林2020（小鹿野町）、須田ほか2019（県内石灰岩地）、牧野ほか2006（小鹿野町）、五十嵐・岩田2005（東大演習林）他。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	○	○						

1819 スイカズラ科

(和名) ハヤザキヒョウタンボク

(学名) *Lonicera prae flore ns* Batalin var. *japonica* H.Hara

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 CR
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の調査では二次メッシュで1区画1地点で報告されている。以前に小鹿野町二子山の石灰岩地で報告されているが、今回の調査では不明である。森林伐採や石灰岩採掘が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 生育地は石灰岩地や夏緑樹林内に点在する。

【特記事項】 国内分布は東北南部・関東周辺。標本：SMNH-As16795 (1984)。文献：守屋1987 (武甲山)、岩田1987 (秩父山系)、守屋1983 (武甲山)、奥山1974 (武甲山) 他。過去の標本を再同定をしたが、確認できなかった。東京で生育記録があり、さらなる検討が必要である。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○				

1820 スイカズラ科

(和名) コウグイスカグラ

(学名) *Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *ramosissima*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満である。調査時はチチブヒョウタンボクとしていたが、コウグイスカグラの品種とされ母種であるコウグイスカグラとして評価した。森林伐採や石灰採掘が懸念される危険要因となる。

【県内生育状況】 生育地は石灰岩地に限られている。

【特記事項】 標本：SMNH-As16769 (1973)。チチブヒョウタンボクは現在はコウグイスカグラの品種として取り扱われており、葉長2～4cmになる点で区別されるとされる (五百川・奥山, 2017)。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
○	◎							



1821 スイカズラ科

(和名) アラゲヒョウタンボク (オオバヒョウタンボク)

(学名) *Lonicera strophophora* Franch. var. *strophophora*

埼玉カテゴリ

2024 EN
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

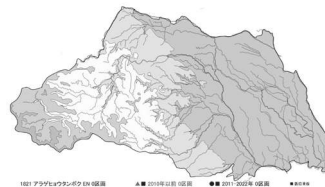
【評価所見】 今回の調査でも前回と同じく発見することができなかった。過去の標本で生育が確認されているので、さらなる調査の継続が必要である。シカの食害が主な危険要因とされる。

【県内生育状況】 岩塊地に点在する。

【特記事項】 国内では北海道南西部、本州、四国 (剣山) に分布が限定される。標本：SMNH-As16809 (1984)、SMNH-As3746 (2003) など。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地



1822 スイカズラ科

(和名) オミナエシ

(学名) *Patrinia scabiosifolia* Link

埼玉カテゴリ

2024 CR
2005 EN2011 EN
1998 EN

全国カテゴリ

2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は50未満で前回は100以上であった。二次メッシュで1区画1地点の生育地が報告されている。園芸採取、草地開発、土地の造成などが懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や管理された人里近くに生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As49558 (1990)、SMNH-As17038 (1986) など。文献：藤波ほか2021 (上尾市 消失)、川越環境ネット2021 (川越市)、加須市環境安全部2016 (加須市)、嵐山町博物館植物部会2012 (嵐山町) 他。1998年版埼玉県植物誌では18地点から生育が報告がされている。園芸品の

逸出が多く、野生種の確認が難しくなっている。特別地域指定植物 [秩父多摩甲斐国立公園]

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

1823 スイカズラ科

〔和名〕 マツムシソウ

〔学名〕 *Scabiosa japonica* Miq. var. *japonica*埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 EN
2005 VU 1998 VU

全国カテゴリ 2020 なし

【評価所見】 今回の確認個体数は500未満で前回は100以上であった。二次メッシュで5区画の生育地が報告されている。いずれもシカによる食害や園芸採取の危険があり、保護をしないといずれは絶滅が心配される。

【県内生育状況】 日当たりの良い草原に生育する。

【特記事項】 標本：SMNH-As5200（1977）、SMNH-As17115（1972）など。埼玉県県民の森では保護繁殖活動が行われている。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	○							



1824 スイカズラ科

〔和名〕 ツルカノコソウ

〔学名〕 *Valeriana flaccidissima* Maxim.埼玉カテゴリ 2024 NT 2011 NT
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

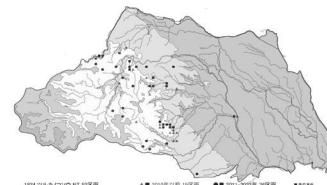
【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回とはほぼ同じであった。今回の調査でも安定した生育が確認されている。森林伐採、自然遷移、シカ食害、土地造成、道路工事などが危険要因となっている。

【県内生育状況】 木陰のやや湿り気のある林縁などに生育する。

【特記事項】 特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	◎	○	○	○		



1825 スイカズラ科

〔和名〕 キバナウツギ

〔学名〕 *Weigela maximowiczii* (S.Moore) Rehder埼玉カテゴリ 2024 VU 2011 VU
2005 VU 1998 なし

全国カテゴリ 2020 なし

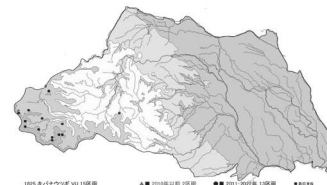
【評価所見】 確認地点数は13、個体数は1,000未満で前回の100未満から調査精度の向上により増加した。確認個体の多くは岩壁斜面などで確認された。シカ食害、自然遷移が大きな危険要因となっている。

【県内生育状況】 林道脇のブロックの隙間や岩壁などに生育している。

【特記事項】 国内分布は中部以北。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
◎	○							



1826 スイカズラ科

〔和名〕 イワツクバネウツギ

〔学名〕 *Zabelia integrifolia* (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.埼玉カテゴリ 2024 EN 2011 CR
2005 EN 1998 EN

全国カテゴリ 2020 VU

【評価所見】 今回の確認個体数は1,000以上で前回とはほぼ同じであった。二次メッシュは3区画6地点とやや増加した。森林伐採、石灰岩採掘、シカ食害などが大きな危険要因となっている。また自然遷移も懸念される危険要因である。

【県内生育状況】 生育地は石灰岩地に限られている。

【特記事項】 国内分布は本州中西部・四国・九州の石灰岩地に限定的。標本：SMNH-As16675（1983）、SMNH-As16672（1960）など。特別地域指定植物〔秩父多摩甲斐国立公園〕

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
	◎	○						

